

載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ開覽ヲ拒ミタルトキ

八 本法ニ違反シ組合員ノ持分ヲ拂戻シタルトキ

九 本法ニ違反シ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

十 本法ニ違反シ破産ノ宣告ヲ請求セザルトキ

十一 本法ニ違反シ出資一口ノ金額若ハ保證金額ヲ減少シ、第三十一條ノ規定ニ依リ準用スル産業組合法第五十八條ノ責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合ノ合併ヲ爲シタルトキ

十二 本法ニ違反シ公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十三 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ

十四 法令又ハ定款ニ違反シ剩餘金ヲ處分シタルトキ

十五 組合ノ目的ニ非ザル營利事業ヲ爲シタルトキ

第四十四條 第六條第二項ノ規定（第四

十條、第四十一條第四項及第四十二條第四項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十五條 第五條ノ規定（第四十條、第四十一條第四項及第四十二條第四項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

法人又ハ人ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ貸家又ハ貸室ノ經營ニ關シ前項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十六條 前條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ期スル未成年ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十七條 正當ノ理由ナクシテ第三十五條第一項ノ規定（第四十條、第四十一條第四項及第四十二條第四項ノ規定

ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル當該官吏ノ職務又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 貸家組合ノ理事、監事又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十九條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第五十條 第四十八條ニ掲グル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附 則

第五十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 本法施行ノ際貸家組合ニ非ズシテ貸家組合ナル名稱ヲ用フル者ハ本法施行後六月以内ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十三條 第四十四條ノ規定ハ前條ノ期間内之ヲ前條ニ掲グル者ニ適用セズ

第五十四條 登録稅法中左ノ通改正ス

第十九條中「第十一號、」ノ下ニ「第十一號ノ三、」ヲ加フ

同條第七號中「又ハ自動車運送事業組合聯合會」ヲ「自動車運送事業組合聯合會、貸家組合、貸家組合聯合會、貸室組合又ハ貸室組合聯合會」ニ、「又ハ自動車交通事業法」ヲ「自動車交通事業法又ハ貸家組合法」ニ改ム

同條第十一號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

十一ノ二 貸家組合又ハ貸室組合カ

貸家又ハ貸室用建物ノ供給ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

十一ノ三 貸家若ハ貸室用建物又ハ其ノ用地ニ付貸家組合員又ハ貸室組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記

第五十五條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第四條第一項第十二號中「又ハ自動車

運送事業組合聯合會」ヲ「自動車運送事業組合聯合會、貸家組合、貸家組合聯合會、貸室組合又ハ貸室組合聯合會」ニ改ム

第五十六條 特別法人稅法中左ノ通改正ス

第二條第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一ノ二 貸家組合、貸家組合聯合會、貸室組合及貸室組合聯合會

【參照】

明治三十二年三月十日法律第五十四號印紙稅法抄

第四條第一項

左ニ掲タル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一册一年以内ノ附込ニ對シ左ノ印紙稅ヲ納ムハシ

八 釣束手形

九 爲替手形

十 銀行預金證書

十一 産業組合又ハ産業組合聯合會ノ發スル貯金證書

十二 産業組合聯合會、漁業組合、漁業組合聯合會、商工組合中央金庫、工業組合、工業組合聯合會、工業小組合、商業組合、商業組合聯合會、商業小組合、貿易組合、貿易組合聯合會、自動車運送事業組合又ハ自動車

運送事業組合聯合會ノ發スル出資證券

十三 船荷證券

十四 運送貨物引換證券

十五 倉庫證券

十六 保險證券

十七 株券

十八 債券

十九 相互保險會社ノ發スル基金證券

二十 株式申込證券

二十一 社債申込證券

二十二 地上權、永小作權又ハ地役權ニ關スル證書

二十三 使用貸借、質貸借、厚借、寄託又ハ定期金ニ關スル證書

二十四 信託行爲ニ關スル證書

二十五 無差ニ關スル證書

二十六 定款又ハ組合契約書

二十七 權利ノ變更ニ關スル證書

二十八 追認又ハ承認ニ關スル證書

二十九 受取書

三十 質權、抵當權ニ關スル證書

三十一 前各號以外ノ證書

三十二 預金通帳

昭和十五年三月二十日法律第二十六號特別法人觀法抄

第二條 本法ニ於テ特別ノ法人トハ左ニ掲グル法人ヲ謂フ

（左記略ス）

住宅管團法

(昭和十六年三月七日公布)
法律第四十六號四月七日施行

第一章 總則

第一條 住宅管團ハ勞務者其ノ他庶民ノ住宅ノ供給ヲ圖ルコトヲ目的トス
第二條 住宅管團ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク
住宅管團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得
第三條 住宅管團ノ資本金ハ一億圓トス
第四條 政府ハ一億圓ヲ住宅管團ニ出資スベシ
政府ハ土地ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得
第五條 住宅管團ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ
一 目的
二 名稱
三 事務所ノ所在地
四 資本金額及資産ニ關スル事項
五 役員及會議ニ關スル事項

六 業務及其ノ執行ニ關スル事項
七 住宅債券ノ發行ニ關スル事項
八 會計ニ關スル事項
九 公告ノ方法
十 定款變更ノ方法
定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得
第六條 住宅管團ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
第七條 住宅管團ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ
北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ住宅管團ノ事業、建物ノ建設若ハ取得又ハ土地ノ取得ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ住宅管團ノ事業ニ對シテハ特別ノ事情ニ基キ內務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第八條 住宅管團ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第九條 住宅管團ニ非ザル者ハ住宅管團

ナル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ
第十條 民法第四十四條、第五十條、第五十四條、第五十五條及第五十七條並ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ規定ハ住宅管團ニ之ヲ準用ス
第二章 役員
第十一條 住宅管團ニ理事長副理事長各一人、理事四人以上及監事二人以上ヲ置ク
理事長ハ住宅管團ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス
副理事長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ住宅管團ヲ代表シ理事長ヲ輔佐シテ住宅管團ノ業務ヲ掌理ス
副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ住宅管團ヲ代表シ理事長及副理事長ヲ輔佐シテ住宅管團ノ業務ヲ掌理ス
理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ理事長及副理事長共ニ事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長及副理事長共ニ缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
監事ハ住宅管團ノ業務ヲ監査ス

第十二條 理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ズ

第十三條 理事長、副理事長及理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ從タル事務所ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得
第十四條 理事長、副理事長及理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第十五條 住宅管團ニ評議員若干人ヲ置キ主務大臣之ヲ命ズ
評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得
評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス
第三章 業務
第十六條 住宅管團ハ左ノ業務ヲ行フ
一 住宅ノ建設及經營
二 住宅ノ建設及經營ノ受託
三 一團地ノ住宅ノ建設又ハ經營ノ場

合ニ於ケル水道、乗合自動車、市場

食堂、浴場、保育所、授産場、集會所其ノ他ノ施設ノ建設及經營
四 住宅ノ建設ノ爲ニスル資金ノ貸付
五 住宅ノ賣買及賃借ノ仲介
六 前各號ノ業務ニ附帶スル事業
第十七條 住宅管團ハ其ノ住宅及前條第三號ノ施設ノ用ニ充ツル爲ニ必要ナル土地又ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス
第一項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用シタル土地又ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ處分及管理ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十八條 北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ所有ニ屬スル土地ハ隨意契約ニ依リ住宅管團ニ之ヲ讓渡又ハ貸付スルコトヲ得
第四章 住宅債券
第十九條 住宅管團ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ住宅債券ヲ發行スルコトヲ得
第二十條 住宅債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又

ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

住宅債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得
第二十一條 住宅管團ハ住宅債券借換ノ爲一時第十九條ノ制限ニ依ラズ住宅債券ヲ發行スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ住宅債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月以内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊住宅債券ヲ償還スベシ
第二十二條 政府ハ住宅債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得
第二十三條 住宅債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得
第二十四條 住宅管團ニ於テ住宅債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
第二十五條 住宅債券ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス
第二十六條 住宅債券ノ所有者ハ住宅管團ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先テテ自己ノ債券ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス
前項ノ規定ハ民法上一般ノ先取特權

住宅管團法施行期日ノ件

(昭和十六年四月五日公布
勅令第三百九十九號)

住宅管團法ハ昭和十六年四月七日ヨリ之ヲ施行ス

住宅管團法施行令

(昭和十六年四月五日公布
勅令第四百四號四月七日施行)

第一章 登記

- 第一條 住宅管團ノ設立ノ登記ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル日ヨリ二週間以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第二條 設立ノ登記ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス
 - 一 目的
 - 二 名稱
 - 三 事務所
 - 四 資本金額及拂込資本金額
 - 五 理事長、副理事長、理事及監事ノ氏名及住所
 - 六 副理事長又ハ理事ノ代表權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ其ノ制限

七 公告ノ方法

住宅管團ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後一週間以内ニ從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第二條

住宅管團ノ成立後從タル事務所ヲ設ケタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間以内ニ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ前條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

主タル事務所又ハ從タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ從タル事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第三條 住宅管團ガ主タル事務所ヲ移轉シタルトキハ二週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

住宅管團ガ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四

週間以内ニ第一條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス但シ同一ノ登記所ノ管轄區域ニ於テ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル

第四條

第一條第二項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五條

住宅管團法第十三條ノ代理人ヲ選任シタルトキハ二週間以内ニ之ヲ置キタル事務所ノ所在地ニ於テ代理人ノ氏名、住所及代理人ヲ置キタル事務所ノ代理人ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ其ノ制限ヲ登記スルコトヲ要ス

登記シタル事項ノ變更及代理人ノ代理權ノ消滅ニ付亦同ジ

第六條

住宅債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第二十二條ノ拂込アリタルトキ又ハ第二十四條ノ賣出期間満了シタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ住宅債券ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二章

收用又ハ使用シタル土地又ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ處分及管理

第十七條

住宅管團ハ住宅管團法第十七條第一項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用シタル土地ヲ其ノ土地ノ上ニ存スル住宅又ハ施設ト共ニ非ザレバ讓渡又ハ貸付スルコトヲ得ズ但シ厚生大臣ノ認可ヲ受ケタルトキ又ハ收用シタル土地ニ付其ノ收用ノ時期ヨリ二十年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

住宅管團法第十七條第一項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ヲ其ノ土地ノ上ニ存スル住宅又ハ施設ト共ニ住宅管團ヨリ讓渡スル場合ニ於テハ其ノ讓渡ハ土地收用法第六十六條ノ規定ノ適用ニ付其ノ土地ヲ不用ニ歸セシムルモノニ非ザルモノトス其ノ讓受ケタル者ガ住宅管團ニ其ノ土地ヲ讓渡スル場合ニ於テ其ノ讓渡ニ付亦同ジ

第十八條 前條ノ規定ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利ニシテ住宅管團法第十七條第一項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用シタルモノニ之ヲ準用ス

第三章 住宅債券

前項ノ登記ニハ第十九條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル事項ヲ掲グルコトヲ要ス

第四條ノ規定ハ第一項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第七條

登記スベキ事項ニシテ厚生大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第八條

登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ運轉ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第九條

住宅管團ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

各登記所ニ住宅管團登記簿ヲ備フ

第十條

設立ノ登記ハ理事長、副理事長、理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ場合ヲ除クノ外本令ニ依ル登記ハ理事長ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第十一條 設立登記ノ申請書ニハ定款、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面及ニ理事長、副理事長、理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十二條 住宅管團法第十三條ノ代理人

ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ代理人ノ選任ヲ證スル書面及代理人ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ其ノ制限ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十三條 住宅債券ノ登記ノ申請書ニハ住宅債券ノ引受ヲ證スル書面、住宅債券申込證及住宅債券ニ付第二十二條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面又ハ第二十四條ノ賣出期間内ニ於テ賣上ゲタル住宅債券ノ總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十四條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他第一條第二項ニ掲グル事項ノ變更ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十五條 前條ノ規定ハ第五條ノ規定ニ依リ登記シタル事項ノ變更及住宅管團法第十三條ノ代理人ノ代理權ノ消滅並ニ住宅債券ニ關スル登記事項ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十六條 非訟事件手續法第四百二十二條乃至第四百五十一條ノ六及第四百五十四條乃至第四百五十七條ノ規定ハ本令ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス

第十九條 住宅債券ノ募集ニ應ゼントスル者ハ住宅債券申込證ニ通シ其ノ引受クベキ住宅債券ノ數及住所ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

住宅債券申込證ハ理事長之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 住宅債券ノ名稱
- 二 住宅債券ノ總額
- 三 各住宅債券ノ金額
- 四 住宅債券ノ利率
- 五 住宅債券償還ノ方法及期限
- 六 利息支拂ノ方法及期限
- 七 住宅債券發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
- 八 住宅債券ノ資本金額及拂込資本金額
- 九 舊住宅債券借換ノ爲住宅債券法第十九條ノ制限ニ依ラズ住宅債券ヲ發行スルコトキハ其ノ旨
- 十 前ニ住宅債券ヲ發行シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額

住宅債券發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ應募者ハ住宅債券申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十條 前條ノ規定ハ契約ニ依リ住宅

債券ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セズ住宅債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ自ラ住宅債券ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦同ジ

第二十一條 住宅債券ノ應募總額ガ住宅債券申込證ニ記載シタル住宅債券ノ總額ニ達セザルトキト雖モ住宅債券ヲ成立セシムル旨ヲ住宅債券申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ住宅債券ノ總額トス

第二十二條 住宅債券ノ募集ガ完了シタルトキハ理事長ハ遲滞ナク各住宅債券ニ付其ノ全額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第二十三條 住宅債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ自己ノ名ヲ以テ住宅債券ノ爲ニ第十九條第二項及前條ニ定ムル行爲ヲ爲スコトヲ得

住宅債券募集ノ委託ヲ受ケタル會社ニ以上アルトキハ前項ノ行爲ハ共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十四條 賣出ノ方法ニ依リ住宅債券ヲ發行セントスルトキハ理事長ハ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一 賣出期間

二 住宅債券賣出ノ價額

三 第十九條第二項第一號乃至第六號及第八號乃至第十號ニ掲グル事項

四 第二十五條ニ規定スル事項

第二十五條 賣出期間内ニ賣上ゲタル住宅債券ノ總額ガ前條ノ規定ニ依リ公告シタル住宅債券ノ總額ニ達セザルトキハ其ノ賣上總額ヲ以テ住宅債券ノ總額トス

第二十六條 住宅債券ハ全額ノ拂込アリタル後ニ非ザレバ之ガ證券ノ發行ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十七條 住宅債券ニハ第十九條第二項第一號乃至第六號ニ掲グル事項及證券番號ヲ記載シ理事長之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

賣出ノ方法ニ依リ發行スル住宅債券ニハ第十九條第二項第二號ニ掲グル事項ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十八條 理事長ハ主タル事務所ニ住宅債券原簿ヲ備置クコトヲ要ス

債權者ハ業務時間内何時ニテモ住宅債券原簿ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條 住宅債券原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 住宅債券ノ數及番號

二 住宅債券ノ證券發行ノ年月日

三 第十九條第二項第二號乃至第六號ニ掲グル事項

住宅債券ヲ記名ト爲シタルトキハ前項ニ掲グル事項ノ外其ノ住宅債券ノ所有者ノ氏名及住所並ニ取得ノ年月日ヲ住宅債券原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三十條 記名住宅債券ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ住宅債券原簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ證券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ住宅債券其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

記名住宅債券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ質權者ノ氏名及住所ヲ住宅債券原簿ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ住宅債券其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十一條 住宅債券應募者ニ對スル通知又ハ催告ハ住宅債券申込證ニ記載シタル其ノ住所ニ、其ノ者ガ別ニ其ノ住所ヲ住宅債券ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛ツルヲ以テ足ル未ダ住宅債券ノ證券ノ發行ヲ爲スニ至ラザル場合ニ於テ住宅債券權利者ニ對スル通知

又ハ催告ニ付亦同ジ

記名住宅債券ノ所有者ニ對スル通知又ハ催告ハ住宅債券原簿ニ記載シタル其ノ住所ニ、其ノ者ガ別ニ其ノ住所ヲ住宅債券ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前二項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スベカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

無記名住宅債券ノ所有者ニ對スル通知又ハ催告ハ公告ノ方法ニ依ルコトヲ得

第三十二條 無記名住宅債券ヲ償還スル場合ニ於テ欠缺セル利札アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ既ニ支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ト引換ニ控除金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第四章 積立金

第三十三條 住宅債券ハ每事業年度ニ於ケル剩餘金中ヨリ左ノ積立金ヲ積立ツルコトヲ要ス

- 一 普通積立金
- 二 特別積立金

三 職員退職給與積立金

第三十四條 普通積立金ハ資本ノ缺損ノ填補ニ充ツ

普通積立金ノ積立ハ每事業年度ニ於テ剩餘金ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ但シ普通積立金ノ額ガ資本ノ四分ノ一ノ額ニ達シタルトキハ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第三十五條 特別積立金ハ災害等ニ因リテ生ズルコトアルベキ特別ノ損失ノ填補ニ充ツ

特別積立金ノ積立ハ每事業年度ニ於テ剩餘金ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第三十六條 職員退職給與積立金ハ之ヲ職員退職給與金ノ資ニ充ツ

職員退職給與積立金ノ積立ハ每事業年度ニ於テ剩餘金ノ二十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第三十七條 特別積立金及職員退職給與積立金ハ評議員ニ諮問シテ之ヲ一時他ノ目的ニ使用スルコトヲ得

第五章 雜則

第三十八條 厚生大臣ハ住宅債券法第三十五條ノ規定ニ依リ事業計畫ニ付認可ヲ爲サントスル場合ニ於テ其ノ事業ガ

都市計畫ニ影響スルコトアルベシト認
メラルトキハ内務大臣ニ協議スベシ
附 則
本令ハ住宅管國法施行ノ日ヨリ之ヲ施行
ス

借地法中改正法律借家法中改正法律

〇國務大臣(柳川平助君) 只今議題トナ

リマシタ借地法中改正法律案及ビ借家法
中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ御説明申上
ゲマス
近來土地、建物ノ價格ガ漸次昂騰シ、
又借地、借家ヲ求ムル者ガ次第ニ増加致
シマシタ關係上、借地ニ付テ申シマス、
地主ノ中ニハ其ノ土地ヲ他ニ利用スル必
要カラ、借地契約ノ更新ヲ承諾シナイト
云フヤウナ者モ出テ參リマシタ、是ガ爲
メ借地人ハ建物ヲ他ニ移轉スルカ、或ハ
地主ニ買取ヲ求ムルヨリ外ニ途ガナイト
云フ事應ラ生ズルニ至リマシタ、又借家
ニ付テ申シマス、家主ノ中ニハ或ハ期
間満了ノ際契約ノ更新ヲ拒絶シ、或ハ解
約ノ申入ヲナシテ、借家人ニ明渡ヲ求メ、
其ノ建物ヲ他ニ有利ナ方面ニ利用スル向
ガ少クナイト云フ狀態ト相成リマシタ、

斯様ナ傾向ハ事變以來一層其ノ度ヲ加ヘ
大キナ社會問題トナツテ居リマシタ、到
底傍觀スルヲ得ナイノデアリマス、勿論
借地、借家ノ總數ヨリ申セバ、種メテ少數
ノモノデハゴザイマスガ、住宅問題ハ國
民特ニ都市生活者ノ重要ナル問題デアリ
マスノデ、之ヲ放置スルヲ許サナイノデ
アリマス、ソレデアリマスカラ借地、借
家關係ヲ適當ニ調整致シマシテ、無用ナ
ル争ヒヲ避ケル爲ニ、更新ノ拒絶及ビ解
約ノ申入ニ付キ、制限ヲ加ヘントスルノ
デアリマス、即チ地主又ハ家主ハ、自ら
使用スルコトヲ必要トスル場合、其ノ他
正當ノ事由アル場合デナケレバ、更新ノ
拒絶モ、解約ノ申入モ許サヌコトトシ、
之ニ關聯スル二、三ノ條文ヲ整理シタノ
ガ本案デアリマス、勿論本改正案デハ善
良ナル地主ヤ家主ヲ抑制スルト云フ趣旨
ハ毛頭ナク、又惡質ナル借地人ヤ借家人
ヲ保護スルノ趣旨モアリマセヌ、唯賃料
滞納等ノ債務不履行ノナイ借地人ヤ借家
人ガ、單ナル更新拒絶、又ハ解約ノ申入
ニ依リ、建物ヲ失ヒ、住居ヲ追立テラレ
ルコトヲ防止セントスルニ外ナラヌノデ
アリマシテ、賃料ノ滞納アル場合ニ於キ

借地法中改正法律

(昭和十六年三月十日公布
法律第五十五號即日施行)

借地法中左ノ通改正ス
第四條 借地權消滅ノ場合ニ於テ借地權
者カ契約ノ更新ヲ請求シタルトキハ建
物アル場合ニ限り前契約ト同一ノ條件
ヲ以テ更新ノ借地權ヲ設定シタルモノト
看做ス但シ土地所有者カ自ら土地ヲ使
用スルコトヲ必要トスル場合其ノ他正
當ノ事由アル場合ニ於テ遲滞ナク異議

チリシトキハ前契約ト同一ノ條件ヲ以テ更新ノ借地
權ヲ設定シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ前
條第一項ノ規定ヲ適用ス
借家法中左ノ通改正ス
第一條ノ二 建物ノ賃貸人ハ自ら使用ス
ルコトヲ必要トスル場合其ノ他正當ノ
事由アル場合ニ非サレハ賃貸借ノ更新
ヲ拒ミ又ハ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得
ス
第二條 當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メタ
ル場合ニ於テ當事者カ期間満了前六月
乃至一年內ニ相手方ニ對シ更新拒絶ノ
通知又ハ條件ヲ變更スルニ非サレハ更
新セザル旨ノ通知ヲ爲ササルトキハ期
間満了ノ際前賃貸借ト同一ノ條件ヲ以
テ更新ノ賃貸借ヲ爲シタルモノト看做ス
前項ノ通知ヲ爲シタル場合ト雖モ期間
満了ノ後賃貸人カ建物ノ使用又ハ收益
ヲ繼續スル場合ニ於テ賃貸人カ遲滞ナ
ク異議ヲ述ヘサリシトキ亦前項ニ同シ
第三條第二項ヲ削リ同條中「前條」ヲ「前

借家法中改正法律

(昭和十六年三月十日公布
法律第五十六號即日施行)

條第二項」ニ改ム
第三條ノ二 一年未滿ノ期間ノ定アル賃
貸借ハ之ヲ期間ノ定ナキモノト看做ス
第四條第一項中「解約申入」ノ上ニ「賃
貸借ノ期間満了又ハ」ヲ加フ
第六條中「前五條」ヲ「前七條」ニ改ム
附 則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法ハ本法施行前ニ爲シタル建物ノ賃貸
借ニ付亦之ヲ適用ス
第一條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前ニ解
約ノ申入アリタル場合ニモ亦之ヲ適用ス
但シ本法施行前既ニ借家法第三條第一項
ノ期間ヲ經過シタル場合ハ此ノ限ニ在ラ
ズ

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法ハ本法施行前ニ設定シタル借地權ニ
付亦之ヲ適用ス

附 則

大正十年四月八日法律第四十九號借地法抄録
第四條 借地權消滅ノ場合ニ於テ建物アルトキハ借
地權者ハ契約ノ更新ヲ請求スルコトヲ得
土地所有者カ契約ノ更新ヲ欲セサルトキハ時價ヲ
以テ建物其ノ他借地權力權限ニ因リテ土地ニ附屬
セシメタル物ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ
得
第六條 借地權者借地權ノ消滅後土地ノ使用ヲ繼續
スル場合ニ於テ土地所有者カ遲滞ナク異議ヲ述ヘ

本法施行ノ際現ニ存スル建物ノ賃貸借ニ
シテ本法施行後一年內ニ其ノ期間満了ス
ベキモノニ付當事者ガ其ノ期間満了前一
年內ニ相手方ニ對シテ爲シタル更新拒絶
ノ通知又ハ條件ヲ變更スルニ非ザレバ更
新セザル旨ノ通知ニ第二條第一項ノ期間
內ニ爲サザルモノト雖モ之ヲ同條同項ノ
期間內ニ爲シタルモノト看做ス
前項ノ場合ニ於テ賃貸借ガ期間ノ満了ニ
因リ終了シタルトキハ第四條ノ改正規定

「拘ラズ轉貸借モ亦終了ス」

【参照】

大正十年四月八日法律第五十號借家法抄録

第二條 貸借ノ期間満了ノ後貸借人カ建物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ貸借人カ遺留ナク其ノ旨ヲ通知スルコトキハ前貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ貸借ヲ爲シタルモノト看做ス
第三條 貸借人ノ解約申入ハ六月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
六月未滿ノ期間ノ定ムル貸借ハ之ヲ期間ノ定ナキモノト看做ス
前條ノ規定ハ貸借力解約申入ニ因リテ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス
第四條 第一項
解約申入ニ因リテ終了スヘキ轉貸借アル場合ニ於テ貸借力終了スヘキトキハ貸借人ハ轉借人ニ對シ其ノ旨ヲ通知スルコトキハ其ノ旨ヲ了ラシメテ轉借人ニ對抗スルコトヲ得ス
第六條 前五條ノ規定ニ反スル特約ニシテ貸借人ニ不利ナルモノハ之ヲ爲ササルモノト看做ス

借地法、借家法及借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

(昭和十六年三月八日公布 勅令第二百一號)

借地法、借家法及借地借家調停法ハ昭和十六年三月十日ヨリ内地ノ内未ダ之ヲ施行セザル地區及樺太ノ全地區ニ之ヲ施行ス

司法

民法中改正法律案外二件

提案理由

○國務大臣(柳川平助君) 只今議題ニナリマシタ民法中改正法律案及ビ非訟事件手續法中改正法律案ニ付キマシテ提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲマス、現行民法ニ於キマシテハ、家族ハ戸主ノ意ニ反シテ其ノ居所ヲ定ムルコトヲ得ズ、若シ家族ガ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラザル時ハ、戸主ハ之ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ、自己ノ指定セル場所ニ居所ヲ移スベキ旨ヲ催告シ、家族ガ之ニ應ゼザル時ハ之ヲ離シ、其ノ家ヨリ除クコトガ出來ルコトニ相成ツテ居所ノデアリマス、此ノ離籍ハ極メテ重大ナル制裁デアリマシテ、一家統卒ノ必要上已ムヲ得ザル場合ニ於テノミ之ヲ行フベキコトハ勿論デアリマスガ、實際ニ於キマシテハ、是ガ不當ノ目的ヲ以テ濫用セラレルコトガ往々アルノデアリマシテ、爲ニ忌ムベキ紛争ヲ惹起スルガ如キ事例ガ、近時特ニ著シク増加

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【参照】

明治三十一年六月二十日法律第九號民法第四編第五編抄録
第七百四十九條 家族ハ戸主ノ意ニ反シテ其居所ヲ定ムルコトヲ得ス
家族力前項ノ規定ニ違反シテ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラザル時ハ戸主ハ之ニ對シテ催告ノ義務ヲ負ル

前項ノ場合ニ於テ戸主ハ相當ノ期間ヲ定メ、指定シタル場所ニ居所ヲ移スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ家族力其催告ニ應ゼサルトキハ戸主ハ之ヲ居所スルコトヲ得但シ其家族力未成年者ナルトキハ此限ニ在ラス

非訟事件手續法中改正法律

(昭和十六年三月三日公布 法律第二十二號即日施行)

非訟事件手續法中左ノ通改正ス
目錄及第二編中「第六章 離居、廢家、子ノ懲戒、家督相続人及ヒ親族會ニ關スル事件」ヲ「第六章 離籍、隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相続人及ヒ親族會ニ關スル事件」ニ改ム
第二編第六章中第九十條ノ前ニ左ノ一條ヲ加フ

民法中改正法律

(昭和十六年三月三日公布 法律第二十二號即日施行)

民法中左ノ通改正ス
第七百四十九條第三項中「若シ家族力其催告ニ應ゼサルトキハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得」ヲ「若シ家族力正當ノ理由ナクシテ其催告ニ應ゼサルトキハ戸主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ離籍スルコトヲ得」ニ改ム
附 則

附 則

改シマシタコトハ、甚ダ遺憾トスル所デアリマス、此ノ民法中改正法律案ハ新ノ如キ弊害ヲ防止スル爲メ、家族ガ正當ノ理由ナクシテ戸主ノ居所ヲ移轉ノ催告ニ應ゼザル場合ニ、戸主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ離籍スルヲ得ルモノト改メ、即チ果シテ右正當ノ理由アリヤ否ヤニ付キ先ヅ裁判所ノ適正ナル判斷ヲ受ケシメントスルモノデアリマス
次ニ非訟事件手續法中改正法律案ハ、右民法ノ改正ニ伴ヒマシテ、右離籍ノ許可ニ關スル手續規定ヲ同法中ニ設ントスルモノデアリマス、何卒御審議ノ上本案ニ對シ御協賛ヲ與ヘラレシコトヲ切望致ス次第デアリマス
次ニ戸籍法中改正法律案ニ付キマシテ其ノ提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲマス、今次事變勃發以來戸籍事務ハ著シク繁忙ノ度ヲ加ヘ特ニ諸般ノ身分證明ノ用ニ供スル爲メ、戸籍ノ原本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スル件數ガ年毎ニ激増致シマシテ、全國各地ノ戸籍吏員ハ其ノ處理ニ忙殺セラレ、延イテ是ガ處理ニ迅速ヲ缺キマシテ一般國民ニ迷惑ヲ及ボスガ如キコト少カラザルハ、甚ダ遺憾ニ存ズル次第デアリ

戸籍法中改正法律

(昭和十六年三月二十日公布
法律第七十五號即日施行)

第八十九條ノ二 離婚ノ許可ハ離婚ヲ爲
サントスル戸主ノ住所地ノ區裁判所ノ管
轄トス
裁判所ハ裁判ヲ爲ス前離婚セラレントス
ル家族ヲ審訊スルコトヲ要ス
離婚ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ前
項ノ家族ニ限リ即時抗告ヲ爲スルコトヲ
得
抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準
用ス

附 則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】

明治三十一年六月二十法律第十四號非訟事件手
續法抄録
第七十八條 抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ關
シタル諸事ノ費用ニ付テハ申請人及ヒ抗告人ヲ當
時管下管外ノ民事訴訟法第八十九條ノ規定ニ從ヒ
テ其負擔ヲ定ム

戸籍法中左ノ通改正ス
第十四條第四項ヲ第五項トシ同項中「原
本ト相違ナキ旨」ノ下ニ「及ヒ請求ニ因
リ除籍者ニ關スル記載ノ謄寫ヲ省略シタ
ルトキハ其旨一ヲ加ヘ同條第三項ノ次ニ
左ノ一項ヲ加フ
謄本ハ請求ニ因リ除籍者ニ關スル記載
ノ謄寫ヲ省略シテ之ヲ作ルコトヲ得
第十四條ノ二 戸籍ノ謄本又ハ抄本ノ記
載事項ニ變更ナキコトノ證明ヲ受ケン
トスル者ハ手数料ヲ納付シテ之ヲ請求
スルコトヲ得
前條第二項、第三項及ヒ第五項ノ規定
ハ前項ノ場合之ヲ準用ス
第十四條ノ三 戸籍ニ記載シタル事項ニ
付キ證明ヲ受ケントスル者ハ手数料ヲ
納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得
第十四條第二項、第三項及ヒ第五項ノ
規定ハ前項ノ場合之ヲ準用ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】

大正三年三月三十法律第二十六號戸籍法抄録
第十四條 戸籍簿ヲ閱覽シ又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄
録ノ交付ヲ受ケントスル者ハ手数料ヲ納付シテ之
ヲ請求スルコトヲ得
手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ送付
ヲ請求スルコトヲ得
市町村長ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ前二項ノ請
求ヲ拒ムコトヲ得此場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨
ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス
謄本又ハ抄本ハ市町村長之ヲ作リ原本ト相違ナキ
旨ヲ附記シ且之ニ職氏名ヲ印シ職印ヲ捺捺スルコ
トヲ要ス

刑法中改正法律案

一 提案理由

○國務大臣(櫻川平助君) 只今議題トナ
リマシタル刑法中改正法律案ノ提案理由ヲ
申述ベマシ
現行刑法ハ施行後相當長年月ヲ經過シ
其ノ後ノ人心ノ趨向、犯罪ノ情勢、其ノ
他社會ノ實情ニ鑑ミマシテ、急速ニ改正
ヲ要スル部分ガアルノデアリマス、即チ
益々官紀ノ肅正及ヒ公務ノ執行ノ適切ヲ
期シ、又人心ノ惑亂、經濟上ノ混亂ヲ誘
發スルコトヲ防止シ、以テ治安ノ確保ヲ

圖ル等ノ爲ニ、規定ヲ改正又ハ新設スル
ノ必要ガアルノデ、本案ヲ提出致シマシ
タ次第デアリマス、何卒慎重御審議ノ上
速カニ御協賛アラント切望致シマス
(昭和十六年二月二十日 衆議院)

刑法中改正法律

(昭和十六年三月十二日公布
法律第六十一號三月二十日施行)

刑法中左ノ通改正ス
目次中「第七章 犯人保護及ヒ證據湮滅
ノ罪」ノ次ニ「第七章ノ二 安寧秩序ニ
對スル罪」ヲ加フ
第四編第三號中「第九十七條ノ罪」ヲ
「第九十七條乃至第九十七條ノ三ノ
罪」ニ改ム
第十八條第一項中「一年以上一年以下」
ヲ「一年以上二年以下」ニ改メ同條第三
項ヲ左ノ如ク改ム
罰金ヲ併科シタル場合又ハ罰金ト科料
ト併科シタル場合ニ於ケル留置ノ期
間ハ三年ヲ越ユルコトヲ得ス科料ヲ併
科シタル場合ニ於ケル留置ノ期間ハ六
十日ヲ越ユルコトヲ得ス
第十九條第一項第三號中「又ハ之ニ因リ

得タル物」ヲ「若クハ之ニ因リ得タル物
又ハ犯罪行為ノ報酬トシテ得タル物」ニ
改メ同項ニ左ノ一號ヲ加フ
四 前號ニ記載シタル物ノ對價トシ
テ得タル物
同條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ
但犯罪ノ後犯人以外ノ者情ヲ知りテ其
物ヲ取得シタルトキハ犯人以外ノ者ニ
屬スル場合ト雖モ之ヲ沒收スルコトヲ
得
第十九條ノ二 前條第一項第三號及ヒ第
四號ニ記載シタル物ノ全部又ハ一部ヲ
沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ
追徵スルコトヲ得
第二編第五章中第九十六條ノ次ニ左ノ二
條ヲ加フ
第九十六條ノ二 強制執行ヲ免ルル目的
ヲ以テ財産ヲ隠匿、損壞若クハ假裝讓
渡シ又ハ假裝ノ債務ヲ負擔シタル者ハ
二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ
處ス
第九十六條ノ三 偽計若ハ威力ヲ用ヒ公
ノ競賣又ハ入札ノ公正ヲ害スヘキ行為
ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五
千圓以下ノ罰金ニ處ス

公正ナル價格ヲ害シ又ハ不正ノ利益ヲ
得ル目的ヲ以テ談合シタル者亦同ジ
第五條ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ
第七章ノ二 安寧秩序ニ對スル罪
第二百五條ノ二 人心ヲ惑亂スルコトヲ目
的トシテ虛偽ノ事實ヲ流布シタル者ハ
五年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五千圓
以下ノ罰金ニ處ス
銀行預金ノ取付其他經濟上ノ混亂ヲ誘
發スルコトヲ目的トシテ虛偽ノ事實ヲ
流布シタル者ハ七年以下ノ懲役若クハ
禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百五條ノ三 戰時、天災其他ノ事變ニ
際シ人心ノ惑亂又ハ經濟上ノ混亂ヲ誘
發スヘキ虛偽ノ事實ヲ流布シタル者ハ
三年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ三千圓
以下ノ罰金ニ處ス
第二百五條ノ四 戰時、天災其他ノ事變ニ
際シ暴利ヲ得ルコトヲ目的トシテ金融
界ノ擾亂、重要物資ノ生産又ハ配給ノ
阻害其他ノ方法ニ依リ國民經濟ノ運行
ヲ著シク阻害スル虞アル行為ヲ爲シタ
ル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ
十萬圓以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

【參照】

- 明治四十年四月二十日法律第四十五號刑法抄録
- 第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス
- 三 第九十三條、第九十五條第二項、第九十七條ノ罪及ヒ第九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
- 第十八條第一項及第三項
- 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞務場ニ留置ス
- 科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得
- 三 犯罪行爲ヨリ生ジ又ハ之ニ因リ得タル物
- 沒收ハ其犯人以外ノ者ニ屬セザルコトキニ限ル
- 第一百六條 火ヲ失シテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ屬ル第九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 火ヲ失シテ自己ノ所有ニ屬ル第九條ニ記載シタル物又ハ第一百條ニ記載シタル物ヲ燒燬シテ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ
- 第一百七條第一項
- 火藥、汽爆其他危險ス可キ物ヲ破毀セシメテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ屬ル第九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ屬ル第九條ニ記載シタル物又ハ

第百十六條第一項中「三百圓以下ノ罰金」ヲ「千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第百十七條ノ二 第百十六條又ハ前條第一項ノ行爲カ業務上必要ナル注意ヲ怠ラタルニ因ルトキ又ハ重大ナル過失ニ出テタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十七條第一項中「二年以下ノ懲役又ハ四百圓以下ノ罰金」ヲ「五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金」ニ、同條第二項中「六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金」ヲ「一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金」ニ改ム

第百九十七條 公務員又ハ仲裁人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス請託ヲ受ケタル場合ニ於テハ五年以下ノ懲役ニ處ス

公務員又ハ仲裁人タラントスル者其擔當スヘキ職務ニ關シ請託ヲ受ケテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ公務員又ハ仲裁人ト爲リタル場合ニ於テハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十七條ノ二 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ請託ヲ受ケテ第三者ニ賄賂

ヲ供與セシメ又ハ其供與ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十七條ノ三 公務員又ハ仲裁人前二條ノ罪ヲ犯シ因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

公務員又ハ仲裁人其職務上不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルシコトニ關シ賄賂ヲ收受、要求若クハ約束シ又ハ第三者ニ之ヲ供與セシメ其供與ヲ要求若クハ約束シタルトキ亦同シ

公務員又ハ仲裁人タラシ者其在職中請託ヲ受ケテ職務上不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルシコトニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十七條ノ四 犯人又ハ情ヲ知りタル第三者ノ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

第百九十八條 第百九十七條乃至第百九十七條ノ三ニ規定スル賄賂ヲ供與シ又ハ其申込若クハ約束ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

昭和十六年法律第六十一號 刑法中改正法律施行期日ノ件

(昭和十六年三月十九日公布 勅令第二百二十三號)

昭和十六年法律第六十一號ハ昭和十六年三月二十日ヨリ之ヲ施行ス

民事訴訟法中改正法律案

附 理由

○國務大臣(柳川平助勳) 只今上程セラレマシタ民事訴訟法中改正法律案ノ提案理由ヲ御説明申上ゲマス

今回ノ改正ハ、強制執行ニ於ケル競賣ヲ円滑ニ行ハントスル目的ニ出ヅルモノデアリマシテ、平時ニ於テモ其ノ必要ヲ認メテ居ツタノデアリマスガ、事變以來特ニ其ノ必要性ヲ増大至シマシタノデ、技ニ御審議ヲ仰ダヤウニ相成ツタ譯デアリマス

改正ノ要點ハ二點デアリマス、其ノ一ハ、動産及ビ不動産ノ競賣ニ於テ、競賣ノ方法又ハ其ノ條件ガ餘リ劃一的デアリマス關係上、當事者ノ立場カラ申マシテモ、將又廣ク國家的見地カラ申マシテ

第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百五十七條第一項及第二項

公務員ニ對シ賄賂ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正圖善ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ四百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ賄賂ノ申立ヲ爲シ免狀、假札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

第百九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

モ、妥當ヲ缺ク場合ガ少クナイノデ、之ヲ適當ニ調整セントスルノデアリマス、即チ裁判所ガ妥當ト認メタ場合ニハ、動産ノ競賣ニ付テハ、所謂競賣ノ方法ノ外ニ、入札拂又ハ任意賣却等ノ適當ナル方法ヲ講ジ、又不動産ノ競賣ニ於テハ賣却條件ノ變更ヲ命ズルコトトシ競賣手續ノ圓滑ヲ圖ルコトトシタノデアリマス

其ノ二ハ、再競賣ノ弊害ヲ排除シ、且ツ時局柄事務ノ簡捷ニ資セントスルモノデアリマス、從來ノ經驗ニ依リマスト、競賣人ガ代金ノ支拂ヲ遅延シ、又ハ全然其ノ支拂ヲナサナイ爲メ、再競賣手續ニ入ルノデアリマスカラ、此ノ弊害ヲ防止スル爲メ、遅延ノ場合ハ利息ヲ支拂ハシメ、再競賣實施ノ場合ハ常ニ保證ヲ沒收シ、何レモ之ヲ賣却代金中ニ繰入レルコトトシタノデアリマス

尙ホ以上ノ改正點ハ、競賣法ニ依ル競賣及ビ船舶ノ競賣ニ準用セラレルノデアリマスカラ、本改正ニ依リ裁判所ノ關係スル一切ノ競賣ハ適當ニ是正セラレル譯デアリマス、何卒慎重御審議ノ上此ノ法案ノ通過ニ御盡力アランコトヲ希望スル次第デアリマス

次ニ議題トナリマシタ陪審法中改正法律案ノ提出理由ヲ述ベマス、現行陪審法ノ規定ニ依レバ、陪審資格者名簿及陪審員候補者名簿ハ、何レモ市町村長ガ毎年之ヲ調整スルコトトナツテ居リマスガ本案ハ陪審法運用ノ實情ト、現下市町村ノ事務ノ繁劇ナルコトトニ鑑ミマシテ、陪審法運用ニ支障ヲ生ゼザル範圍内ニ於テ、右ノ名簿調整ノ手續ヲ簡易化スル爲メ、之ヲ四年毎ニ調整スルコトニ改正セントスルモノデアリマス、何卒慎重御審議ノ上御協賛アラシコトヲ切望致シマス（昭和十二年二月八日 衆議院）

民事訴訟法中改正法律

（昭和十六年三月十日公布 法律第五十七號即日施行）

民事訴訟法中左ノ通改正ス
第五百八十五條ノ二 執行裁判所必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ前條ノ裁判ヲ爲スコトヲ得
右裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
第六百六十二條ノ二 裁判所必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ本款ニ掲ケタル

ル實却條件ヲ變更スルコトヲ得
右裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
第一項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ不動産ニ付必要ナル取調ヲ爲サシムルコトヲ得
第六百八十八條第四項中「買入代金」ノ下ニ「代金支拂期日ヨリ代金支拂マデノ利息」ヲ加ヘ同條第五項ヲ左ノ如ク改ム
再贖買ヲ爲ストキハ前ノ贖買人ハ贖買ニ加ハルコトヲ許サス且贖買ノ保證ノ爲メ預ケタル金銀又ハ有價證券ノ返還ヲ求ムルコトヲ得ス
前ノ贖買人ハ再度ノ贖買代價カ最初ノ贖買代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔ス
第六百九十四條第二項ニ左ノ二號ヲ加フ
第三 第六百八十八條第四項ノ場合ニ於テハ代金支拂期日ヨリ代金支拂マデノ利息
第四 第六百八十八條第五項ノ場合ニ於テハ前ノ贖買人ヨリ贖買ノ保證ノ爲メ預リタル金銀
同條第四項中「最高贖買價額」ヲ「贖買」ニ改ム

附 則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
（參照）
明治二十三年四月二十日法律第二十九號民事訴訟法抄録
第六百八十八條第四項及第五項
贖買人カ再贖買期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再贖買手續ヲ取消ス可シ
再贖買ヲ爲ストキハ前ノ贖買人ハ贖買ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ贖買代價カ最初ノ贖買代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ贖買ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス
第六百九十四條第二項及第四項
左ノモノヲ賣却代金トス
（左記略ス）
最高贖買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金銀ハ代金ニ之ヲ算入ス
陪審法中左ノ通改正ス
第十七條第一項中「毎年」ヲ「四年毎ニ」ニ、「九月一日」ヲ「其ノ年ノ九月一日」ニ改ム
第二十二條中「毎年九月一日迄ニ翌年所

國防保安法及治安維持法

國防保安法案

提案理由

○國務大臣（柳川平助君） 國防保安法案提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス
近代戰ニ於キマシテ諜報、宣傳、謀略等ノ秘密手段ガ、作戰地ハ固ヨリ國內ニ於テモ極メテ活潑ニ行ハレテ居リマスコトハ、既ニ普ク御承知ノ所ト存ズル次第デアリマス、即チ敵性國ハ軍ニ軍事ニ關スル事項ニ止マラズ、外交、財政、經濟等各方面ニ互ル國家ノ重要機密ハ言フマデモナク、尙ホ廣ク國力ヲ探知收集致シマシテ、軍事、外交ニ利用スル外、殊ニ獲得資料ヲ利用シテ、積極的ニ或ハ宣傳ヲ、或ハ謀略ヲ敢行シ、以テ相手國ヲ內部的ニ崩壞セシメントシツツアルノデアリマス、而シテ戰爭ガ持久性ヲ帶ブルニ從ヒ、斯クノ如キ秘密手段ハ益々活潑トナリ、戰爭ノ勝敗ニ重大ノ影響ヲ招來スルノデアリマス、我が國現下ノ情勢ハ、又敵性國ノ秘密戰的策動ヲ封殺シテ、總力戰態勢ノ強化ヲ圖ルノ急務ナルモノガアルノデアリマス

願ミマスルニ我が國ニ於キマシテハ、軍機保護法其ノ他軍事上ノ秘密ヲ保護スベキ法規ハ現ニ存在シテ居リマスガ、前述ノ如キ廣範圍ニ屬スル國家ノ重要機密ヲ保護スベキ法規、並ニ外國ノ行フベキ宣傳謀略ヲ防止スベキ法規ハ、遺憾ナガラ未ダ不備ナルヲ免レナイノデアリマシテ、此ノ際ニ對スルニ對處スベキ則チ設クテ、必要アリト思料致スノデアリマス、又是ト同時ニ右ノ國家機密ノミナラズ、既存ノ法律ニ規定セラレテ居ル所ノ軍事上ノ秘密等ニ關スル罪、其ノ他外國ノ諜報謀略活動ヲ防止スベキ法令ノ違反事件ノ捜査ニ付テハ、捜査機關ヲシテ一元的ニ連絡統一アル活動ニ依リ、一舉ニシテ外國ノ諜報、謀略網ヲ檢舉セシメ、且ツ捜査手續ノ敏速適正ヲ圖リ、又裁判手續モ亦之ヲ敏速化シ、且ツ審判ノ過程ニ於テ國家ノ重要ナル機密ノ外部ニ漏洩スルコトヲ防止スル等ノ爲ニ必要ナル規定ヲ設ケ、以テ戰時下ニ於ケル國防國家體制ノ完壁ヲ期スルコトハ、喫緊ノ要務デアルト思料致スノデアリマス、何卒慎重御審議ノ上速カニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ切望致シマス

年ノ九月一日迄ニ其ノ翌年ヨリ四年間所
要ノニ改ム
第二十八條中「其ノ年内」ヲ「其ノ陪審員候補者名簿調整ノ年ノ翌年ヨリ四年間」ニ改ム
附 則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行後最初ノ陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ノ調整ハ昭和十九年ニ於テ之ヲ行フ
本法施行ノ際現ニ效力ヲ有スル陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ハ引續キ昭和十九年十二月三十一日迄其ノ效力ヲ有ス

參照

大正十二年四月十八日法律第五十號陪審法抄録
第十七條第一項
市町村長ハ毎年陪審員資格者名簿ヲ調整シ九月一日現在ニ依リ其ノ市町村内ニ於テ資格ヲ有スル者ヲ之ニ登錄スヘシ
第二十二條 地方裁判所長ハ毎年九月一日迄ニ翌年所屬ノ陪審員ノ員數ヲ定メ管轄區域内ノ市町村ニ適當テ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ
第二十八條 陪審員トシテ呼出ニ應ジタル者ハ其ノ市町村ニ於ケル陪審員候補者名簿ニ登錄セラレタル者四分ノ三呼出ニ應ジタル後ニ非サレハ其ノ年内再ヒ陪審員ニ選定セラレコトナシ

(昭和十六年一月三十日 衆議院)

國防保安法

(昭和十六年三月七日公布)
法律第四十九號

第一章 罪

第一條 本法ニ於テ國家機密トハ國防上外國ニ對シ漏洩スルコトヲ要スル外交財政、經濟其ノ他ニ關スル重要ナル國務ニ係ル事項ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ及之ヲ表示スル圖書物件ヲ謂フ

一 御前會議、樞密院會議、閣議又ハ之ニ準ズベキ會議ニ付セラレタル事項及其ノ會議ノ議事
二 帝國議會ノ秘密會議ニ付セラレタル事項及其ノ會議ノ議事
三 前二號ノ會議ニ付スル爲準備シタル事項其ノ他行政各部ノ重要ナル機密事項

第二條 本章ノ罰則ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付亦之ヲ適用ス
第三條 業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國(外國ノ爲ニ行動スル者及外國人ヲ含ム以下之ニ同

ジ)ニ漏洩シ又ハ公ニシタルトキハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
第四條 外國ニ漏洩シ又ハ公ニスル目的ヲ以テ國家機密ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ國家機密ヲ探知シ又ハ收集シタル者之ヲ外國ニ漏洩シ又ハ公ニシタルトキハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
第五條 前二條ニ規定スル理由以外ノ理由ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國ニ漏洩シ又ハ公ニシタルトキハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第六條 業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏洩シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
第七條 業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者過失ニ因リ之ヲ外國ニ漏洩シ又ハ公ニシタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テ又ハ其ノ用途ニ供セラルル處アルコトヲ知リテ外國ニ通報

及同項ニ掲グル物ノ對價トシテ得タル物ハ其ノ物犯人以外ノ者ニ屬セルトキニ限り之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二章 刑事手續
第十六條 本章ノ規定ハ左ニ掲グル罪ニ關スル事件ニ付之ヲ適用ス
一 第三條乃至第十三條ノ罪
二 軍機保護法第二條乃至第七條及此等ニ關スル第十五條乃至第十七條、軍用資源秘密保護法第十一條乃至第十五條、第十九條、刑法第二編第三章、陸軍刑法第二十七條乃至第二十九條及此等ニ關スル第三十一條、第三十二條、第三十四條、海軍刑法第二十二條乃至第二十四條及此等ニ關スル第二十六條、第二十七條、第二十九條並ニ國家總動員法第四十四條ノ罪

本章ノ規定ハ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタル左ニ掲グル罪ニ關スル事件ニ付亦之ヲ適用ス
軍機保護法(前項第二號ニ掲グル罪

スル目的ヲ以テ外交、財政、經濟其ノ他ニ關スル情報ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
第九條 外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ治安ヲ害スベキ事項ヲ流布シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十條 外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ金融界ノ擾亂、重要物資ノ生産又ハ配給ノ阻害其ノ他ノ方法ニ依リ國民經濟ノ運行ヲ著シク阻害スル虞アル行爲ヲ爲シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ十萬圓以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得
第十一條 第三條乃至第五條、第八條、第九條及前條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第十二條 第三條乃至第五條、第九條又ハ第十條第一項ノ罪ヲ犯スコトヲ教唆シタル者ハ被教唆者其ノ實行ヲ爲スニ至ラザルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス
第三條乃至第五條、第九條又ハ第十條第一項ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

第八條ノ罰則ヲ犯スコトヲ教唆シタル者ハ被教唆者其ノ實行ヲ爲スニ至ラザルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス
第八條ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ
第十三條 第三條乃至第五條、第九條又ハ第十條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
第八條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス
第十四條 第四條第一項、第八條、第十一條、乃至前條ノ罪ヲ犯シタル者未ダ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得
第十五條 本章ニ規定スル犯罪行爲ヲ組成シタル物、其ノ犯罪行爲ニ供シ若ハ供セントシタル物又ハ其ノ犯罪行爲ヨリ生ジ若ハ之ニ因リ得タル物ハ其ノ物犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限り之ヲ沒收ス裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有タルヲ問ハズ檢事之ヲ沒取スルコトヲ得
前項ノ犯罪行爲ノ報酬トシテ得タル物

ヲ除ク)、軍用資源秘密保護法(前項第二號ニ掲グル罪ヲ除ク)、要塞地帶法、陸軍輸送港域軍事取締法、明治二十三年法律第八十三號(軍港要港規則違反者處分ノ件)、軍用電氣通信法、國境取締法、刑法第二編第一章第二章、第四章、第八章乃至第十一章、第十五章乃至第十八章、第二十六章、第二十七章及第四十章、朝鮮刑事令第三條、陸軍刑法第二編第一章(前項第二號ニ掲グル罪ヲ除ク)、第八章及第九十九條、海軍刑法第二編第一章(前項第二號ニ掲グル罪ヲ除ク)、第八章及第百條、治安維持法大正十五年法律第六十號(暴力行爲等處罰ニ關スル法律)、爆發物取締罰則、匪徒刑罰令(明治三十一年律令第二十四號)、不穩文書臨時取締法、通貨及證券模造取締法、通貨及證券模造取締規則(明治三十六年律令第十四號)、明治三十八年法律第六十六號(外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル法律)、治安警察法、大正八年制令第七號(政治ニ關スル犯罪處罰ノ件)、

外國爲替管理法、關稅法、昭和十二年法律第九十二號（輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律）、船舶法、航空法、電信法、無線電信法並ニ國家總動員法（前項第二號ニ掲グル罪ヲ除ク）ノ罪

第十七條 檢察官ハ被疑者ヲ召喚シ又ハ其ノ召喚ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢察官ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル召喚狀ニハ命令ヲ爲シタル檢察官ノ職、氏名及其ノ命令ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スベシ

第十八條 被疑者正當ノ事由ナクシテ前條ノ規定ニ依ル召喚ニ應ゼズ又ハ刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ被疑者ヲ勾引シ又ハ其ノ勾引ヲ他ノ檢察官ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ檢察官ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル勾引狀ニ付之ヲ準用ス

第十九條 勾引シタル被疑者ハ指定セラレタル場所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ檢察官又ハ司法警察官之ヲ訊問スベシ其ノ時間内ニ勾留狀ヲ發セザルトキハ檢察官ハ被疑者ヲ釋放シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ

第二十條 刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ檢察官ハ被疑者ヲ勾留シ又ハ其ノ勾留ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第十七條第二項ノ規定ハ檢察官ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル勾留狀ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 勾留ニ付テハ警察官署又ハ憲兵隊ノ留置場ヲ以テ監獄ニ代用スルコトヲ得

第二十二條 勾留ノ期間ハ二月トスルニ繼續ノ必要アルトキハ區裁判所檢察官ハ檢察官正ノ許可、地方裁判所檢察官ハ檢察官長ノ許可ヲ受ケ一年毎ニ之ヲ更新スルコトヲ得但シ通ジテ四月ヲ超ユルコトヲ得ズ

ジテ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

檢察官長又ハ其ノ指揮ヲ受ケタル檢察官第七十三條、第七十五條又ハ第七十七條乃至七十九條ノ罪ノ捜査ノ爲トニ繼續ノ必要アルトキハ一月毎ニ勾留ノ期間ヲ更新スルコトヲ得但シ通ジテ六月ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十三條 勾留ノ事由消滅シ其ノ他勾留ヲ繼續スルノ必要ナシト思料スルトキハ檢察官ハ速ニ被疑者ヲ釋放シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ

第二十四條 檢察官ハ被疑者ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十五條 檢察官ハ被疑者ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢察官ハ公訴提起前ニ限り證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢察官ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

訊問シタル旨ヲ訊問調書ニ記載スベシ

第二十六條 檢察官ハ公訴提起前ニ限り押收、捜索若ハ檢證ヲ爲シ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢察官ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

前條第三項ノ規定ハ押收、捜索又ハ檢證ノ調書及鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問調書ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 刑事訴訟法中被告人ノ召喚、勾引及勾留、被告人及證人ノ訊問、押收、捜索、檢證、鑑定、通譯並ニ翻譯ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被疑事件ニ付之ヲ準用ス但シ保障及責付ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條 外國船舶又ハ外國航空機法律又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依ル禁

止又ハ制限ニ違反シ當該禁止又ハ制限ニ係ル區域ニ侵入シタル場合ニ於テ檢事捜査ノ爲必要アルトキハ其ノ船舶若ハ航空機ニ對シ指定ノ場所ニ廻航スベキコトヲ命ジ若ハ之ヲ抑留シ又ハ其ノ船舶若ハ航空機ノ長、乗組員及乗客ニ對シ指定ノ場所ニ留置スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十九條 辯護人ハ司法大臣ノ豫メ指定シタル辯護士ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ但シ刑事訴訟法第四十條第二項ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第三十條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ズ

辯護人ノ選任ハ最初ニ定メタル公判期日ニ係ル召喚狀ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 辯護人ハ審判ヲ公開シタル公判廷ニ於テ口頭辯論ヲ爲ス場合ニハ國家機密、軍事上ノ秘密、軍用資源秘密又ハ官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ陳述スルコトヲ得ズ此ノ場合ニ於テ辯護人ハ其ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ陳述ニ代フルコトヲ得

第三十二條 辯護人ハ訴訟ニ關スル書類ノ謄寫ヲ爲サントスルトキハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第三十三條 第十六條第一項ニ掲グル罪又ハ外國ト通謀シ若ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ同條第二項ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ニ規定スル第一審ノ判決ニ對シテハ直接上告ヲ爲スコトヲ得

告事件ニ關スル手續ニ依リ裁判ヲ爲ス
第三十四條 裁判所ハ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ第十六條第二項ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ判決ニ指示スベシ

ヲ受クル罪ニ關スル訴訟ニ付テハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラズ速ニ其ノ裁判ヲ爲スベシ

第三十五條 上告裁判所ハ公判期日ノ通知ニ付テハ刑事訴訟法第四百二十二條第一項ノ期間ニ依ラザルコトヲ得

第三十七條 第十六條ニ規定スル罪ニ該ル事件(陪審法第四條ニ規定スルモノヲ除ク)ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付セズ

第三十六條 裁判所ハ本章ノ規定ノ適用

第三十八條 刑事手續ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一般ノ規定ノ適用アルモノトス

第三十九條 本章ノ規定ハ第二十一條、第二十二條、第二十八條、第二十九條、第三十條第一項、第三十三條、第三十四條及第三十七條ノ規定ヲ除クノ外軍法會議ノ刑事手續ニ付テハ準用ス此ノ場合ニ於テ刑事訴訟法第八十七條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百三十三條又ハ海軍軍法會議法第四百三十三條又ハ陸軍軍法會議法第四百四十四條第一項又ハ海軍軍法會議法第四百四十六條第一項トシ第二十四條第二項中刑事訴訟法第九十九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於テハトアルハ何時ニテモトス

第三十條 朝鮮及臺灣ニ在リテハ本章ニ

第四十條 朝鮮及臺灣ニ在リテハ本章ニ

揭グル法律ハ制令又ハ律令ニ於テ依ル場合ヲ含ム
朝鮮ニ在リテハ第二十二條第三項中刑法第七十三條、第七十五條又ハ第七十七條乃至第七十九條トアルハ刑法第七十三條、第七十五條若ハ第七十七條乃至第七十九條又ハ朝鮮刑事令第三條トシ第三十五條中刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス
朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢察總長トアルハ高等法院檢察長、檢察長又ハ檢察正トアルハ覆審法院檢察長、地方裁判所檢察事又ハ區裁判所檢察事トアルハ地方法院檢察事トス
臺灣ニアリテハ本章中司法大臣トアルハ臺灣總督、檢察總長又ハ檢察長トアルハ高等法院檢察官長、檢察正トアルハ地方法院檢察官長、地方裁判所檢察事又ハ區裁判所檢察事トアルハ地方法院檢察官又ハ地方法院支部檢察官、檢察事トアルハ檢察官、豫審判事トアルハ豫審判官トス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ内地、朝鮮、臺灣及樺太ニ之ヲ施行ス
第二章ノ規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ
本法施行前朝鮮刑事令第十二條乃至第十五條ノ規定ニ依リ爲シタル捜査手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス
前項ノ捜査手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

治安維持法改正法律案

提議理由

○國務大臣(柳川平助君) 只今上程ニ相成リマシタ治安維持法改正法律案ヲ提出スルニ至リマシタ理由ヲ御説明申上ゲマス
御承知ノ通り我が國ハ今ヤ内外共ニ實ニ重大ナル時局ニ際會シテ居ルノデアリマス、此ノ重大時局ヲ乘切ル爲ニハ、官民共ニ益々舉國ノ精神ヲ發揚シ、一致協力シテ、國體ヲ擁護シ、聖業翼賛ノ信念ヲ堅持シテ進マナケレバナラヌコトハ申スマデモナイ所デアリマス、然ルニ永年ニ亘リ當局ガ銳意檢舉ヲ續行致シタニモ

拘ラズ、斯カル重大時局下ニ於テ、共產主義其ノ他ノ詭激思想運動ガ依然終熄致シマセヌノミナラズ、最近ニ於キマシテハ、再ビ擡頭シツツアルヤウニ認メラレマスコトハ、洵ニ遺憾ノ次策デアリマス
現下ノ我が國情ハ官民一致ノ努力ニモ拘ラズ、事變ノ長期化ト國際情勢ノ變化ニ伴ヒ、各種ノ經濟現象ガ漸次複雑化シツツアルノデアリマスガ、斯カル社會情勢ハ、動モスレバ詭激思想ヲ助成シ、詭激思想抱懷者ヲシテ乘ズルノ機會ヲ與フルコトト相成ルノデアリマス、隨ヒマシテ是等不逞ノ思想運動ニ對シマシテ、現在程強力ナル施策ヲ必要トスル時機ハナイノデアリマス、而シテ是ガ對策ト致シマシテハ、教育其ノ他ノ方面ニ於ケル諸般ノ施設ヲ必要ト致スコト勿論デアリマシテ、啻ニ刑罰ヲ以テ是ガ根絶ヲ期スルコトハ、至難ノ業デアリマスコトハ勿論デアリマスガ、苟クモ國體ノ變革ヲ企圖スルガ如キ、不逞極マリナキ詭激思想ノ抱懷者ニ對シマシテハ、之ヲ徹底的ニ檢舉處罰シ、彼等ヲシテ蠢動ノ餘地ナカラシムルコト、必要缺クベカラザル事柄デアリマス

現行治安維持法ハ、御承知ノ如ク大正十四年ノ制定ニ係リ、其ノ後昭和三年緊急勅令ヲ以テ、其ノ一部ニ改正ガ加ヘラレタニ過ギナイノデアリマシテ、大正末期ヨリ昭和初年ニ掛ケテノ思想運動情勢ヲ背景トシテ規定セラレマシタル關係上共產主義運動、殊ニ日本共產黨ノ活動ヲ主タル對象トシテ規定セラレテ居ルノデアリマス、然ルニ運動情勢ノ變化ニ順應シ、治安維持ノ目的ヲ達スルガ爲ニハ、一面共產主義運動ノミナラズ、無政府主義運動、民族獨立運動又ハ類似宗教運動等、各種ノ詭激思想運動ニモ、亦之ヲ適用スル實際ノ必要ガアリマスル共ニ他面共產主義運動ニ關シマシテモ、情勢ノ變化、殊ニ所謂人民戰線方策ノ採用ニ依リ、其ノ運動形態ハ本法制定當時ニ比シ極メテ複雑化スルニ至リマシタノデアリマス、不備ノ點ガ多ク存スルニ至ツタノデアリマス、隨テ事態ノ變化ニ對應シテ、取締ノ完整ヲ期スル爲、現行法ノ罰則ヲ整備強化スル必要ガアルノデアリマス
ソレト同時ニ、本法施行以來ノ實績ニ徴シ、且ツ思想犯罪事件ノ特質ニ鑑ミマ

シテ、捜査機關ノ捜査手段ヲ強化シ、其ノ迅速正期スルト共ニ、裁判手續モ亦之ヲ極メテ敏速化シ、且又過去ニ於テ此ノ事件ニ關シ屢々行ハレタ、所謂法廷闘争ヲ防止スル爲ノ制度ヲ設クル必要ガアルノデアリマス、捜査及ビ審判ニ關スル現行刑事訴訟ノ規定ハ極メテ不備デアリマシテ、斯カル現下ノ必要ヲ十分ニ充シ得マセヌノデ、其ノ不備ヲ補ヒ其ノ完備ヲ期スルコトハ喫緊ノ要務デアリマス

更ニ最近ノ共產主義運動ノ實情ヲ見マヌルニ、活動ノ中心ヲ成スモノハ、多ク非轉向ノ刑餘者又ハ執行刑餘者デアリマスノミナラズ、思想犯人ノ特質ヨリ致シマシテ、一旦感染シタル詭激思想ハ容易ニ拂拭致シ難ク、刑ノ執行ニ依ルモ改悛セザル者其ノ數ニ乏シクアリマセヌ、此ノ實情ニ鑑ミ、思想犯罪ノ禦慮ト豫防ノ效果ヲ完備ナラシムル爲ニ、一定ノ條件ト手續ノ下ニ、所謂非轉向分子ヲ社會ヨリ隔離シ、且ツ其ノ改悛ヲ促スコトヲ目的トスル豫防拘禁制度ヲ設クル必要ガアルノデアリマス

全般ニ互ツテ改正シ、刑罰ヲ整備強化シテ其ノ完備ヲ期シ、特別刑事手續ヲ創設シテ、檢擧ヨリ裁判ニ至ルマデ、其ノ手續ヲ迅速正期化シ、豫防拘禁制度ヲ確立シ、非轉向分子ヲシテ乘ズル所ナカラシムルコトハ、現下喫緊ノ要務デアリマシテ、國體ヲ擁護シ、大義ヲ匡シ、以テ高度國防國家體制ノ完備ヲ期スル所以デアルト信ジ、茲ニ本案ヲ提出スル次第デアリマス、何卒慎重審議ノ上速カニ御協賛アラント希望スル次第デアリマス

(昭和十六年二月八日 衆議院)

治安維持法改正法律

(昭和十六年三月十日公布
法律第五十四號五月十五日施行)

第一章 總則

第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ懲役ニ處シテ其ノ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二條 前條ノ結社ヲ支援スルコトヲ目

的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處シテ其ノ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第三條 第一條ノ結社ノ組織ヲ準備スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處シテ其ノ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第四條 前三條ノ目的ヲ以テ集團ヲ結成シタル者又ハ集團ヲ指導シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處シテ前三條ノ目的ヲ以テ集團ニ參加シタル者又ハ集團ニ關シ前三條ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第五條 第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議若ハ煽動ヲ爲シ又ハ其ノ目的タル事項ヲ

宣傳シ其ノ他ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第六條 第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ暴行、暴行其ノ他生命、身體又ハ財産ニ害ヲ加フベキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第七條 國體ヲ否定シ又ハ神宮若ハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スベキ事項ヲ流布スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ無期又ハ四年以上ノ懲役ニ處シテ其ノ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八條 前條ノ目的ヲ以テ集團ヲ結成シタル者又ハ集團ヲ指導シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處シテ前條ノ目的ヲ以テ集團ニ參加シタル者又ハ集團ニ關シ前條ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九條 前八條ノ罪ヲ犯シタルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財産上ノ利益

ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者亦同ジ

第十條 私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者若ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十一條 前條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ又ハ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十二條 第十條ノ目的ヲ以テ暴行、暴行其ノ他生命、身體又ハ財産ニ害ヲ加フベキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十三條 前三條ノ罪ヲ犯シタルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者亦同ジ

第十四條 第一條乃至第四條、第七條、第八條及第十條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五條 本章ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第十六條 本章ノ規定ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

第二章 刑事手續

第十七條 本章ノ規定ハ第一章ニ掲グル罪ニ關スル事件ニ付之ヲ適用ス

第十八條 檢事ハ被疑者ヲ召喚シ又ハ其ノ召喚ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル召喚狀ニハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏名及其ノ命令ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スベシ

召喚狀ノ送達ニ關スル裁判所書記及執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察官吏之ヲ行フコトヲ得

第十九條 被疑者正當ノ事由ナクシテ前條ノ規定ニ依ル召喚ニ應ゼズ又ハ刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ檢事ハ被疑者ヲ勾引シ又ハ其ノ勾引ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ檢事ノ命令ニ因リ

司法警察官ノ發スル勾引狀ニ付之ヲ準用ス

第二十條 勾引シタル被疑者ハ指定セラレタル場所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ檢事又ハ司法警察官之ヲ訊問スベシ其ノ時間内ニ勾留狀ヲ發セザルトキハ檢事ハ被疑者ヲ釋放シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ

第二十一條 刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ檢事ハ被疑者ヲ勾留シ又ハ其ノ勾留ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第二十二條 勾留ニ付テハ警察官署又ハ憲兵隊ノ留置場ヲ以テ監獄ノ代用トスルコトヲ得

第二十三條 勾留ノ期間ハ二月トス特殊ニ必要アルトキハ地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事ハ檢事長ノ許可ヲ受ケ一月毎ニ勾留ノ期間ヲ更新スルコトヲ得但シ通ジテ一年ヲ超ユルコトヲ得

第二十四條 勾留ノ事由消滅シ其ノ他勾

留ヲ繼續スルノ必要ナシト思料スルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ

第二十五條 檢事ハ被疑者ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十六條 檢事ハ被疑者ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢事ハ公訴提起前ニ限り證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第二十七條 檢事ハ公訴提起前ニ限り押收、搜索若ハ檢證ヲ爲シ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢事ハ公訴提起前ニ限り鑑定、通譯若

ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第二十八條 刑事訴訟法中被告人ノ召喚勾引及勾留、被告人及證人ノ訊問、押收、搜索、檢證、鑑定、通譯並ニ翻譯ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被疑事件ニ付之ヲ準用ス但シ保釋及責付ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 辯護人ハ司法大臣ノ豫メ指定シタル辯護士ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ但シ刑事訴訟法第四十條第二項ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第三十條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ズ

辯護人ノ選任ハ最初ニ定メタル公判期日ニ係ル召喚狀ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由ア

軍法會議法第四百四十三條、刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百四十四條第一項又ハ海軍軍法會議法第四百四十六條第一項トシ第二十五條第二項中刑事訴訟法第十九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於テハトアルハ何時ニテモトス

ル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 辯護人ハ訴訟ニ關スル書類ノ謄寫ヲ爲サントスルトキハ裁判長又ハ檢事長ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

第三十二條 被告事件公判ニ付セラレタル場合ニ於テ檢事必要アリト認ムルトキハ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第一回公判期日ノ指定アリタル後ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條 第一章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ズ

場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 第一章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ對シテ上告アリタル場合ニ於テ上告裁判所同章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノニ非ザルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ヲ管轄控訴裁判所ニ移送スベシ

第三十五條 上告裁判所ハ公判期日ノ通知ニ付テハ刑事訴訟法第四百二十二條第一項ノ期間ニ依ラザルコトヲ得

第三十六條 刑事手續ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一般ノ規定ノ適用アルモノトス

軍法會議法第四百四十三條、刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百四十四條第一項又ハ海軍軍法會議法第四百四十六條第一項トシ第二十五條第二項中刑事訴訟法第十九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於テハトアルハ何時ニテモトス

第三十八條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

第三十九條 第一章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル者其ノ執行ヲ終リ釋放ニ關スル場合ニ於テ釋放後ニ於テ更ニ同章ニ掲グル罪ヲ犯スノ虞アルコト顯著ナルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ本人ヲ豫防拘禁ニ付スル旨ヲ命ズルコトヲ得

第一章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル者其ノ執行ヲ終リ釋放ニ關スル場合ニ於テ釋放後ニ於テ更ニ同章ニ掲グル罪ヲ犯スノ虞アルコト顯著ナルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ本人ヲ豫防拘禁ニ付スル旨ヲ命ズルコトヲ得

兼ノ旨渡ヲ受ケタル者恩恵犯保護觀察
法ニ依リ保護觀察ニ付セラレ居ル場合
ニ於テ保護觀察ニ依ルモ同章ニ掲グル
罪ヲ犯スノ危険ヲ防止スルコト困難ニ
シテ更ニ之ヲ犯スノ虞アルコト顯著ナ
ルトキ亦前項ニ同ジ

第四十條 豫防拘禁ノ請求ハ本人ノ現在
地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢察其ノ裁
判所ニ之ヲ爲スベシ
前項ノ請求ハ保護觀察ニ付セラレ居ル
者ニ係ルトキハ其ノ保護觀察ヲ爲ス保
護觀察所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判
所ノ檢察其ノ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ
得

第四十一條 檢察ハ豫防拘禁ノ請求ヲ爲
スニ付テハ必要ナル取調ヲ爲シ又ハ公
務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ
求ムルコトヲ得

前項ノ取調ヲ爲スニ付必要アル場合ニ
於テハ司法警察官吏ヲシテ本人ヲ同行
セシムルコトヲ得

三 本人正當ノ理由ナクシテ第四十四
條第一項ノ出頭命令ニ應ゼザルトキ

第四十九條 前條第一號又ハ第二號ニ規
定スル事由アルトキハ裁判所ハ本人ヲ
豫防拘禁所ニ假ニ收容スルコトヲ得但
シ已ムコト得ザル事由アル場合ニ於テ
ハ監獄ニ假ニ收容スルコトヲ妨グズ

本人監獄ニ在ルトキハ前項ノ事由ナシ
ト雖モ之ヲ假ニ收容スルコトヲ得
第四十二條 第二項ノ規定ハ第一項ノ場
合ニ付之ヲ準用ス

第五十條 別段ノ規定アル場合ヲ除クノ
外刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ハ第
四十八條ノ勾引ニ、勾留ニ關スル規定
ハ第四十二條及前條ノ假收容ニ付之ヲ
準用ス但シ保釋及責付ニ關スル規定ハ
此ノ限ニ在ラズ

第五十一條 豫防拘禁ニ付セザル旨ノ決
定ニ對シテハ檢察ハ即時抗告ヲ爲スコ
トヲ得

豫防拘禁ニ付スルノ旨ノ決定ニ對シテ
ハ本人及輔佐人ハ即時抗告ヲ爲スコト
ヲ得

第五十二條 別段ノ規定アル場合ヲ除ク
ノ外刑事訴訟法中決定ニ關スル規定ハ

第四十二條 檢察ハ本人定リタル住居ヲ
有セザル場合又ハ逃亡シ若ハ逃亡スル
虞アル場合ニ於テ豫防拘禁ノ請求ヲ爲
スニ付必要アルトキハ本人ヲ豫防拘禁
所ニ假ニ收容スルコトヲ得但シ已ムコ
トヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ監獄
ニ假ニ收容スルコトヲ妨グズ

前項ノ假收容ハ本人ノ陳述ヲ聽キタル
後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ
本人陳述ヲ背ゼズ又ハ逃亡シタル場合
ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十三條 前條ノ假收容ノ期間ヲ十日
トス其ノ期間内ニ豫防拘禁ノ請求ヲ爲
サザルトキハ速ニ本人ヲ釋放スベシ

第四十四條 豫防拘禁ノ請求アリタルト
キハ裁判所ハ本人ノ陳述ヲ聽キ決定ヲ
爲スベシ此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ本
人ニ出頭ノ命令ズルコトヲ得

本人陳述ヲ背ゼズ又ハ逃亡シタルトキ
ハ陳述ヲ聽カズシテ決定ヲ爲スコトヲ
得

刑ノ執行終了前豫防拘禁ノ請求アリタ
ルトキハ裁判所ハ刑ノ執行終了後ト雖
モ豫防拘禁ニ付スル旨ノ決定ヲ爲スコ
トヲ得

第四十四條ノ決定ニ、即時抗告ニ關ス
ル規定ハ前條ノ即時抗告ニ付之ヲ準用
ス

第五十三條 豫防拘禁ニ付セラレタル者
ハ豫防拘禁所ニ之ヲ收容シ改校セシム
ル爲必要ナル處置ヲ爲スベシ

豫防拘禁所ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ
之ヲ定ム

第五十四條 豫防拘禁ニ付セラレタル者
ハ法令ノ範圍内ニ於テ他人ト接見シ又
ハ信書其ノ他ノ物ノ授受ヲ爲スコトヲ
得

豫防拘禁ニ付セラレタル者ニ對シテハ
信書其ノ他ノ物ノ檢閲、差押若ハ沒取
ヲ爲シ又ハ保安若ハ懲戒ノ爲必要ナル
處置ヲ爲スコトヲ得假ニ收容セラレタ
ル者及本章ノ規定ニ依リ勾引狀ノ執行
ヲ受ケ留置セラレタル者ニ付亦同ジ

第五十五條 豫防拘禁ノ期間ハ二年トス
特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ裁判
所ハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得

豫防拘禁ノ期間滿了前更新ノ請求アリ
タルトキハ裁判所ハ期間滿了後ト雖モ
更新ノ決定ヲ爲スコトヲ得
更新ノ決定ハ豫防拘禁ノ期間滿了後確

第四十五條 裁判所ハ事實ノ取調ヲ爲ス
ニ付必要アル場合ニ於テハ參考人ニ出
頭ヲ命ジ事實ノ陳述又ハ鑑定ヲ爲サシ
ムルコトヲ得

裁判所ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事
項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第四十六條 檢察ハ裁判所ガ本人ヲシテ
陳述ヲ爲サシメ又ハ參考人ヲシテ事實
ノ陳述若ハ鑑定ヲ爲サシムル場合ニ立
會ヒ意見ヲ開陳スルコトヲ得

第四十七條 本人ノ屬スル家ノ戶主、配
偶者又ハ四親等内ノ血族若ハ三親等内
ノ姻族ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ輔佐人ト
爲ルコトヲ得

輔佐人ハ裁判所ガ本人ヲシテ陳述ヲ爲
サシメ若ハ參考人ヲシテ事實ノ陳述若
ハ鑑定ヲ爲サシムル場合ニ立會ヒ意見
ヲ開陳シ又ハ參考ト爲ルベキ資料ヲ提
出スルコトヲ得

第四十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ
本人ヲ勾引スルコトヲ得

一 本人定マリタル住所ヲ有セザルト
キ

二 本人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル
虞アルトキ

定シタルトキト雖モ之ヲ期間滿了ノ時
確定シタルモノト看做ス

第四十條、第四十一條及第四十四條乃
至第五十二條ノ規定ハ更新ノ場合ニ付
之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ第四十九條
第二項中監獄トアルハ豫防拘禁所トス

第五十六條 豫防拘禁ノ期間ハ決定確定
ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレザル日數又ハ刑ノ執行ノ爲
拘禁セラレタル日數ハ決定確定後ト雖
モ前項ノ期間ニ算入セズ

第五十七條 決定確定ノ際本人受刑者ナ
ルトキハ豫防拘禁ハ刑ノ執行終了後之
ヲ執行ス

監獄ニ在ル本人ニ對シ豫防拘禁ヲ執行
セントスル場合ニ於テ移送ノ準備其ノ
他ノ事由ノ爲特ニ必要アルトキハ一時
拘禁ヲ繼續スルコトヲ得

豫防拘禁ノ執行ハ本人ニ對スル犯罪ノ
捜査其ノ他ノ事由ノ爲特ニ必要アルト
キハ決定ヲ爲シタル裁判所ノ檢察又ハ
本人ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ
檢察ノ指揮ニ因リ之ヲ停止スルコトヲ
得

刑事訴訟法第五百三十四條乃至五百三

十六條及第五百四十四條乃至第五百五十二條ノ規定ハ豫防拘禁ノ執行ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 豫防拘禁ニ付セラレタル者收容後其ノ必要ナキニ至リタルトキハ第五十五條ニ規定スル期間満了前ト雖モ行政官廳ノ處分ヲ以テ之ヲ退所セシムベシ

第四十條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第五十九條 豫防拘禁ノ執行ヲ爲サザルコト二年ニ及ビタルトキハ決定ヲ爲シタル裁判所ノ檢察又ハ本人ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢察ハ事情ニ因リ其ノ執行ヲ免除スルコトヲ得

第四十條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第六十條 天災事變ニ際シ豫防拘禁所内ニ於テ避難ノ手段ナシト認ムルトキハ收容セラレタル者ヲ他所ニ護送スベシ若シ護送スルノ暇ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放セラレタル者ハ解放後二十四時間内ニ豫防拘禁所又ハ警察官署ニ出頭スベシ

第六十一條 本章ノ規定ニ依リ豫防拘禁所若ハ監獄ニ收容セラレタル者又ハ勾引狀若ハ逮捕狀ヲ執行セラレタル者逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

前條第一項ノ規定ニ依リ解放セラレタル者同條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ亦前項ニ同ジ

第六十二條 收容設備若ハ機具ヲ損壞シ暴行若ハ脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第六十三條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六十四條 本法ニ規定スルモノノ外豫防拘禁ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 朝鮮ニ在リテハ豫防拘禁ニ關シ地方裁判所ノ爲スベキ決定ハ地方法院ノ合議部ニ於テ之ヲ爲ス

朝鮮ニ在リテハ本章中地方裁判所ノ檢察トアルハ地方法院ノ檢察、思想犯保護觀察法トアルハ朝鮮思想犯保護觀察令、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法ト

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一章ノ改正規定ハ本法施行前從前ノ規定ニ定メタル罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス但シ改正規定ニ定ムル刑ガ從前ノ規定ニ定メタル刑ヨリ重キトキハ從前ノ規定ニ定メタル刑ニ依リ處斷ス

第二章ノ改正規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三章ノ改正規定ハ從前ノ規定ニ定メタル罪ニ付本法施行前刑ニ處セラレタル者ニ亦之ヲ適用ス

本法施行前朝鮮刑事令第十二條乃至第十五條ノ規定ニ依リ爲シタル捜査手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ捜査手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

本法施行前朝鮮思想犯豫防拘禁令ニ依リ爲シタル豫防拘禁ニ關スル手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ豫防拘禁ニ關スル手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

昭和十六年法律第五十四號
治安維持法改正法律施行
期日ノ件

(昭和十六年五月十四日公布)
勅令第五百五十三號
昭和十六年法律第五十四號ハ昭和十六年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

國家總動員法

昭和十六年六月十五日
ヲテノ發布法令

國家總動員法中改正法律案

昭和十六年三月三日公布
法律第十九號三月二十日施行

國家總動員法中左ノ通改正ス
 第五條中「又ハ地方公共團體」ヲ「地方公共團體又ハ政府ノ指定スル者」ニ改ム
 第六條中「若ハ解雇」ノ下ニ「就職、從業若ハ退職」ヲ加ヘ「賃金其ノ他ノ勞働條件」ヲ「賃金、給料其ノ他ノ從業條件」ニ改ム
 第八條中「總動員物資」ヲ「物資」ニ改ム
 第十條中「使用又ハ收用スルコトヲ得」ヲ「使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ之ヲ使用若ハ收用セシムルコトヲ得」ニ改ム
 第十一條中「資金ノ運用」ヲ「資金ノ運用、債務ノ引受若ハ債務ノ保證」ニ改ム

第十三條第三項中「土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用若ハ收用スルコトヲ得」ヲ「土地若ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ之ヲ使用若ハ收用セシムルコトヲ得」ニ改ム
 第十四條中「使用又ハ收用スルコトヲ得」ヲ「使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ特許發明及登錄實用新案ヲ實施セシメ若ハ鐵業權、砂鐵權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用セシムルコトヲ得」ニ改ム
 第十五條中「前二條ノ規定ニ依リ」ノ下ニ「政府ノ」ヲ、「十年内ニ拂下ゲルトキ」ノ下ニ「又ハ第十三條第三項ノ規定ニ依リ總動員業務ヲ行フ者ノ收用シタルモノ收用シタル時ヨリ十年内ニ不用ニ歸シタルトキ」ヲ加フ
 第十六條ノ二 政府ハ戰時ニ際シ國家總

動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備又ハ權利ノ讓渡其ノ他ノ處分、出資、使用又ハ移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 第十六條ノ三 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ開始、委託、共同經營、讓渡、廢止若ハ休止又ハ法人ノ目的變更、合併若ハ解散ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 第十七條中「總動員業務タル」ヲ削ル
 第十八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ同種若ハ異種ノ事業主又ハ其ノ團體ニ對シ當該事業ノ統制又ハ統制ノ爲ニスル經營ヲ目的トスル團體又ハ會社ノ設立ヲ命ズルコトヲ得
 前項ノ命令ニ依リ設定セラルル團體ハ法人トス
 第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者其ノ設立ヲ爲サザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
 第一項ノ團體成立シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該團體ノ構成

員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ團體ノ構成員タラシムルコトヲ得
 政府ハ第一項ノ團體ニ對シ其ノ構成員（其ノ構成員ノ構成員ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ事業ニ關スル統制規程ノ設定變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制規程ノ設定若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ構成員若ハ構成員タル資格ヲ有スル者ニ對シ團體ノ統制規程ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得
 第一項ノ團體又ハ會社ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十八條ノ二 第十六條ノ二ノ規定ニ依リ設備若ハ權利ノ讓渡若ハ出資ヲ命ジ又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依リ事業ノ讓渡ヲ命ジタル場合ニ於テ讓渡者又ハ出資者ノ負擔スル債務ノ承繼及其ノ擔保ノ處理ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十八條ノ三 第十六條ノ二ノ規定ニ依ル設備若ハ權利ノ讓渡若ハ出資、第十六條ノ三ノ規定ニ依ル事業ノ讓渡若ハ法人ノ合併又ハ第十八條第一項若ハ第三項ノ規定ニ依リ設立セララルル團體若ハ會社ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

課稅標準ノ計算ニ關スル特例ヲ設ケ又ハ租稅ノ減免ヲ爲スコトヲ得
 第十九條中「又ハ加工賃」ヲ「加工賃、修繕料其ノ他ノ財產的給付」ニ改ム
 第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條、第十四條若ハ第十六條ノ二ノ規定ニ依ル處分第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通有價證券ノ應募、引受若ハ買入、債務ノ引受若ハ債務ノ保證ノ命令、第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル事業ノ委託、讓渡、廢止若ハ休止若ハ法人ノ目的變更若ハ解散ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス但シ第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 總動員業務ヲ行フ者ハ第十條、第十三條第三項又ハ第十四條ノ規定ニ依リ使用、收用又ハ實施ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償スベシ
 第二十九條中「拂下」ヲ「買受」ニ改ム
 第三十一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下

ノ罰金ニ處ス
 一 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
 二 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
 第三十三條中第二號及第六號ヲ削リ第三號ヲ第二號トシ以下順次一號ヲ上ニシテ第三十四條中第三號ヲ第五號トシ以下順次二號ヲ上ニシテ第二號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ
 三 第十六條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
 四 第十六條ノ三ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
 第三十五條中「前三條」ヲ「前四條」ニ改ム
 第三十八條第一號中「組合」ヲ「團體又ハ會社」ニ改メ同條中第二號ヲ第三號トシ第三號ヲ第四號トシ第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
 二 第十八條第六項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
 第四十五條 左ノ一項ヲ加フ
 第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ事業ノ統制ヲ目的トシテ設立セラレ

國家總動員會議官制中改正

正

(昭和十六年五月十四日公布
勅令第五百五十號即日施行)

國家總動員會議官制中左ノ通改正ス
第三條ノ二 貴族院議員、衆議院議員又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ命ゼラレタル委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨グズ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ委員タル者ニシテ貴族院議員、衆議院議員又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ命ゼラレタルモノノ任期ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

〔第四條關係〕

國民徵用令ニ依リ海軍ニ徵用セラレタル者ノ給與等ニ關スル件中改正

(昭和十六年二月二十日公布
海軍省令第三號即日施行)

第八條中「九等」ヲ「十等」ニ改ム

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十五年六月十號海軍省令第十一號 國民徵用令ニ徵用セラレタル者抄録
ノ給與等ニ關スル件抄録
第八條 徵用ノ前拂ヲ受タルニ非ザレバ徵用ニ應ズルコト能ハズル者ニハ徵用員ノ居住地ノ市町村又ハ之ニ準ズベキモノニ於テ徵用員ノ居住地ヨリ出頭所在地迄ノ距離ニ應ジ海軍内國旅費規則第四條ニ定ムル旅費等級九等ニ相當スル額ヲ出頭ノ例ニ應ジ國費支給スベシ

タル團體又ハ會社其ノ他本法ニ依ル命令ニ依リ統制ヲ爲ス法人其ノ他ノ團體ノ役員若ハ使用人又ハ其ノ職ニ在リタル者其ノ業務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩又ハ竊用シタルトキ亦前項ニ同ジ
第四十六條第一項中「設立シタル組合」役員其ノ職務」ヲ「事業ノ統制ヲ目的トシテ設立セラレタル團體又ハ會社其ノ他本法ニ依ル命令ニ依リ統制ヲ爲ス法人其ノ他ノ團體ノ役員又ハ使用人其ノ擔當スル統制事務」ニ改ム
第四十八條中「第三十二條」ヲ「第三十一條ノ二」ニ改ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔第八條關係〕

生活必需品統制令

(昭和十六年四月一日公布
勅令第三百六十二號即日施行)

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ)第八條ノ規定ニ基ク生活必需品ニ關スル統制及其ノ統制事務ニ付テノ國家總動員法第五條ノ規定ニ基ク勅力命令ニ付テハ別ニ定ムルモノヲ除ク外本令ノ定ムル所ニ依ル
第二條 本令ヲ適用スベキ生活必需品ノ種類ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム
第三條 主務大臣ハ生活必需品ノ生産(加工ヲ含ム以下同ジ)ヲ業トスル者又ハ其ノ團體ニ對シ生活必需品ノ生産ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ一般ニ制限ヲ爲スコトヲ得
第四條 主務大臣ハ生活必需品ノ生産ヲ業トスル者、販賣其ノ他賣渡ヲ業トスル者、輸出業者、輸入業者若ハ此等ノ者ノ團體又ハ業務ニ關シ若ハ轉賣ノ目的ヲ以テ生活必需品ヲ所有スル者

ニ對シ讓渡ノ時期、相手方其ノ他必要ナル事項ヲ指定シテ之ガ讓渡ヲ命ズルコトヲ得

第五條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ生活必需品ノ生産ヲ業トスル者、販賣其ノ他賣渡ヲ業トスル者、輸入業者又ハ此等ノ者ノ團體ニ對シ生活必需品ノ讓渡ニ關シ一般ニ數量、時期、方法、相手方、配給區域其ノ他ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第六條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ生活必需品ノ讓渡ニ關シ一般ニ數量、時期、方法、相手方其ノ他ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 主務大臣ハ生活必需品ノ生産ヲ業トスル者、販賣其ノ他賣渡ヲ業トスル者、輸出業者、輸入業者又ハ此等ノ者ノ團體ニ對シ生活必需品ノ寄託保有、買入其ノ他ノ處分又ハ移動ニ關シ一般ニ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第八條 主務大臣ハ物品ノ保管ヲ業トスル者ニ對シ生活必需品ノ保管ニ關シ一般ニ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第九條 主務大臣ハ生活必需品ノ生産ヲ業トスル者、販賣其ノ他配給ヲ業トスル者、輸入業者又ハ此等ノ者ノ團體ニ對シ生活必需品ノ生産又ハ配給ニ關シ事業計畫ノ設定又ハ其ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十條 主務大臣ハ生活必需品ノ生産ヲ業トスル者、販賣其ノ他配給ヲ業トスル者、物品ノ保管ヲ業トスル者又ハ此等ノ者ノ團體ニ對シ生活必需品ノ生産、販賣其ノ他配給、購買又ハ保管ニ關シ帳簿ヲ備ヘ必要ナル事項ノ記載ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 主務大臣ハ生活必需品ノ使用又ハ消費ヲ爲ス者ニ對シ生活必需品ノ使用又ハ消費ニ關シ一般ニ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第十二條 國家總動員法第二十七條ノ規定ニ依リ補償スベキ損失ハ左ノ各號ノ處分ニ因ル通常生ズベキ損失トス
一 第三條ノ規定ニ依ル生産ノ命令
二 第四條ノ規定ニ依リ讓渡ノ命令
損失補償請求ノ時期其ノ他損失補償ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定

第十三條 主務大臣ハ個人及法人其ノ他ノ團體ヲシテ本令ニ依ル生活必需物資ノ統制上必要ナル事務ニ協力セシムルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ關係者ヨリ生活必需物資ニ關スル統制又ハ其ノ統制事務ニ付テノ協力ニ關シ必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、店舗、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ生活必需物資、書類、帳簿等ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十五條 主務大臣ハ本令ニ定ムル職權ノ一部ヲ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム)ニ委任スルコトヲ得

第十六條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ必要アリト認ムルトキハ市町村長又ハ之ニ準ズベキモノヲシテ本令ニ依ル生活必需物資ニ關スル統制ノ實施上必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

生活必需物資指定規則

昭和十六年四月一日公布
昭和十六年六月九日公布
昭和十六年四月一日施行
昭和十六年五月一日施行

生活必需物資統制令第二條ノ規定ニ依リ同令ヲ適用スベキ生活必需物資ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ
一 農林大臣ノ定ムル食糧農産物及其ノ加工品
二 農林大臣ノ定ムル鮮魚介類
三 厚生大臣ノ定ムル醫藥品及衛生材料

附則

本令ハ生活必需物資統制令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ル所ニ依リ市町村又ハ之ニ準ズベキモノヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十七條 内地ニ於テ本令中第八條ノ規定ノ施行及之ニ必要アル他ノ規定ノ施行ニ關スル主務大臣ハ物品ノ保管ヲ業トスル者ヲ其ノ業ニ關スル法令ニ依リ監督スル所管大臣アルトキハ當該所管大臣トス

第十八條 本令中主務大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋羣島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋羣島ニ在リテハ南洋廳長官トス

第十九條 本令中令トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ總督府令、樺太又ハ南洋羣島ニ在リテハ廳令トス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鮮魚介配給統制規則

昭和十六年四月一日公布
昭和十六年五月一日施行
昭和十六年四月一日公布
昭和十六年五月一日施行

第一條 生活必需物資統制令ニ依ル鮮魚介ノ配給統制ニ付テハ本規則ノ定ムル所ニ依ル
第二條 本規則ニ於テ鮮魚介トハ海産性ノ魚類(皮附ノ鰓類ヲ除ク)、貝類、えび類及かに類ニシテ生鮮ナルモノ並ニいか類及たこ類ニシテ生鮮ナルモノ(冷凍物ヲ除キ薄鹽物、蒸茹物及輕度ノ乾燥ヲ施シタルモノヲ含ム)ヲ謂フ

第三條 販賣ノ目的ヲ以テ農林大臣ノ指定シタル地(以下指定陸揚地ト稱ス)ニ鮮魚介ヲ搬入スル者ハ其ノ搬入シタル鮮魚介ヲ當該指定陸揚地ニ付農林大臣ノ指定シタル集荷場(以下指定集荷場ト稱ス)ニ搬入スベシ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 指定陸揚地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケタル者ガ當該地方長官ノ指定シタル數量ノ範圍内ニ於テ鮮魚介ヲ搬入シタル場合
二 正味十貫ヲ超エザル數量ノ鮮魚介

キハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國、地方公共團體又ハ政府ノ指定スル者ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

第八條 政府ハ臨時ニ陸揚地總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ物資ノ統制、配給、運送其ノ他ノ處分、使用、貯蓄、貯押及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第九條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條、第十四條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出入若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通有價證券ノ發行、引受若ハ買入、債務ノ引受若ハ債務ノ保證ノ命令、第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル事業ノ委託、廢止若ハ休止若ハ法人ノ目的變更若ハ解散ノ命令ニ因リ生シタル損失ヲ補償ス但シ第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第九條、第十條ノ規定ニ依リ使用、費用又ハ實施ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生シタル損失ヲ補償スベシ

ヲ搬入シタル場合

三 特別ノ事由ニ因リ指定陸揚地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合

第四條 農林大臣鮮魚介ノ需給調整上必要アリト認ムルトキハ指定陸揚地毎ニ左ニ掲グルモノノ組織スル團體ニ對シ當該指定陸揚地ノ指定集荷場ニ搬入セラルル鮮魚介ノ出荷先、出荷ノ割合又ハ數量、出荷時期其ノ他出荷ニ關シ必要ナル計畫ヲ定ムベキコトヲ命ズルコトアルベシ

一 指定集荷場ノ開設者
二 鮮魚介ヲ漁獲シ之ヲ指定陸揚地ニ搬入スル者又ハ其ノ組織スル團體
三 鮮魚介ヲ買受ケ若ハ販賣ノ委託ヲ受ケ之ヲ指定陸揚地ニ搬入スル者又ハ其ノ組織スル團體

四 指定集荷場ニ於テ賣買取引ヲ爲ス者又ハ其ノ組織スル團體
第五條 前條ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル團體ハ同條ノ計畫ニ付農林大臣ノ承認ヲ受クベシ
農林大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示ス

タル團體前條第一項ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該計畫ニ基キ鮮魚介ノ出荷者又ハ其ノ組織スル團體ニ對シ鮮魚介ノ出荷ニ關シ必要ナル指圖ヲ爲スベシ

第七條 鮮魚介ノ出荷者又ハ其ノ組織スル團體前條ノ指圖ヲ受ケタルトキハ之ヲ遵守スルコトヲ旨トスベシ

農林大臣第四條ノ計畫ノ實施上特ニ必要アリト認ムルトキハ鮮魚介ノ出荷者又ハ其ノ組織スル團體ニ對シ鮮魚介ノ出荷先、出荷ノ割合又ハ數量、出荷時期其ノ他出荷ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトアルベシ

第八條 農林大臣鮮魚介ノ需給調整上必要アリト認ムルトキハ其ノ指定シタル地域（以下指定消費地域ト稱ス）内ニ鮮魚介ヲ搬入スル者ノ組織スル團體ニ對シ鮮魚介ノ出荷先、出荷ノ割合又ハ數量、出荷時期其ノ他出荷ニ關シ必要ナル計畫ヲ定ムベキコトヲ命ズルコトアルベシ

第五條乃至第七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 指定消費地域内ニ當該地域外ヨリ鮮魚介ヲ搬入スル者ハ當該指定消費

地域ニ付農林大臣ノ指定シタル市場（以下指定消費市場ト稱ス）ノ賣買取引ニ依ルニ非ズレバ其ノ搬入シタル鮮魚介ヲ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 指定消費地域ノ當該地方長官ノ許可ヲ受ケタル者ガ當該地方長官ノ指定シタル數量ノ範圍内ニ於テ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲ス場合

二 一日正味十貫ヲ超エザル數量ノ鮮魚介ヲ販賣スル場合

三 特別ノ事由ニ因リ指定消費地域ノ當該地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合

第十條 鮮魚介ノ小賣ヲ爲ス者又ハ業務上鮮魚介ノ消費ヲ爲ス者ニシテ指定消費地域内ニ住所、居所、營業所、事業場又ハ事務所ヲ有スルモノハ當該指定消費地域内ニ所在スル指定消費市場其ノ他鮮魚介ノ販賣ヲ爲ス者ノ販賣場以外ヨリ當該指定消費地域内ニ於テ賣渡シ又ハ消費スル鮮魚介ヲ買受ケ（買入ノ委託ヲ爲ス場合ヲ含ム以下同ジ）又ハ販賣ノ委託ヲ受ケルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 正味五貫ヲ超エザル數量ノ鮮魚介ヲ買受ケル場合

二 特別ノ事由ニ因リ指定消費地域ノ當該地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合

第十一條 農林大臣鮮魚介ノ需給調整上必要アリト認ムルトキハ指定消費市場ニ於テ賣買取引ヲ爲ス者又ハ其ノ組織スル團體ニ對シ當該指定消費市場ニ於テ賣買取引セラルル鮮魚介ノ出荷先、出荷ノ割合又ハ數量、出荷時期其ノ他出荷ニ關シ必要ナル計畫ヲ定ムベキコトヲ命ズルコトアルベシ

第五條乃至第七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 地方長官當該道府縣ニ於ケル鮮魚介ノ需給調整上特ニ必要アリト認ムルトキハ左ニ掲グル者又ハ團體ニ對シ鮮魚介ノ出荷先、出荷ノ割合又ハ數量、出荷時期其ノ他出荷ニ關シ必要ナル計畫ヲ定ムベキコトヲ命ズルコトアルベシ

一 集荷場ノ開設者

二 鮮魚介ヲ漁獲シ之ヲ集荷場ニ搬入スル者又ハ其ノ組織スル團體

三 鮮魚介ヲ買受ケ若ハ販賣ノ委託ヲ

二三四

受ケ之ヲ集荷場ニ搬入スル者又ハ其ノ組織スル團體

四 集荷場ニ於テ賣買取引ヲ爲ス者又ハ其ノ組織スル團體

五 前各號ニ掲グルモノノ組織スル團體

第五條乃至第七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

但シ第五條及第七條第二項中農林大臣トアルハ地方長官トス

第十三條 總噸數五噸以上ノ船舶ヲ以テ鮮魚介ノ陸揚ヲ爲ス者ハ農林大臣ノ指定シタル場合ヲ除クノ外當該船舶ニ付其ノ陸揚地ヲ定メ陸揚地ノ地方長官ニ届出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

農林大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ者ニ對シ同項ノ船舶ニ付其ノ陸揚地ヲ指定スルコトアルベシ

第十四條 鮮魚介ノ漁獲ヲ爲ス者又ハ鮮魚介ノ販賣若ハ販賣ノ委託ヲ爲ス者ニシテ内地ニ住所、居所、營業所、事業場又ハ事務所ヲ有スルモノハ農林大臣ノ指定シタル場合ヲ除クノ外農林大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ズレバ販賣ノ目的

ヲ以テ内地以外ノ地域ニ農林大臣ノ指定シタル鮮魚介ヲ搬出スルコトヲ得ズ

農林大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ搬出ヲ爲スコトヲ得ル者ヲ指定スルコトアルベシ

第十五條 前條第一項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

一 種類及數量

二 仕向地及仕向港又ハ仕向驛

三 積出港又ハ積出驛

四 搬出時期

前條第一項ノ許可ヲ受ケタル者前項各號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ之ヲ農林大臣ニ届出ヅベシ

第十六條 農林大臣又ハ地方長官鮮魚介ノ配給統制上特ニ必要アリト認ムルトキハ左ニ掲グル者又ハ團體ニ對シ鮮魚介ノ販渡、讓受又ハ移動ニ關シ一般ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

一 集荷場ノ開設者

二 鮮魚介ノ漁獲ヲ爲ス者又ハ其ノ組織スル團體

三 鮮魚介ノ販賣若ハ販賣ノ委託ヲ爲ス者又ハ其ノ組織スル團體

四 業務上鮮魚介ノ消費ヲ爲ス者又ハ其ノ組織スル團體

第十七條 農林大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ前條各號ニ掲グル者又ハ團體ニ付鮮魚介ノ配給統制上必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

生活必需物資統制令第十三條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十條第一項ノ規定ハ昭和十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

鮮魚介配給統制規則第十三條第一項ノ規定ニ依リ鮮魚介ノ陸揚地ノ届出ヲ爲スコトヲ要セザル場合左ノ邊指定シ昭和十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

（昭和十六年四月二十八日公布）
（農林省告示第二百三十八號）

一 汽船「トロール」漁業者、機船底曳網漁業者又ハ母船式漁業者ガ汽船「トロール」漁業取締規則、機船底曳網漁業取締規則又ハ母船式漁業取締規則ノ定ムル所ニ依リ漁獲物タル鮮魚介ヲ陸

二三五

揚スル場合
 二 専ラ漁業ニ關スル試験、調査、指導若ハ練習ニ從事スル船舶又ハ漁業ノ取締ニ從事スル船舶ヲ以テ鮮魚介ヲ陸揚スル場合
 三 天災其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ地方長官ニ届出デタル陸揚地ニ陸揚スルコト能ハザル爲其ノ陸揚地ヲ變更セントスル場合

醫藥品及衛生材料生産配給統制規則

(昭和十六年五月七日公布
 厚生省令第十五號)

第一條 生活必需品統制令ニ依リ醫藥品及衛生材料ノ生産配給ノ統制ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル
 第二條 厚生大臣ノ指定シタル醫藥品(以下第一種醫藥品ト稱ス)ノ生産(自製ノ醫藥品ノ原料ニ供スル目的ヲ以テ爲ス生産ヲ含ム以下同ジ)ヲ業トセントスル者ハ厚生大臣ノ許可ヲ受クベシ前項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ厚生大臣ニ提出スベシ

一 住所(法人ニ在リテハ主たる事務所所在地)及氏名(法人ニ在リテハ名稱)
 二 業種、製業者、賣業者ノ別
 三 品名
 四 生産ノ目的
 五 工場所在地
 六 生産能力及生産工程
 七 原材料取得ノ方法
 第三條 前條第一項ノ許可ヲ受ケタル者第一種醫藥品ニ付其ノ生産ヲ廢止シ又ハ生産能力若ハ生産工程ヲ變更セントスルトキハ厚生大臣ノ許可ヲ受クベシ前項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ具シタル許可申請書ヲ厚生大臣ニ提出スベシ
 前條第一項ノ許可ヲ受ケタル者前條第二項第一號、第二號、第四號、第五號又ハ第七號ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ直ニ厚生大臣ニ届出アベシ
 前條第一項ノ許可ヲ受ケタル者第一種醫藥品ニ付其ノ生産ヲ一月以上休止セントスルトキハ豫メ其ノ事由及休止ノ期間ヲ厚生大臣ニ届出アベシ
 第四條 厚生大臣ハ第一種醫藥品若ハ第

六條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル衛生材料ノ生産ヲ業トスル者又ハ此等ノ者ノ團體ニ對シ生産ノ數量、時期其ノ他必要ナル事項ヲ指定シテ當該醫藥品又ハ衛生材料ノ生産ヲ命ズルコトアルベシ
 第五條 厚生大臣ノ指定シタル醫藥品(以下第二種醫藥品ト稱ス)ノ生産ヲ業トスル者、輸入業者、移入業者又ハ此等ノ者ノ團體ハ厚生大臣ノ指定シタル者(以下生産統制機關ト稱ス)以外ノ者ニ對シ當該醫藥品ヲ讓渡スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 一 生産ヲ業トスル者、輸入業者又ハ移入業者ガ此等ノ者ノ團體ニ讓渡スルトキ
 二 陸軍衛生材料廠又ハ海軍軍需部ニ讓渡スルトキ
 三 特別ノ事情ニ依リ厚生大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ
 第六條 厚生大臣ノ指定シタル醫藥品又ハ衛生材料(以下第三種醫藥品衛生材料ト稱ス)ノ生産ヲ業トスル者、輸入業者、移入業者又ハ此等ノ者ノ團體ハ

厚生大臣ノ指定シタル者(以下配給統制機關ト稱ス)以外ノ者ニ對シ當該醫藥品又ハ衛生材料ヲ讓渡スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 一 第二種醫藥品ニ該當スルモノニ付生産統制機關ニ讓渡スルトキ
 二 生産ヲ業トスル者、輸入業者又ハ移入業者ガ此等ノ者ノ團體又ハ第二項ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者ニ讓渡スルトキ
 三 陸軍衛生材料廠又ハ海軍軍需部ニ讓渡スルトキ
 四 特別ノ事情ニ依リ厚生大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ
 第七條 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下同ジ)ノ指定シタル者又ハ其ノ團體(以下仲買人ト稱ス)ニ非ザレバ厚生大臣ノ指定シタル醫藥品(以下指定生薬ト稱ス)ノ生産者又ハ其ノ團體ヨリ醫藥品ノ製造又ハ販賣ノ業務ニ關シ當該指定生薬ヲ讓受クルコトヲ

得ズ但シ左ノ各號ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 一 生産者ノ團體ガ生産者ヨリ讓受クルトキ
 二 特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキ
 第八條 仲買人ハ厚生大臣ノ指定シタル者以外ノ者ニ對シ生産者又ハ其ノ團體ヨリ讓受ケタル指定生薬ヲ讓渡スルコトヲ得ズ但シ仲買人間ニ於テ讓渡スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 前項但書ノ規定ニ依リ仲買人間ニ讓渡アリタル場合ニ於テ最終ニ指定生薬ヲ讓受ケタル仲買人ハ前項ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者以外ノ者ニ對シ當該指定生薬ヲ讓渡スルコトヲ得ズ又ハ此等ノ者ノ團體ハ厚生大臣ノ指定シタル者以外ノ者ニ對シ當該指定生薬ヲ讓渡スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 一 輸入業者又ハ移入業者ガ此等ノ者ノ團體ニ讓渡スルトキ
 二 特別ノ事情ニ依リ厚生大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ

第十條 生産統制機關、配給統制機關又ハ第八條若ハ前條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者ハ夫レ夫レ第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料又ハ指定生薬ニ付豫メ厚生大臣ノ承認ヲ受ケタル配給計畫ニ依リ非ザレバ當該醫藥品、衛生材料又ハ指定生薬ヲ讓渡スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 一 陸軍衛生材料廠又ハ海軍軍需部ニ讓渡スルトキ
 二 特別ノ事情ニ依リ厚生大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ
 第十一條 地方長官ノ指定シタル者(以下卸賣機關ト稱ス)ハ第三種醫藥品衛生材料ニ付豫メ地方長官ノ承認ヲ受ケタル配給計畫ニ依リ非ザレバ當該醫藥品又ハ衛生材料ヲ讓渡スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 第十二條 厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ第十條又ハ前條ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケタル配給計畫ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ
 第十三條 卸賣機關ハ當該道府縣ニ於ケ

ル醫藥品又ハ衛生材料ノ販賣ヲ業トスル者(生産統制機關、配給統制機關、第六條第二項、第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者及卸賣機關ヲ除ク以下小賣業者ト稱ス)及地方長官ノ指定シタル者以外ノ者ニ對シ第三種醫藥品衛生材料ヲ讓渡スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 購入券ハ之ヲ他人ニ讓渡シ又ハ他人ヨリ讓受ケルコトヲ得ズ
第十八條 地方長官ハ購入券ノ發行者ニ對シ其ノ發行スベキ購入券ニ相當スル醫藥品又ハ衛生材料ノ品目別數量ヲ決定シ之ヲ通知スベシ
購入券ノ發行者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル醫藥品又ハ衛生材料ノ品目別數量ノ限度内ニ於テ購入券ヲ發行スベシ
第十九條 地方長官ハ卸賣機關ニ對シ前條第一項ノ品目別數量ヲ通知スベシ
卸賣機關ハ購入券ト引換フルニ非ザレバ前項ノ通知ヲ受ケタル品目別數量ニ該當スル醫藥品又ハ衛生材料ヲ讓渡スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前條第二項但書ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケ卸賣機關ガ讓渡スル場合ニ於テ讓受ケタル醫藥品又ハ衛生材料ニ付亦前項ニ同ジ
第二十一條 卸賣機關又ハ前條ノ小賣業者ハ第十四條ノ規定ニ依リ厚生大臣又ハ地方長官ノ指定シタル醫藥品又ハ衛生材料ニ付購入券ト引換ヘニ讓受ノ申込アリタルトキハ正當ノ事由アルニ非ザレバ之ヲ拒ムコトヲ得ズ
第二十二條 卸賣機關又ハ小賣業者ハ前條ノ醫藥品又ハ衛生材料ヲ讓渡スル爲引換ヘタル購入券ニ引換後遲滞ナク自己ノ氏名又ハ名稱及引換ノ年月日ヲ記入シ消印ヲ捺捺スベシ但シ卸賣機關ガ小賣業者ニ讓渡スル爲引換ヘタル購入券ニ付テハ之ニ消印ヲ捺捺スルヲ以テ足ルモノトス
第二十三條 卸賣機關又ハ小賣業者ハ第十九條第二項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ購入券ト引換フルニ非ザレバ讓渡スルコトヲ得ザル醫藥品又ハ衛生材料ヲ使用セントスルトキハ自己ノ用ニ供スル爲交付ヲ受ケタル購入券ニ自己ノ氏名又ハ名稱及使用ノ年月日ヲ記入シ消

第十條 厚生大臣又ハ地方長官第三種醫藥品衛生材料ニ付配給ノ圖滑ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ地域、品目及用途ヲ指定シ其ノ讓渡又ハ讓受ニ付購入券ヲ使用セシムルコトアルベシ
第十五條 購入券ノ發行者ハ市町村長(之ニ準ズベキモノヲ含ム以下同ジ)其ノ他ノ者ニ付厚生大臣又ハ地方長官ノ指定スル
前項ノ外購入券ノ様式其ノ他其ノ交付ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官ノ指定スル

第二十條 第十四條ノ規定ニ依リ厚生大臣又ハ地方長官ノ指定シタル地域ニ於ケル小賣業者ハ購入券ト引換フルニ非ザレバ前條第二項ノ規定ニ依リ購入券ト引換ヘニ卸賣機關ヨリ讓受ケタル醫藥品又ハ衛生材料ヲ讓渡スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第二十八條 厚生大臣ノ指定シタル醫藥品又ハ衛生材料ハ之ヲ厚生大臣ノ指定シタルモノノ原料又ハ材料ニ使用スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

關又ハ第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者ハ夫レ夫レ第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料又ハ指定生薬ニ付左ノ各號ニ掲グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ毎月十五日迄ニ、厚生大臣ニ提出スベシ
一 前月中ニ於ケル品目別讓受先別讓受數量
二 前月中ニ於ケル品目別讓渡先別讓渡數量
三 前月末ニ於ケル品目別在庫數量
第三十二條 生産統制機關、配給統制機關、卸賣機關又ハ第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者ハ帳簿ヲ備ヘ夫レ夫レ第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料又ハ指定生薬ニ付左ノ各號ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
一 品目別讓受先別讓受數量、讓受價格及讓受年月日
二 品目別讓渡先別讓渡數量、讓渡價格及讓渡年月日
三 毎月末ニ於ケル品目別在庫數量
第三十三條 厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ第一種醫藥品、第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料又

第十六條 購入券ノ發行ニ關シ市町村長ノ行フ事務ニ關スル費用ハ市町村(之ニ準ズベキモノヲ含ム)ノ負擔トス

第二十九條 生産統制機關、配給統制機關又ハ第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者ハ事業計畫書ヲ年度開始前二月迄ニ厚生大臣ニ提出シ其ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
第三十條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ハ第一種醫藥品ニ付毎年四月ヨリ翌年三月ニ至ル一年ノ月別品目別生産豫定計畫書ヲ前年十一月末日迄ニ厚生大臣ニ提出スベシ
前項ノ規定ニ依リ提出シタル生産豫定計畫書ヲ變更シタルトキハ直チニ厚生大臣ニ報告スベシ
第三十一條 生産統制機關、配給統制機

關又ハ第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者ハ夫レ夫レ第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料又ハ指定生薬ニ付左ノ各號ニ掲グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ毎月十五日迄ニ、厚生大臣ニ提出スベシ
一 前月中ニ於ケル品目別讓受先別讓受數量
二 前月中ニ於ケル品目別讓渡先別讓渡數量
三 前月末ニ於ケル品目別在庫數量
第三十二條 生産統制機關、配給統制機關、卸賣機關又ハ第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者ハ帳簿ヲ備ヘ夫レ夫レ第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料又ハ指定生薬ニ付左ノ各號ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
一 品目別讓受先別讓受數量、讓受價格及讓受年月日
二 品目別讓渡先別讓渡數量、讓渡價格及讓渡年月日
三 毎月末ニ於ケル品目別在庫數量
第三十三條 厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ第一種醫藥品、第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料又

印ヲ捺捺スベシ
第二十四條 卸賣機關又ハ小賣業者ハ第二十二條又ハ前條ノ規定ニ依リ消印ヲ捺捺シタル購入券ヲ一月毎ニ取換メ翌月十五日迄ニ其ノ發行者ニ送附スベシ
第二十五條 厚生大臣ハ第二種醫藥品又ハ第三種醫藥品衛生材料ノ生産ヲ業トスル者、輸入業者、移入業者又ハ此等ノ者ノ團體、生産統制機關、配給統制機關、第六條第二項、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者又ハ仲買人ニ對シ讓渡ノ時期、相手方其ノ他必要ナル事項ヲ指定シテ第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料又ハ指定生薬ノ讓渡ヲ命ズルコトアルベシ
第二十六條 地方長官本令ノ施行ニ關シ特ニ必要アリト認ムルトキハ卸賣機關又ハ小賣業者ニ對シ讓渡ノ時期、相手方其ノ他必要ナル事項ヲ指定シテ第三種醫藥品衛生材料ノ讓渡ヲ命ジ又ハ其ノ讓渡若ハ讓受ニ關シ一般的ニ數量、時期、方法、相手方若ハ配給區域ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

ヲ爲サントスル者ハ處分事項ノ實施終了後之ヲ請求スベシ但シ厚生大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ別段ノ時期ニ之ヲ請求スルコトヲ得
第二十八條 厚生大臣ノ指定シタル醫藥品又ハ衛生材料ハ之ヲ厚生大臣ノ指定シタルモノノ原料又ハ材料ニ使用スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第二十九條 生産統制機關、配給統制機關又ハ第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者ハ事業計畫書ヲ年度開始前二月迄ニ厚生大臣ニ提出シ其ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
第三十條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ハ第一種醫藥品ニ付毎年四月ヨリ翌年三月ニ至ル一年ノ月別品目別生産豫定計畫書ヲ前年十一月末日迄ニ厚生大臣ニ提出スベシ
前項ノ規定ニ依リ提出シタル生産豫定計畫書ヲ變更シタルトキハ直チニ厚生大臣ニ報告スベシ
第三十一條 生産統制機關、配給統制機

關又ハ第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者ハ夫レ夫レ第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料又ハ指定生薬ニ付左ノ各號ニ掲グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ毎月十五日迄ニ、厚生大臣ニ提出スベシ
一 前月中ニ於ケル品目別讓受先別讓受數量
二 前月中ニ於ケル品目別讓渡先別讓渡數量
三 前月末ニ於ケル品目別在庫數量
第三十二條 生産統制機關、配給統制機關、卸賣機關又ハ第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者ハ帳簿ヲ備ヘ夫レ夫レ第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料又ハ指定生薬ニ付左ノ各號ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
一 品目別讓受先別讓受數量、讓受價格及讓受年月日
二 品目別讓渡先別讓渡數量、讓渡價格及讓渡年月日
三 毎月末ニ於ケル品目別在庫數量
第三十三條 厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ第一種醫藥品、第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料又

第二十七條 生活必需品統制令第十二條第一項ノ規定ニ依ル損失補償ノ請求

第三十條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ハ第一種醫藥品ニ付毎年四月ヨリ翌年三月ニ至ル一年ノ月別品目別生産豫定計畫書ヲ前年十一月末日迄ニ厚生大臣ニ提出スベシ
前項ノ規定ニ依リ提出シタル生産豫定計畫書ヲ變更シタルトキハ直チニ厚生大臣ニ報告スベシ
第三十一條 生産統制機關、配給統制機

關又ハ第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者ハ夫レ夫レ第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料又ハ指定生薬ニ付左ノ各號ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
一 品目別讓受先別讓受數量、讓受價格及讓受年月日
二 品目別讓渡先別讓渡數量、讓渡價格及讓渡年月日
三 毎月末ニ於ケル品目別在庫數量
第三十三條 厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ第一種醫藥品、第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料又

麥類配給統制規則

(昭和十六年六月九日農林省令第一五十一號即日施行)

第一條 生活必需品統制令ニ依ル麥類ノ配給統制ニ付テハ本則ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本則ニ於テ麥類トハ大麥、裸麥、小麥及燕麥(精麥ヲ含ム)ヲ謂フ

第三條 麥類生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者ノ其ノ生産シ又ハ小作料トシテ受ケタル麥類ノ出荷ハ其ノ所屬スル市農會又ハ町村農會ノ統制ニ從ヒ之ヲ爲スモノトス

第四條 販賣組合及農業者以外ノ者ガ麥類生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者ヨリ其ノ生産シ又ハ小作料トシテ受ケタル麥類ヲ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外當該麥類生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者ノ所屬スル市農會又ハ町村農會ノ統制ニ依ルベシ

一 特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキ

二 其他農林大臣ノ指定シタル場合

テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

第三十六條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第七條、第八條及第十三條乃至第二十四條ハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十七條 第二條第一項ノ規定ニ依ル第一種醫藥品ノ指定ノ日ニ於テ現ニ當該醫藥品ノ生産ヲ業トスル者ハ指定ノ日ヨリ二月ヲ限リ第二條第一項ノ規定ニ拘ラズ其ノ生産ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲グル者同項ノ期間内ニ第二條第二項各號ニ掲グル事項ヲ厚生大臣ニ届出デタル者ハ届出ノ日ニ於テ當該第一種醫藥品ニ付同條第一項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三十八條 第二十九條ノ規定ニ依リ提出スベキ事業計畫書ノ提出期限ハ昭和十六年度ニ限リ昭和十六年六月一日トス

第三十九條 第三十條ノ規定ニ依リ提出スベキ生産豫定計畫書ノ提出期限ハ昭和十六年四月ヨリ昭和十七年三月ニ至ル生産豫定計畫書ニ限リ昭和十六年七月十日トス

ハ指定生産ノ生産ヲ業トスル者、輸入業者、移入業者又ハ此等ノ者ノ團體、生産統制機關、配給統制機關、第六條第二項、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者、仲買人、卸賣機關又ハ小賣業者ニ付必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、店舗、事務所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ第一種醫藥品、第二種醫藥品、第三種醫藥品衛生材料若ハ指定生産、書類、帳簿其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ臨檢検査ヲ爲ス當該官吏ハ其ノ身分ヲ示ス別記様式ノ證券ヲ携帯スベシ

第三十條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者本令ノ規定ニ違反シタルトキハ厚生大臣ハ其ノ許可ヲ取消スルコトアルベシ

第三十五條 本令ノ規定ニ依リ厚生大臣ニ提出スベキ書類ハ主タル事務所在地方官署又ハ地方長官ヲ經由スベシ但シ生産統制機關、配給統制機關又ハ第八條若ハ第九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者ノ提出スベキモノニ付

前項ノ規定ハ燕麥ニ付テハ之ヲ適用セズ

第八條 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第四條乃至第七條ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條 農林大臣又ハ地方長官麥類ノ配給ヲ統制スル爲テ必要アリト認ムルトキハ麥類生産者、土地ニ付權利ヲ有スル者ニシテ小作料トシテ麥類ヲ受ケタル者、第六條第三項ノ麥類ヲ收受シタル者又ハ販賣ノ目的ヲ以テ麥類ヲ占有スル者ニ對シ一般ノ倉庫、時期其ノ他必要ナル事項ヲ定メ其ノ所有シ又ハ占有スル麥類ヲ寄託スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十條 麥類生産者、土地ニ付權利ヲ有スル者ニシテ小作料トシテ麥類ヲ受ケタル者、第六條第三項ノ麥類ヲ收受シタル者又ハ販賣ノ目的ヲ以テ麥類ヲ占有スル者ハ其ノ所有シ又ハ占有スル麥類ニ付農林大臣ヨリ價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ定ムル最高販賣價格ニ依リ買入ノ申込アリタルトキハ其ノ申込ニ應ジ之ヲ賣渡スベシ

第十一條 農林大臣又ハ地方長官麥類ノ

第四條ニ規定スル場合及小作料トシテ麥類ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外麥類生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者ヨリ其ノ生産シ又ハ小作料トシテ受ケタル麥類ヲ收受シタル者其ノ麥類ヲ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲サントスルトキ亦前項ニ同ジ

第七條 販賣組合聯合會ハ全國購買販賣組合聯合會(聯合農業者タル場合ヲ含ム以下同ジ)以外ノ者ニ麥類ヲ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲スコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

全國購買販賣組合聯合會ハ政府以外ノ者ニ前項ノ規定ニ依リ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル麥類ヲ販賣スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ農林大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前條第二項ノ地方長官ノ指定スル麥類取扱業者ノ團體ハ政府以外ノ者ニ前條ノ規定ニ依リ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル麥類ヲ販賣スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

販賣組合又ハ農業者タル者ガ麥類生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者ヨリ其ノ生産シ又ハ小作料トシテ受ケタル麥類ヲ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケントスルトキハ當該麥類生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者ノ所屬スル市農會又ハ町村農會ノ出納統制ニ依ルベシ

第五條 前條ノ規定ニ依リ麥類ヲ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル者ハ農林大臣ノ指定シタル場合ヲ除クノ外其ノ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル麥類ヲ販賣以外ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第六條 販賣組合又ハ農業者タル者ハ當該道府縣ヲ區域トスル販賣組合聯合會(聯合農業者タル場合ヲ含ム以下同ジ)以外ノ者ニ麥類ヲ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條第一項ノ規定ニ依リ市農會若ハ町村農會ノ統制ニ依リ麥類ヲ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル者又ハ同條第一項第一號若ハ第二號ノ場合ニ於テ麥類ヲ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ指定スル麥類取扱業者ノ團體以外ノ者ニ其ノ麥類ヲ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲スコトヲ得ズ

販賣組合又ハ農業者タル者ガ麥類生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者ヨリ其ノ生産シ又ハ小作料トシテ受ケタル麥類ヲ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケントスルトキハ當該麥類生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者ノ所屬スル市農會又ハ町村農會ノ出納統制ニ依ルベシ

第五條 前條ノ規定ニ依リ麥類ヲ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル者ハ農林大臣ノ指定シタル場合ヲ除クノ外其ノ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル麥類ヲ販賣以外ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第六條 販賣組合又ハ農業者タル者ハ當該道府縣ヲ區域トスル販賣組合聯合會(聯合農業者タル場合ヲ含ム以下同ジ)以外ノ者ニ麥類ヲ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條第一項ノ規定ニ依リ市農會若ハ町村農會ノ統制ニ依リ麥類ヲ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル者又ハ同條第一項第一號若ハ第二號ノ場合ニ於テ麥類ヲ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ指定スル麥類取扱業者ノ團體以外ノ者ニ其ノ麥類ヲ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲スコトヲ得ズ

配給ヲ統制スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ麥類ヲ所有シ若ハ占有スル者市農會、町村農會、販賣組合、農業倉庫業者其ノ他麥類ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理者ハ媒介ヲ爲ス者又ハ其ノ團體ニ對シ麥類ノ配給ニ關シ一般ノ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條 精麥ノ製造設備ノ新設、増設又ハ改設ヲ爲サントスル者ハ農林大臣ノ許可ヲ受クベシ

第十三條 農林大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ第十一條ニ掲グル者ヨリ麥類ノ配給ニ關シ必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

生活必需品統制令第十四條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

號小麥配給統制規則ハ之ヲ廢止ス
前項ニ掲グル命令ハ本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ本令施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス
昭和十五年六月農林省告示第二百六十五號(麥類配給統制規則第一條第三號ノ場合指定ノ件)、昭和十五年七月農林省告示第三百二十八號(小麥配給統制規則第三條第一項第二號ノ場合指定ノ件)及昭和十五年七月農林省告示第三百三十號(小麥配給統制規則第五條第一項ノ規定ニ依ル者指定ノ件)ハ之ヲ廢止ス
〔昭和十六年六月九日公布 農林省告示第三百六十六號〕
麥類配給統制規則第四條第一項第二號ノ場合左ノ邊指定ス
〔昭和十六年六月九日公布 農林省告示第三百六十七號〕
地方長官ノ指定スル市町村内ニ於テ生産セラレタル麥類ニ付當該市町村ノ承認ヲ受ケタルトキ

二四二
麥類配給統制規則第五條ノ規定ニ依リ左ノ邊指定ス
〔昭和十六年六月九日公布 農林省告示第三百六十八號〕

一 第四條第一項第一號ノ許可ヲ受ケタルトキ
二 販賣組合ガ其ノ買受ケ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル麥類ヲ原料トシ自己ノ設備ニ依リ加工ヲ爲スニ付地方長官ノ承認ヲ受ケタルトキ

〔第九條關係〕
貿易統制令

〔昭和十六年五月十四日公布 勅令第五百八十一號五月十五日施行〕
第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ)第九條ノ規定ニ基ク輸出若ハ輸入ノ命令又ハ輸出若ハ輸入ノ制限若ハ禁止及當該命令ニ係ル物品ノ讓渡其ノ他ノ處分、所持又ハ移動ニ關スル國家總動員法第八條ノ規定ニ基ク命令ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 輸出又ハ輸入ノ命令ハ主務大臣命令ノ定ムル所ニ依リ輸出令書又ハ輸入令書ヲ發シ輸出業者又ハ輸入業者ニ交付シテ之ヲ爲ス

第三條 主務大臣ハ前條ノ規定ニ依リ輸出又ハ輸入ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テ當該命令ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ國家總動員法第八條ノ規定ニ基キ當該物品ノ讓渡其ノ他ノ處分、所持又ハ移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第四條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ品目ヲ指定シテ輸出又ハ輸入ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該物品ノ讓渡其ノ他ノ處分、所持又ハ移動ニ關スル條件ヲ附スルコトヲ得

第五條 國家總動員法第二十七條ノ規定ニ基キ補償スベキ損失ハ第二條ノ規定ニ依リ輸出又ハ輸入ノ命令ヲ爲シタル場合及當該命令ヲ受ケタル者ニ對シ第三條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲シタル場合ニ於テ當該命令ニ依ル損失ニシテ通常生ズベキモノ其ノ他主務大臣ノ定ムルモノトス

前項ノ損失ノ補償ヲ請求セントスル者ハ主務大臣ノ指定シタル期間内ニ之ヲ請求スベシ

第六條 主務大臣必要ト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ輸出若ハ輸入又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關シ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ事業場、店舗、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第七條 本令中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス
附則 本令ハ昭和十六年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年五月二十五日ヨリ之ヲ施行ス
〔參照〕 昭和十三年四月一法律第五十五號國家總動員法抄録

第八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員法上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ物資ノ生産、管理、配給、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、所持及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員法上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ輸出若ハ輸入ノ制限若ハ禁止ヲ爲シ、輸出若ハ輸入ノ命令、輸出若ハ輸入ノ報告又ハ輸出若ハ輸入ノ稅増課若ハ減免スルコトヲ得

第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條、第十四條若ハ第十六條ノ二ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通、有價證券ノ應募、引受若ハ買入、債務ノ引受若ハ債務ノ保障ノ命令、第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル事業ノ委託、讓渡、廢止若ハ休止若ハ法人ノ目的變更若ハ解散ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス但シ第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

勸動員業務ヲ行フ者ハ第十條、第十三條第三項又ハ第十四條ノ規定ニ依リ使用、敷用又ハ實施ヲ爲ス場合ニ於テハ勸令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償スベシ

第三十一條 政府ハ國家總動員法上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得
昭和十三年五月四勅令第三百十七號ハ南洋群島ニ於ケル國家總動員法ニ關スル件ナリ

貿易統制令施行規則

(昭和十六年六月十二日公布
商工農林省令第九號即日施行)

- 第一條 貿易統制令(以下令ト稱ス)ノ施行ニ付テハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本則ノ定ムル所ニ依ル
第二條 輸出令書及輸入令書(以下令書ト總稱ス)ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載ス
一 輸出業者又ハ輸入業者ノ氏名又ハ名稱及住所
二 品名
三 數量
四 單價及價格
五 輸出又ハ輸入ノ時期
六 輸出港又ハ輸入港
七 仕向港又ハ積出港
八 仕向地又ハ仕入地
九 令第五條ノ規定ニ依ル損失ノ補償ニ關スル事項
十 其ノ他必要ナル事項
第三條 商工大臣又ハ農林大臣必要ト認ムルトキハ輸出又ハ輸入ノ命令ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトアルベシ

- 輸出又ハ輸入ノ命令ノ變更又ハ取消ハ商工大臣又ハ農林大臣變更令書又ハ取消令書ヲ發シ輸出又ハ輸入ノ命令ヲ受ケタル輸出業者又ハ輸入業者(以下受命者ト總稱ス)ニ交付シテ之ヲ爲ス
第四條 受命者當該命令ニ依ル輸出又ハ輸入ノ約定ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク別記様式第一號ニ依ル輸出約定報告書又ハ輸入約定報告書ヲ商工大臣又ハ農林大臣ニ提出スベシ
前項ノ輸出約定報告書又ハ輸入約定報告書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ受命者ハ遲滞ナク之ヲ商工大臣又ハ農林大臣ニ届出スベシ
第五條 受命者當該命令ニ依ル輸出又ハ輸入ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク別記様式第二號ニ依ル輸出報告書又ハ輸入報告書ニ輸出又ハ輸入ヲ爲シタルコトヲ證明スル書面ヲ添付シ之ヲ商工大臣又ハ農林大臣ニ提出スベシ
第六條 受命者當該命令ニ依ル輸出又ハ輸入ヲ爲スコト能ハズ又ハ著シク困難ナリト認ムルニ至リタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ之ヲ商工大臣又ハ農林大臣ニ届出スベシ

- 第七條 令第三條ノ規定ニ依ル命令ハ商工大臣又ハ農林大臣輸出ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該物品ノ輸出ヲ確保スル爲必要ト認ムルトキハ當該物品ニ付、輸入ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該命令ニ依リ輸入シタル物品ニ付之ヲ爲ス
第八條 受命者損失ノ補償ヲ請求セントスルトキハ損失ノ生ジタル日ヨリ六月以内ニ損失補償請求書ヲ商工大臣又ハ農林大臣ニ提出スベシ
商工大臣又ハ農林大臣正當ノ事由アリト認ムルトキハ前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトアルベシ
第九條 損失補償請求書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
一 令書又ハ令第三條ノ規定ニ命令書ノ番號
二 補償請求ノ事由
三 補償請求額
四 其ノ他必要ト認ムル事項
前項ノ損失補償請求書ニハ損失補償額算出明細書ヲ添付スベシ
前項ノ添付書類ノ外商工大臣又ハ農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ求ム

二四四

- 第十條 關稅定率法別表輸入稅表ニ掲グル物品ニシテ商工大臣ノ指定シタルモノハ商工大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 關東州、滿洲及支那ニ對スル貿易ノ調整ニ關スル件第一條ノ規定ニ依ル指定輸出品ヲ關東州、滿洲又ハ支那ニ輸出スルトキ
二 輸出品及輸出品用原材料配給統制規則第一條ノ規定ニ依ル統制機關ヨリ買受ケ又ハ輸出ノ委託ヲ受ケタル指定輸出品ヲ輸出スルトキ
三 南洋ニ對スル貿易ノ調整ニ關スル件第一條ノ規定ニ依ル指定輸出品ヲ同條ノ規定ニ依リ商工大臣ノ指定シタル地域ニ輸出スルトキ
四 國家總動員法第九條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ輸出スルトキ
第十一條 前條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル物品ノ輸出ニ付テハ之ヲ適用セズ
一 御料品

- 二 本邦ニ來遊スル外國ノ元首及其ノ一族並ニ其ノ從者ニ屬スル物品
三 本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使公使其ノ他之ニ準ズベキ使節、大使館若ハ公使館ノ館員又ハ領事ニ屬スル自用品及在本邦外國大使館、公使館又ハ領事館ニ屬スル公用品
四 官廳ノ輸出ニ係ル物品
五 手荷物、引越荷物又ハ船用品
六 博覽會ニ出品スル爲輸出スル物品
七 關稅定率法第八條第一號、第三號第七號又ハ第八號ノ規定ノ適用ヲ受ケタル物品
八 販賣以外ノ目的ヲ以テ輸出シ且其ノ原價五十圓ヲ超エザル物品
第十二條 關稅定率法別表輸入稅表ニ掲グル物品ニシテ商工大臣ノ指定シタルモノハ商工大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸入スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 關東州、滿洲及支那ニ對スル貿易ノ調整ニ關スル件第六條ノ規定ニ依ル指定輸入品ヲ關東州、滿洲又ハ支那ヨリ輸入スルトキ

- 二 南洋ニ對スル貿易ノ調整ニ關スル件第八條ノ規定ニ依ル指定輸入品ヲ同條ノ規定ニ依リ商工大臣ノ指定シタル地域ヨリ輸入スルトキ
三 國家總動員法第九條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ輸入スルトキ
第十三條 前條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル物品ノ輸入ニ付テハ之ヲ適用セズ
一 第十一條第一號乃至第三號及第五號ニ規定スル物品
二 官廳ノ輸入ニ係ル物品
三 博覽會ニ出品スル爲輸入スル物品
四 關稅定率法第八條第一號、第三號第七號又ハ第八號ノ規定ノ適用ヲ受ケ輸入スル物品
五 販賣以外ノ目的ヲ以テ輸入シ且其ノ原價五十圓ヲ超エザル物品
第十四條 第十條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル輸出許可申請書ニ註文アリタルコトヲ證明スル書面ヲ添付シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ
一 品名
二 數量(種類別ニ記載スベシ)

- 一 品名
二 數量(種類別ニ記載スベシ)

二四五

三 單價及價額(種類別ニ記載スベシ)
 四 賣渡先ノ氏名又ハ名稱及住所
 五 仕向地
 六 仕向港
 七 輸出港(郵便物ニ在リテ 發送郵便局)
 八 輸出時期(郵便物ニ在リテハ郵便局ニ差出スベキ時期)
 第十五條 第十二條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル輸入許可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

- 一 品名
- 二 數量(種類別ニ記載スベシ)
- 三 豫想單價及豫想價額(種類別ニ記載スベシ)
- 四 産出地又ハ製造地
- 五 積出港
- 六 輸入港(郵便物ニ在リテハ到着郵便局)
- 七 輸入時期(郵便物ニ在リテハ郵便局ニ到着スベキ時期)

前項ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケントスル者他人ヨリ委託ヲ受ケ輸入セントスルモノナルトキハ輸入許可申請書ニ前項各號ニ掲グル事項ノ外委託者ノ氏名又

ハ名稱及住所ヲ記載シ且委託アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ
 第十六條 第十二條ノ許可ヲ受ケタル者ハ商工大臣ノ指定シタル期間内ニ其ノ物品ヲ輸入スベシ
 商工大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトアルベシ
 第十二條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ期間内ニ其ノ物品ヲ輸入セザルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ
 第十七條 第十條ノ許可ヲ受ケタル者第十四條第六號乃至第八號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ第十二條ノ許可ヲ受ケタル者第十五條第一項第五號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
 第十八條 第十二條ノ許可ヲ受ケタル者他人ヨリ委託ヲ受ケ輸入セントスルモノナル場合ニ於テ其ノ委託契約消滅シ又ハ委託數量減少シタルトキハ委託者ト連署ノ上七日以内ニ之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ
 第十九條 第十條又ハ第十二條ノ許可ヲ

受ケタル者ハ其ノ物品ノ輸出又ハ輸入ヲ爲ス場合ニ於テ商工大臣ノ交付スル輸出許可書又ハ輸入許可書ヲ當該税關又ハ郵便局ニ提示スベシ
 第二十條 第十條又ハ第十二條ノ許可ヲ受ケタル者輸出又ハ輸入ヲ爲シタルトキハ七日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

- 一 輸出又ハ輸入ノ許可ヲ受ケタル物品ノ品名及數量並ニ許可ノ年月日
- 二 輸出又ハ輸入ヲ爲シタル物品ノ品名、數量並ニ單價及價額
- 三 輸入ヲ爲シタル物品ノ産出地又ハ製造地及積出港
- 四 輸出港又ハ輸入港(郵便物ニ在リテハ發送郵便局又ハ到着郵便局)
- 五 輸出又ハ輸入ノ年月日(郵便物ニ在リテハ差出又ハ到着ノ年月日)

第二十一條 令第六條第二項ノ證票ハ別記様式第三號ニ依ル
 附 則
 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 臨時輸出入許可規則ハ之ヲ廢止ス但シ本則施行前從前ノ規則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

臨時輸出入許可規則第一條又ハ第三條ノ規定ニ依リ爲シタル許可ハ之ヲ第十條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ爲シタルモノト看做ス
 臨時輸出入許可規則第五條又ハ第七條ノ規定ニ依リ提出シタル書類ハ之ヲ第十四條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ提出シタルモノト看做ス
 臨時輸出入許可規則第六條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル期間ノ指定又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ爲シタル許可ハ之ヲ第十六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ爲シタルモノト看做ス

貿易統制令施行規則第十條ノ規定ニ依リ物品左ノ通指定ス

(昭和十六年六月十二日公布 商工省告示第五百九號)

- 輸入税表番號
- | 品名 | 番號 |
|---------------|------|
| 葛種子 | 三〇ノ内 |
| マカロニ、ヴァーミゼリ | 四八 |
| 其ノ他各種ノ麵類 | 六九ノ内 |
| 兔毛皮 | 七四 |
| 豚毛(別號ニ掲ゲザルモノ) | 七四 |
| (豚毛ヲ除ク) | |

- | | |
|-------|---------------|
| 九三ノ内 | 人毛 |
| 二七ノ内 | リナロヘ、ロイズウツド及 |
| 二〇ノ内 | サツサフラス木 |
| 一四一ノ内 | 没食子、五倍子、ミロバラ |
| 一四一ノ内 | ン、オーク樹皮、ミモサ樹皮 |
| 一四一ノ内 | 栲皮、クエブラチョー、木片 |
| 一四一ノ内 | 其ノ他類似ノタンニン材料 |
| 一四一ノ内 | 其ノ他ノタンニン越幾斯 |
| 一四一ノ内 | 生インディアアラツパー、生 |
| 一四一ノ内 | ガタバーチヤ及其ノ代用物 |
| 一四一ノ内 | アラビヤゴム、セルラハク |
| 一四一ノ内 | 松脂其ノ他別號ニ掲ゲザル |
| 一四一ノ内 | 護膜及樹脂(醫藥用ノモノ |
| 一四一ノ内 | ヲ除ク) |
| 一四一ノ内 | 阿膠 |
| 一四一ノ内 | ゼラチン |
| 一四一ノ内 | 魚膠 |
| 一四一ノ内 | ヨード |
| 一四一ノ内 | ナフタリン |
| 一四一ノ内 | 龍腦、艾片及人造龍腦 |
| 一四一ノ内 | ベンゾール、トリユーオール |
| 一四一ノ内 | ザイロール、ソルベントナ |
| 一四一ノ内 | フサ、アンストラセン、カー |
| 一四一ノ内 | バゾール、クレオソート油 |
| 一四一ノ内 | 其ノ他別號ニ掲ゲザルコ |

- | | |
|-----|--|
| 二〇八 | ルタール分儲物(キシレノールヲ除ク) |
| 二〇八 | コイルタール分儲物ヨリ誘導シタル化學的生成品(ペンザルデハイド、ナイトロペンゾール及ナイトロトリニール以外ノ香料、石炭酸、サリチル酸、ベークライト及醫藥ヲ除ク)(安息香酸、クロラミン、ヂオキシアントラキノン、フェノールフタレイン、オキシナフトエ酸及其ノ誘導體並ニ不溶性アゾ染料ヲ除ク) |
| 二〇八 | カゼイン |
| 二〇八 | 人造麝香 |
| 二〇八 | イオノン |
| 二〇八 | 硝酸、鹽化マグネシウム、苦汁及カーバイト |
| 二〇八 | 天然藍 |
| 二〇八 | ログウード |
| 二〇八 | ログウード越幾斯 |
| 二〇八 | 酸化コペルト(臭須ヲ含ム |
| 二〇八 | 銀液及白金液 |
| 二〇八 | 青銅粉、アルミニウム粉其 |

ノ他別號ニ掲ゲザル類似ノ
 金屬粉
 二四七
 プラツシアンブリン
 二四八
 群青
 二四九
 鉛白、鉛丹及リサージ
 二五〇
 亞鉛白(酸化亞鉛及硫化亞鉛)
 二五〇ノ二
 硫酸バリウム
 二五〇ノ三
 リソボン
 二五〇ノ四
 酸化チタニウム
 二五一
 白堊及ホワイチング
 二五二
 朱及辰砂
 二五五
 カイボンブラツク
 二五六
 二六九ノ内
 二七一
 顏料
 實綿及練綿(カード又ハコ
 一ムシタルモノヲ含ム)
 二七四
 亞麻、苧麻、ラミー、大麻
 黃麻其ノ他別號ニ掲ゲザル
 植物纖維
 二八二
 羊毛、山羊毛及駱駝毛
 二八五
 二九五ノ内
 肩ノ綿纖維(長二分ノ一吋
 以上ノ綿纖維ノ重量全綿纖
 維ノ重量ノ百分ノ五十ヲ超

二九七
 三〇〇
 三四〇
 三四一ノ内
 三六一
 四〇二
 四〇五

エザルモノ及油ノ附着シタ
 ル綿纖維ニシテ油ノ重量全
 重量ノ百分ノ六ヲ超エタル
 モノヲ除ク)及屑若ハ故ノ
 纖維、屑纖維又ハ屑絲ニシ
 テ毛、毛入又ハ麻ノモノ
 故ノ線、繩索、組紐及組繩
 (トリムミンメグニ屬ス
 ルモノヲ除ク)ノ内麻製ノ
 モノ
 鳳梨、葛、マニラヘムブ、
 アゲーヴ其ノ他ノ植物纖維
 (綿、亞麻、苧麻、ラミー、
 大麻及黃麻ヲ除ク)ノ織物
 及其ノ交織物(マニラヘム
 ブノ織物及其ノ交織物ヲ除
 ク)
 故ガンニイ囊
 毛、毛入又ハ麻ノ襪襪
 纖維素バルブ
 シリカサンド、クオルツサ
 ンド其ノ他別號ニ掲ゲザル
 砂及礫
 金剛砂、コランダムサンド
 トリポリ其ノ他類似ノ研磨

四〇五ノ二
 四〇七
 四〇八
 四一一
 四一二
 四一八
 四二〇
 四二一
 四二二
 四二五
 四二六
 四二七
 四二九
 四三〇
 四三一
 四三四
 四三五

二四八
 用礦物材料
 カイボランダム、アラシダ
 ム其ノ他類似ノ研磨用人工
 礦物材料
 メタルポリシユ(別號ニ掲
 ゲザルモノ)
 砥石
 ボルト、カーボナード其ノ
 他ノ黑色ダイヤモンド
 貴石
 石絨及別號ニ掲ゲザル石絨
 製品
 滑石及ソープストーン(粉
 狀ノモノヲ含ム)
 燐礦石
 石膏
 クリオライト
 粘土
 石墨
 石炭
 コークス
 磚炭
 ドロマイト及マグネサイト
 (燒キタルト否トヲ別ダズ)
 別號ニ掲ゲザル礦物及礦物

製品但シ電氣絶緣用コンパ
 ウンド及ボルトランドセメ
 ントクリンカー(白色セメ
 ントクリンカーヲ除ク)ヲ
 除ク
 四五八
 鐵(燒キタルモノヲ含ム)、
 マツト、ボツトム及鐵滓
 四五九
 白金、イリヂウム、オスミ
 ウム、パラヂウム、ロヂウ
 ム、インヂウム及ルセニウ
 ム
 四六一
 鐵(別號ニ掲ゲタル特殊鋼
 ヲ除ク)
 四六二
 特殊鋼
 四六二ノ二
 鐵ノ筒及管
 四六二ノ三
 アルミニウム及アルミニウ
 ム合金(電氣用ヒューズヲ
 除ク)
 四六三ノ二
 マグネシウム及マグネシウ
 ム合金
 四六四
 銅
 四六五
 鉛(電氣用ヒューズヲ除ク)
 四六六
 錫
 四六七
 亞鉛

四六八
 四六九
 四七〇
 四七一
 四七二
 四七三
 四七四
 四七五
 四七六
 四七七
 四七九
 四八〇

ニツケル
 水銀及著鉛
 安知母尼及硫化安知母尼
 眞鍮及青銅
 日耳曼銀
 鐵
 ベビツツメタル其ノ他ノア
 ンチコリクシヨンメタル
 鍍金銀シタル金屬
 前記ノ金屬ニシテ別號ニ掲
 ゲザル形状ノモノ及別號ニ
 掲ゲザル金屬(ニクローム
 線及同リボン並ニ電氣用ヒ
 ユーズヲ除ク)
 釘、ウツドスクリニー、ボ
 ールト、ナツト、リヴエツ
 ト類(貴金屬ヲ用セタルモ
 ノ又ハ貴金屬ヲ鍍シタルモ
 ノヲ除ク)但シ碍子用ボー
 ルト(ナツトヲ有スルモノ
 ヲ含ム)及インシュレーチ
 ングステイブルヲ除ク
 金屬網
 リヴエツテツドチユーブ
 (鐵製ノモノ)

四八一
 四八二
 四八三
 四八四
 四八四ノ二
 四八五
 四八五ノ二
 四八六
 四八七
 四八八
 四八九

フレキシブルチユーブ
 鐵道建設用材料(別號ニ掲
 ゲザルモノ)
 電線支柱及電線支架用材料
 (別號ニ掲ゲザルモノ)(ブ
 ロテクテングスリブ、ク
 ロースアーム、ストラツプ
 及電柱笠金ヲ除ク)
 家屋、橋梁、船舶、船渠等
 ノ建設材料(別號ニ掲ゲザ
 ルモノ)
 天井、壁等ニ用ヒル金屬板
 (珪瑯ヲ施シタルモノ又ハ
 エナメルペイント、ヴァニ
 シユ、漆等ヲ塗リタルモノ)
 (珪瑯ヲ施シタル鐵板ヲ除
 ク)
 瓦斯ホールダー、液體タン
 ク及同部分品(鐵製ノモノ)
 壓搾瓦斯填充用鐵製シリ
 ンダー
 絶緣電線
 漁用鉛
 備(鐵製ノモノ)
 鐵(別號ニ掲ゲザルモノ)
 二四九

四九〇	(自轉車用ノモノヲ除ク) 機械用チエーンベルチング コック及ヴァルブ類(貴金 屬ヲ用ヒタルモノ又ハ貴金 屬ヲ鍍シタルモノヲ除ク) 白金製ノ坩堝及皿 ドリル、ピット、リーマー 及スクリユーターツブ(柄又 ハ棒ヲ有セザルモノ) スクリユーターツブ	五四四 五四六
四九五	貴金屬ヲ用ヒ又ハ貴金屬ヲ 鍍シタル金屬製品ニシテ安 知母尼ヲ用ヒタルモノ(安 知母尼ノ重量全重量ノ百分 ノ二十五ヲ超エザルモノヲ 除ク)	五四九
四九八	別號ニ掲ゲザル金屬製品ニ シテ安知母尼ヲ用ヒタルモ ノ(安知母尼ノ重量全重量 ノ百分ノ二十五ヲ超エザル モノヲ除ク)	五五一ノ内 五五九
五二一ノ内	クロノメーター及同部分品 (懐中用ノモノヲ除ク)(電 氣クロノメーターヲ除ク) アムペアメーター、ヴォル トメーター及ヴォルトアム ペアメーター	五六二
四九七	ワットメーター タコメーター、シツブスロ グ、スチームエンジンイン ヂケーター、アネモメータ ー、ダイナモメーター、サ イクロメーター、ベドメー ター其ノ他類似ノモノ(タ キシメーターヲ除ク) 醫療器オートソベツクイン ストルメント及同部分品 (別號ニ掲ゲザルモノ)	五六三 五六四
五二五ノ内	齒科用治療臺、齒 槽膿漏治療器(配 電盤ヲ有スルモノ 又ハ壓縮空氣ヲ用 フルモノ)、齒科用 バイ及同部分品 ニツクス線装置	五六六 五六七 五六九
五三一	電信機、電話機及同部分品 (別號ニ掲ゲザルモノ) 鐵道車輛(別號ニ掲ゲザル モノ)	五七〇 五七一 五七一ノ二
五四三	鐵道車輛(別號ニ掲ゲザル モノ)	五七一ノ二

二五〇

鐵道機關車部分品、鐵道機
關車用炭水車部分品其ノ他
ノ鐵道車輛部分品(別號ニ
掲ゲザルモノ)
自動車
自動車部分品(原動力機ヲ
除ク)(タイヤー及チユーブ
ヲ除ク)
自轉車(サイドカーニ付テ
ハ分離シテ第五百六十六號
ヲ適用ス)
一 モーターサイクル
自轉車部分品(原動力機及
鏈ヲ除ク)
五ノ内 サイドカー
別號ニ掲ゲザル車輛及同部
分品(護膜製ノモノヲ除ク)
汽鐘(メカニカルストーカー
ニ付テハ分離シテ第五百
七十一號ヲ適用ス)
汽鐘部分品及同附屬品(別
號ニ掲ゲザルモノ)(ゲージ
グラスヲ除ク)
メカニカルストーカー
フューエルエコノマイザー

五七二	フイードウオーターヒータ 鐵道機關車及鐵道機關車用 炭水車	五八四
五七三	蒸氣機關車(軌條ヲ要セザ ルモノ)及ボーターブルスチ ームエンジン	五八五 五八六 五八七
五七四ノ二	ロードローラー	五八八
五七四ノ三	コンクリートミキサ	五八九
五七五	スチームタービン	五九〇
五七六	蒸氣機關(別號ニ掲ゲザル モノ)	五九〇
五七七	内燃機關	五九一
五七八	ウオータータービン及ベル ホンウイール	五九二
五七九	發電機、電動機、廻轉變流 機、周波數變換機、廻轉變 相機及發電機	五九三 五九四 五九五
五七九ノ二	變壓機(一ヲ除ク)	五九六
五八〇	原動力機ト結合シタル發電 機	五九六
五八一	別號ニ掲ゲザル原動力機	
五八二	ピロツク及チエーンプロツ クレーン	六〇五
五八三		
五九四	キャブスタン、ウインチ、 ウインドラス其ノ他別號ニ 掲ゲザルワインディングマシ ン	五九七
五九五	波濠機械 パワールハムマー	五九八
五九六	氣體壓縮機	五九八
五九七	縫衣機	五九八
五九八	縫衣機部分品及附屬品(針 ヲ除ク)	五九八
五九九	潛水器及同部分品(硝子製 部分品ヲ除ク)	五九九
六〇〇	唧筒(別號ニ掲ゲザルモノ) (ガソリン計量用ノモノヲ 除ク)	六〇〇
六〇一	インゼクター及エゼクター	六〇二
六〇二	送風機	六〇三
六〇三	水壓機	六〇四
六〇四	ニウマチツクツール及ニウ マチツクマシン	六〇四
六〇五	別號ニ掲ゲザル金屬工及木 工機械(ローリングマシン ドロウイングマシン、ネー ルメーキングマシン、モー ルディングマシン、フランヂ	六〇五
六〇六	シグマシン、ペンディングマ シン、リヴエツチングマシ ン等ヲ含ム)	
六〇七	紡績機械、紡績準備機械、 紡績整理機械、織布準備 機械及捲絲製造機械(ジン ニングマシン、スコアリン グマシン、バンドリングマ シン等ヲ含ム)	
六〇八	織布機	
六〇九	織布整理機械	
六〇〇	メリヤス機械	
六〇一	絲布染色機械(捺染機械ヲ 含ム)、絲布漂白機械及マー セライジグマシン	
六〇二	製紙機械及製紙準備機械	
六〇三	印刷機械	
六〇四	別號ニ掲ゲザル機械(容量 二十キロワット以内ノ充電 器及整流器、安全器、小型 コンデンサー、電氣吸塵器 並ニ避雷器ヲ除ク)	
六〇五	機械部分品(別號ニ掲ゲザ ルモノ)硝子製ノモノ及護 膜製ノモノ並ニ二十一及十四	

二五一

六〇六	ノ乙ノ内自轉車用ベアリン グボールヲ除ク)	一四	パールバレー	四九	其ノ他各種ノ麵類
六一七	コブラ	二五	麥芽	五〇	果汁及糖水
六一七ノ二	骨炭	二二	麥粉及澱粉類	五一	ソーリス
六一九	骨灰	三一	二 オートミール	五二	食酢
六二〇	電氣用カーボン(別號ニ掲 グザルモノ)	三一ノ二	三 コーンミール	五五	鳥獸肉類(一甲、一丙及二 ヲ除ク)
六三〇	白金、ワナヂウム、鐵又ハ 其ノ化合物ヲ含ム觸媒 屑及故ノインデイアラツバ 一及ガタバーチヤ(改造用 ノミニ適スルモノ)	三二	五 コーンスターチ	五七	肉越幾斯
六四一ノ内	安知母尼ヲ用ヒタル器具 (安知母尼ノ重量全重量ノ 百分ノ二十五ヲ超エザルモ ノヲ除ク)	三五	茶	五八	ベプトン、ソマトーゼ、 モグロピン其ノ他類似ノ滋 養食料
	實易統制令施行規則第十二條ノ規定ニ 依リ物品左ノ通指定ス (昭和十六年六月十二日公布 商工省告示第五百十號)	三三	マリーテ其ノ他ノ茶代用物 チコリー其ノ他ノ咖啡代用 物	五九	鳥卵(生鮮ナルモノ)
	輸入税表番號	三九	胡椒(種子ヲ除ク)	六〇	鳥卵液及鳥卵粉
一	植物、枝、幹、莖及根(裁 植用又ハ接木用ノモノ)	四一	カリ	六二	礦水、曹達水其ノ他砂糖 ハ酒精ヲ含マザル諸飲料 支那酒(醸造シタルモノ)
	別號ニ掲ゲザル動物	四二	マスタード	六三	麥酒
		四三	氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其 ノ他類似ノモノ	六七	別號ニ掲ゲザル飲食物
		四四	糖蜜	六九	毛皮(犬毛皮、猫毛皮、兔 毛皮、綿羊皮及山羊皮ヲ除 ク)
		四五	葡萄糖、麥芽糖及飴	七〇	毛皮製品(別號ニ掲ゲザル モノ)
		四六	蜂蜜	七一	皮類(別號ニ掲ゲザルモノ) (牛皮、水牛皮、馬皮、綿
		四七	菓子		
		四八	ジャム、フルーイトゼリー類 ビスケット(砂糖ヲ加ヘザ ルモノ)、ヴァーミゼリ		

七二	羊皮、山羊皮及豚皮ヲ除ク)	一〇〇	落花生油	一八三	フエロ青化曹達
七三	革類(一及六ヲ除ク)	一〇六	肝油	一八四	フエリ青化曹達
七四	革製品(別號ニ掲ゲザルモ ノ)	一〇九	コムパウンドラード	一九〇	炭酸アムモニウム及重炭酸 アンモニウム
七五	二 帽子用裏革(撲造革ヲ 含ム)	一一〇	ステアリン	二〇〇	ロンガリット、ブランキツ ト、デクロリン其ノ他類似 ノ還元劑
七六	三 其ノ他	一一一	オレイン	二〇一	デキストリン
七七	羽毛	一一六	蠟燭	二一八	ペーキングパウダー
七八	羽毛製品及羽毛皮製品(別 號ニ掲ゲザルモノ)	一一七	石鹼	二一九	酒精劑
八〇	クイルブリツスル及ホーン ブリツスル	一二八	薰香ヲ付シタル油、脂、蠟 及其ノ製品		一 フルーイトエツセンス、 リキエールエツセンス 其ノ他類似ノモノ
八一	象牙製品(別號ニ掲ゲザル モノ)	一四七	香水		人造麝香
八二	象牙製品(別號ニ掲ゲザル モノ)	一五五	魚膠		イオノン
八三	ガット(テニスラケット用 ノモノ)	一五四	酪酸		ヴァニリン、クマリン、ヘリ オトロピン其ノ他別號ニ掲 ゲザル類似ノ薰香性化學藥 齒磨粉、齒洗藥、化粧粉其 ノ他別號ニ掲ゲザル調整薰 香類
八四ノ二	籠甲製品(別號ニ掲ゲザル モノ)	一五六	酒石酸		線香
八八	籠甲製品(別號ニ掲ゲザル モノ)	一六七	重炭酸曹達		煙火
八九	珊瑚製品(別號ニ掲ゲザル モノ)	一七二	過酸化曹達		燐寸
九〇	珊瑚製品(別號ニ掲ゲザル モノ)	一七八	硅酸曹達		天然藍
九四ノ内	化學試驗用ハイドパウダー 以外ノ皮毛骨角齒牙甲殼類 製品(別號ニ掲ゲザルモノ)	一八一	クロール酸曹達		
		一八二	ヨード曹達		
		一八三	鹽化バリウム		
		一八四	過酸化バリウム		
		一八五	過酸化水素		
		一八六	明礬		

二四一	鑄糖	二七九
二四二	人造藍	二八〇
二四七	ブラツシアンブリユール	二八一
二五〇	亞鉛白(酸化亞鉛及硫化亞鉛)	
二五〇ノ二	硫酸バリウム	
二五〇ノ三	リソボン	
二六一	白聖及ホワイチンダ	
二六一	鉛筆	
二六二	インキ(印刷用ノモノヲ除ク)	
二六三	墨及朱墨	
二六四ノ内	聖筆	
二六八	封緘	
二七二	綿織絲(別號ニ掲ゲタル特殊綿織絲ヲ除ク)	
二七六	亞麻絲及英式香水七香ヲ超エタル單摺絲ヲ摺合セタルモノニシテ長十メートルノ重量十二グラムヲ超エザル亞麻線	
二七七	亞麻織絲及ラミール織絲	
二七八	苧麻絲、ラミール織絲及英式香水七香ヲ超エタル單摺絲ヲ	
二七九	二九一	
二八〇	二八八	
二八一	二八九	
	二九〇	
	二九一	
	二九二	
	二九三	
	二九四	
	二九五	
	二九六	
	二九七	
	二九八	
	二九九	
	三〇〇	

摺合セタルモノニシテ長十メートルノ重量十二グラムヲ超エザル苧麻線及ラミール線

大麻織絲

大麻織絲

大麻織絲、黃麻及英式香水七香ヲ超エタル單摺絲ヲ摺合セタルモノニシテ長十メートルノ重量十二グラムヲ超エザル大麻線及黃麻線

生絲(摺リタルモノヲ含ム)

(野蠶絲ヲ除ク)

紡績絹織絲

絹織絲

人造絹(アセチルセルロース製ノモノヲ除ク)

別號ニ掲ゲザル織絲

一 絹入、人造絹入又ハ金屬入ノモノ

亞麻、苧麻、ラミール、大麻又ハ黃麻ノ織物、其ノ交織物及此等ノ織維ト綿トノ交織物(四甲ヲ除ク)

鳳梨、葛、マニラ、ヘムプ、

三〇一	三〇二	三〇三	三〇四	三〇五	三〇六	三〇七	三〇八	三〇九	三一〇	三一三	三一四	三一五
アゲイグ其ノ他ノ植物纖維(綿、亞麻、苧麻、ラミール大麻及黃麻ヲ除ク)ノ織物及其ノ交織物	毛織物、毛綿交織物及毛又ハ毛綿ト綿トノ交織物(ニ乙ロヲ除ク)	黑毛布(他ノ纖維ヲ交ヘタルモノヲ含ム)	絹織物及別號ニ掲ゲザル絹入ノ織物(人造絹織物及人造絹入ノ織物ヲ除ク)	別號ニ掲ゲザル交織布	メリヤス地其ノ他類似ノ編ミタル布帛(起毛シタルト否トヲ別タズ)	レリス地及絹地	フェルト地	刺繡布	ブツクバインダースクロース	ウインドーホルランド	エムパイアクロース	革布

アゲイグ其ノ他ノ植物纖維(綿、亞麻、苧麻、ラミール大麻及黃麻ヲ除ク)ノ織物及其ノ交織物

毛織物、毛綿交織物及毛又ハ毛綿ト綿トノ交織物(ニ乙ロヲ除ク)

黑毛布(他ノ纖維ヲ交ヘタルモノヲ含ム)

絹織物及別號ニ掲ゲザル絹入ノ織物(人造絹織物及人造絹入ノ織物ヲ除ク)

別號ニ掲ゲザル交織布

メリヤス地其ノ他類似ノ編ミタル布帛(起毛シタルト否トヲ別タズ)

レリス地及絹地

フェルト地

刺繡布

ブツクバインダースクロース

ウインドーホルランド

エムパイアクロース

革布

三一六	ルーフイングカンパラス	三四四
三一七	タードカンヴァス	三四五
三一八	防水布(護膜ヲ塗リ又ハ挿入シタルモノ)	三四六
三二〇	護膜入布及護膜紐類	三四七
三二一	インシユレーチングテープ(布帛ヲ用ヒタルモノ)	三四八
三二二	ラムプ心	三四九
三二四	手巾(單製ノモノ)	三五〇
三二五	浴巾(單製ノモノ)	三五一
三二六	ブランケット(單製ノモノ)	三五二
三二七	旅氈(單製ノモノ)	三五三
三二八	地氈(單製連製ヲ別タズ)	三五四
三二九	テーパークロース(單製ノモノ)	三五五
三三〇	熨掛	三五六
三三一	トリムミンダ	三五七
三三二	軟帽	三五八
三三三	ハムモツク	
三三四	漁網及獲網	
三三五	エーアクツシヨン	
三三六	ベンドクイルト及クツシヨ	
三四二	別號ニ掲ゲザル布帛	三五九
三四三	別號ニ掲ゲザル布帛製品	三六〇

雨衣

シャーツ、フロント、カラ

イ及カフス

肌衣(上下ヲ別タズ)

手袋

足袋

肩掛及襟巻

襟飾

袴鈞

衣服用ベルト

スリーヴサスペンダー及ストッキングサスペンダー類

靴其ノ他ノ履物

靴紐

鈕釦(貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石)

眞珠、珊瑚、象牙又ハ龍甲ヲ用ヒタルモノヲ除ク)

バツクル、フツク及アイ類

(貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ龍甲ヲ用ヒタルモノヲ除ク)

身邊粧飾用細貨類

別號ニ掲ゲザル衣類、同附

三六五	三六六	三六七	三六八	三六九	三七〇	三七一	三七二	三七三	三七四	三七五	三七六	三七七	三七八	三七九	三八〇	三八一	三八二	三八三	三八四	三八五	三八六	三八七	三八八	三八九	三九〇	三九一	三九二	三九三	三九四	三九五	三九六	三九七	三九八	三九九	四〇〇				
屬品及其ノ部分品	ブロッチングペーパー	機寸用紙	壁紙	板紙(印刷紙用ノモノヲ除ク)	唐紙(各種)	油紙	窓硝子用ガラスペーパー	別號ニ掲ゲザル紙	ペーパーレース及ペーパー	ポルダー	白紙帳簿	書狀用紙(箱入ノモノ)	封筒	アルバム	鶏卵紙及感光紙	ウオールポルト	レーベル	骨牌	カードカレンダー及ブロッ	クカレンダー	繪葉書	クリスマスカード類	別號ニ掲ゲザル紙製品及																

屬品及其ノ部分品

ブロッチングペーパー

機寸用紙

壁紙

板紙(印刷紙用ノモノヲ除ク)

唐紙(各種)

油紙

窓硝子用ガラスペーパー

別號ニ掲ゲザル紙

ペーパーレース及ペーパー

ポルダー

白紙帳簿

書狀用紙(箱入ノモノ)

封筒

アルバム

鶏卵紙及感光紙

ウオールポルト

レーベル

骨牌

カードカレンダー及ブロッ

クカレンダー

繪葉書

クリスマスカード類

別號ニ掲ゲザル紙製品及

四〇二	ルプ製品 シリカサンド、クオルツサ ンド其ノ他別號ニ掲ゲザル 砂及礫	四四四
四〇九	一 著色シタルモノ スレイト及別號ニ掲ゲザル スレイト製品	四四五
四一四	石及石製品(別號ニ掲ゲザ ルモノ)	四五二
四一五	琥珀及琥珀製品(別號ニ掲 ゲザルモノ)	四五三
四一七	メーアシャウム、人造メー アシャウム及同製品	四五三
四二四	石膏製品	四五四
四三二	ポートルランドセメント、ロ ーマセメント、ブゾラナセ メント其ノ他類似ノ水硬セ メント	四五七
四三三	セメント製品	四七五
四三六	煉瓦(セメント製ノモノヲ 除ク)(耐火煉瓦ヲ除ク)	四八四ノ二
四三七	瓦(粘土製ノモノ)	四八七
四三七ノ二	アランダムタイル其ノ他類 似ノモノ	四八七
四三九	別號ニ掲ゲザル陶磁器(電 氣用モノ)	四八八

四八九	氣用ノモノ及二乙ノ内素鏡 ノモノヲ除ク)	四八九
四九一	硝子板(無色平面ノモノニ シテ厚一・五ミリメートル ヲ超エザルモノヲ除ク)	四九一
四九三	金屬ノ線又ハ網ヲ入レタル 硝子板	四九三
四九四	寫眞用乾板	四九四
四九六	一 現像セザルモノ(撮影 シタルモノヲ除ク)	四九六
四九九	一 貴金屬、貴金屬ヲ鍍シ タル金屬、象牙又ハ藍甲ノ 線又ハ柄ヲ有スルモノ	四九九
五〇〇	眼鏡	五〇〇
五〇一	別號ニ掲ゲザル硝子製品 (二甲、二乙イ及安全硝子 板ヲ除ク)	五〇一
五〇二	鍍金銀シタル金屬	五〇二
五〇三	天井、壁等ニ用フル金屬板 (珪瑯ヲ施シタルモノ又ハ エナメルペイント、ヴァニ シニ、漆等ヲ塗リタルモノ)	五〇三
五〇四	漁用鉤	五〇四
五〇五ノ内	鍍銀シタル金屬	五〇五ノ内
五〇七	天井、壁等ニ用フル金屬板 (珪瑯ヲ施シタルモノ又ハ エナメルペイント、ヴァニ シニ、漆等ヲ塗リタルモノ)	五〇七
五〇九	シニ、漆等ヲ塗リタルモノ)	五〇九
五〇九ノ二	漁用鉤	五〇九ノ二
五一〇	鍍銀シタル金屬	五一〇
五一一	鍍銀シタル金屬	五一一

二五六	鑊(別號ニ掲ゲザルモノ) (鐵製ギーアリングチェー ンヲ除ク)	二五六
二五七	懷中時計用鑊、眼鏡用鑊其 ノ他身邊粧飾用鑊	二五七
二五八	蝶鍔、ハットフック及戸、 窓、家具等ニ用ヒル金具 鎖及鑊	二五八
二五九	工匠具、農具及同部分品(別 號ニ掲ゲザルモノ)	二五九
二六〇	十 ショヴエル及スクープ 刃物(別號ニ掲ゲザルモノ)	二六〇
二六一	テーパーフオーク及スプー ン	二六一
二六二	コルクスクリユー	二六二
二六三	蠟口用キャブシユール	二六三
二六四	クラウンコルク	二六四
二六五	カートリッジケース(金屬 製ノモノ)	二六五
二六六	手縫用針	二六六
二六七	コツビープレツス	二六七
二六八	自轉車用唧筒	二六八
二六九	消火器	二六九
二七〇	ミートチヨツパー	二七〇
二七一	咖啡粉碎器	二七一

五一二	アイスクリームフリーザー 製茶用及苛性曹達製造用鐵 鍋	五三三
五一三	ストーヴ及同部分品(別號 ニ掲ゲザルモノ)	五三三
五一四	電氣ストーヴ、電氣類其 ノ他類似ノ電熱器	五五三
五一五	ラヂエートル	五五三
五一六	寢臺及同部分品	五五三
五一七	ナムパリーリングマシン、デ ーチングマシン、チエツク パーフオレーター、ペンシ ルシャーブナー其ノ他類似 ノモノ及同部分品	五五四
五二一	貴金屬製品及貴金屬ヲ用ヒ 又ハ貴金屬ヲ鍍シタル金屬 製品(別號ニ掲ゲザルモノ)	五五五
五二六	懷中時計	五五六
五二七	懷中時計部分品	五五六
五二八	一 鋼(ウオッチガラスヲ 附著シタルモノヲ含ム)	五五七
五二八ノ二	六 ウオッチガラス	五五七
五二九	電氣時計及掛時計	五六〇
五三〇	電氣時計(親時計及子時計 ヲ含ム)	五六〇

五六五	雙眼鏡及雙眼鏡	五六五
五六六	一 貴金屬、貴金屬ヲ鍍シ タル金屬、寶石、半寶石、 眞珠、珊瑚、象牙、藍甲又 ハ貝殻ヲ用ヒタルモノ	五六六
五六七	寫眞器(活動寫眞用ノモノ 顯微鏡用ノモノ、航空機用 ノモノ及測量用ノモノヲ除 ク)	五六七
五九三	寫眞器部分品(焦點距離十 七センチメートル以上ノレ ンズ、カメラノ内活動寫眞 用ノモノ、顯微鏡用ノモノ 航空機用ノモノ及測量用ノ モノ並ニ製版用スクリーン ヲ除ク)	五九三
六〇九	寫眞器部分品(焦點距離十 七センチメートル以上ノレ ンズ、カメラノ内活動寫眞 用ノモノ、顯微鏡用ノモノ 航空機用ノモノ及測量用ノ モノ並ニ製版用スクリーン ヲ除ク)	六〇九
六一〇	寫眞器部分品(焦點距離十 七センチメートル以上ノレ ンズ、カメラノ内活動寫眞 用ノモノ、顯微鏡用ノモノ 航空機用ノモノ及測量用ノ モノ並ニ製版用スクリーン ヲ除ク)	六一〇
六一一	寫眞器部分品(焦點距離十 七センチメートル以上ノレ ンズ、カメラノ内活動寫眞 用ノモノ、顯微鏡用ノモノ 航空機用ノモノ及測量用ノ モノ並ニ製版用スクリーン ヲ除ク)	六一一
六一二	寫眞器部分品(焦點距離十 七センチメートル以上ノレ ンズ、カメラノ内活動寫眞 用ノモノ、顯微鏡用ノモノ 航空機用ノモノ及測量用ノ モノ並ニ製版用スクリーン ヲ除ク)	六一二
六二二	寫眞器部分品(焦點距離十 七センチメートル以上ノレ ンズ、カメラノ内活動寫眞 用ノモノ、顯微鏡用ノモノ 航空機用ノモノ及測量用ノ モノ並ニ製版用スクリーン ヲ除ク)	六二二
六二三	寫眞器部分品(焦點距離十 七センチメートル以上ノレ ンズ、カメラノ内活動寫眞 用ノモノ、顯微鏡用ノモノ 航空機用ノモノ及測量用ノ モノ並ニ製版用スクリーン ヲ除ク)	六二三
六二四	寫眞器部分品(焦點距離十 七センチメートル以上ノレ ンズ、カメラノ内活動寫眞 用ノモノ、顯微鏡用ノモノ 航空機用ノモノ及測量用ノ モノ並ニ製版用スクリーン ヲ除ク)	六二四
六二五	寫眞器部分品(焦點距離十 七センチメートル以上ノレ ンズ、カメラノ内活動寫眞 用ノモノ、顯微鏡用ノモノ 航空機用ノモノ及測量用ノ モノ並ニ製版用スクリーン ヲ除ク)	六二五
六二六	寫眞器部分品(焦點距離十 七センチメートル以上ノレ ンズ、カメラノ内活動寫眞 用ノモノ、顯微鏡用ノモノ 航空機用ノモノ及測量用ノ モノ並ニ製版用スクリーン ヲ除ク)	六二六

二五七	自轉車(モーターサイクル ヲ除ク)	二五七
二五八	自轉車部分品(原動力機及 鏈ヲ除ク)	二五八
二五九	別號ニ掲ゲザル車輛及同部 分品	二五九
二六〇	送風機	二六〇
二六一	一 扇風機	二六一
二六二	籐(割ラザルモノヲ除ク)	二六二
二六三	竹	二六三
二六四	蘆草心及蘆草紙	二六四
二六五	製帽用眞田	二六五
二六六	蓆(布帛ニ使用スル纖維以 外ノ植物性材料ヲ以テ製シ タルモノ)(包蓆ヲ除ク)	二六六
二六七	麥稈、藁、バナマストロー 椰葉、藁、莞、葦、竹、籐 蔓、楊條其ノ他類似ノモノ ノ製品(別號ニ掲ゲザルモ ノ)	二六七
二六八	傘柄、杖、鞭及其ノ手 傘	二六八
二六九	木製品(別號ニ掲ゲザルモ ノ)	二六九
二七〇	一 貴金屬、貴金屬ヲ鍍シ	二七〇

- 六三二 六三三 六三二ノ二 六三四 六三五 六三八 六三九 六四〇
- タル金屬、寶石、半寶石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ龍甲ヲ用ヒタルモノ
- 二 其ノ他
 - 甲 花梨木、鐵刀木、黃楊木、紅木、紫檀及黒檀ノ製品
 - セリニロイド及同製品(別號ニ掲ゲザルモノ)(塊、條帶、竿、板及管ノ類ヲ除ク)屋及故ノセリニロイド(改造用ノミニ適スルモノ)
 - ガラリス及同製品(別號ニ掲ゲザルモノ)
 - ブラツシユ及箒
 - 一 貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、象牙又ハ龍甲ヲ用ヒタルモノ
 - ラムプ、提燈及同部分品(安全燈、醫療用ノモノ及燈臺用ノモノヲ除ク)
 - 造花(模造ノ葉、果實等ヲ含ム)及同部分品
 - 化粧具匣
 - ビヲヤード、テニス、クリ

- 六四一 六四七
- ワケツト、象棋其ノ他ノ遊戯具及同附屬品
- 器具
- 別號ニ掲ゲザル物品
- 二 其ノ他
 - 甲 貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、寶石、半寶石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ龍甲ヲ用ヒタルモノ

〔第十三條關係〕
臨時農地等管理令

(昭和十六年二月一日公布)
(勅令第四百十四號即日施行)

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同シ)第十三條第一項及第三項ノ規定ニ依ル食糧農産物等ノ生産ヲ確保スル爲ニ爲ス農地又ハ耕作ノ目的ニ供スルコトヲ得ル土地ノ管理ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於テ農地トハ耕作ノ目的ニ供セラルル土地ヲ謂フ

第三條 農地ノ所有者、賃借人、永小作人其ノ他權原ニ基キ農地ヲ耕作スルコトヲ得ル者(以下權原者ト稱ス)其ノ農地ヲ耕作以外ノ目的ニ供スルモノトキハ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ地方長官(農林大臣特ニ定ムタルトキハ農林大臣)ノ許可ヲ受クベシ

第四條 前條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ之ヲ適用セズ

- 一 國又ハ道府縣ガ權利者タル場合
- 二 主務大臣又ハ地方長官ノ命令、免許、許可、認可其ノ他ノ處分ニシテ農林大臣ノ定ムルモノニ依リテ爲ス工事又ハ施設ノ爲ニ農地ヲ使用スル場合
- 三 土地收用法其他ノ法令ニ依リ農地又ハ之ニ關スル權利ヲ收用又ハ使用シタル場合ニ於テ當該收用又ハ使用ニ係ル農地ヲ其ノ目的ニ供スル場合
- 四 第五條ノ規定ニ依ル許可ニ係ル農地ヲ其ノ目的ニ供スル場合
- 五 各號ノ外農林大臣ノ定ムル場合

第五條 農地ヲ耕作以外ノ目的ニ供スル爲其ノ所有者、賃借權、地上權其ノ他

ノ權利ヲ取得セントスル者ハ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ地方長官(農林大臣特ニ定ムタルトキハ農林大臣)ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第六條 前條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ之ヲ適用セズ

- 一 國又ハ道府縣ガ農地ノ所有者、賃借權、地上權其ノ他ノ權利ヲ取得セントスル場合
- 二 主務大臣又ハ地方長官ノ命令、免許、許可、認可其ノ他ノ處分ニシテ農林大臣ノ定ムルモノニ依リテ爲ス工事又ハ施設ノ爲ニ農地ノ所有者、賃借權、地上權其ノ他ノ權利ヲ取得セントスル場合
- 三 土地收用法其他ノ法令ニ依リ農地又ハ之ニ關スル權利ヲ收用又ハ使用セントスル場合
- 四 前各號ノ外農林大臣ノ定ムル場合

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ農地ノ面積五千坪ヲ超ユルトキハ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ニ在リテハ農林大臣ト協議シ、其ノ他ニ在リテハ其ノ事項ノ主務大臣ヲ經由シ

農林大臣ノ承認ヲ受クベシ但シ軍機保護上支障アル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 行政機關ガ權利者タル農地ヲ耕作以外ノ目的ニ供セントスル場合
- 二 行政機關ノ事業又ハ施設ニ關シ農地ヲ耕作以外ノ目的ニ供スル爲農地ノ所有者、賃借權、地上權其ノ他ノ權利ヲ取得セントスル場合
- 三 行政官廳土地收用法其ノ他ノ法令ニ依リ農地ヲ耕作以外ノ目的ニ供スル爲農地又ハ之ニ關スル權利ノ收用又ハ使用ニ付事業ノ認定ヲ爲シ又ハ許可ヲ爲サントスル場合
- 四 主務大臣又ハ地方長官第四條第二號又ハ第六條第二號ニ規定スル命令、免許、許可、認可其ノ他ノ處分ヲ爲サントスル場合

左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ農地ノ面積五千坪ヲ超ユルトキハ北海道廳長官又ハ府縣知事ハ農林大臣ノ定ムル事項ニ付農林大臣ノ承認ヲ受クベシ

一道府縣ガ權利者タル農地ヲ道府縣ガ耕作以外ノ目的ニ供セントスル場合

二道府縣其ノ事業又ハ施設ニ關シ農地

ヲ耕作以外ノ目的ニ供スル爲農地ノ所有者、賃借權、地上權其ノ他ノ權利ヲ取得セントスル場合

前二項ノ規定ニ依ル協議又ハ承認ハ農林大臣ノ定ムル場合ニハ之ヲ要セズ

第八條 地方長官必要アリト認ムルトキハ道府縣農地委員會又ハ市町村農地委員會ヲシテ農地ノ權利者ニ對シ其ノ農地ノ耕作ニ關シ勸告セシムルコトヲ得

地方長官必要アリト認ムルトキハ農地ノ權利者ニ對シ其ノ農地ヲ地方長官ノ適當ト認ムル者ヲシテ耕作セシムル爲賃借其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令アリタル場合ニ於テハ農地ノ權利者ハ賃借料其ノ他ノ事項ニ關シ前項ノ者ト協議スベシ協議調ハズ又協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ地方長官ノ裁定スル所ニ依ルベシ

第九條 前條ノ規定ハ耕作ノ目的ニ供スルコトヲ得ル土地ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ付之ヲ準用ス

第十條 農林大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ農地ノ權利者ニ對シ一般ノ農作物ノ種類、地域其ノ他ノ事

項ヲ指定シテ作付ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

地方官必要アリト認ムルトキハ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ特定ノ農地ノ權利者ニ對シ農作物ノ種類其ノ他ノ事項ヲ指定シテ作付ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 農林大臣又ハ地方官ハ第三條若ハ第五條ノ規定ニ依リ許可ニ關スル處分又ハ第八條第二項(第九條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ命令ニシテ重要ナルモノニ付テハ道府縣農地委員會ノ意見ヲ聽キ之ヲ爲スコトヲ要ス

前條ノ規定ニ依リ命令ニシテ重要ナルモノニ付テハ農林大臣ニ在リテハ農林計畫委員會、地方官ニ在リテハ道府縣農會其ノ他地方官ノ適當ト認ムルモノノ意見ヲ聽キ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第三條又ハ第五條ノ制限ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 國家總動員法第二十七條ノ規定ニ基キ補償スベキ損失ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ處分ニ因ル通常生ズベ

キ損失トス

損失ノ補償ヲ請求セントスル者ハ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ請求スベシ

第十四條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ農地若ハ耕作ノ目的ニ供スルコトヲ得ル土地ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ農地若ハ耕作ノ目的ニ供スルコトヲ得ル土地其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ其ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證據ヲ携帶セシムベシ

第十五條 第八條乃至第十條ノ規定又ハ之ニ基ク命令ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ農地又ハ耕地ノ目的ニ供スルコトヲ得ル土地ノ權利者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第十六條 第七條第一項及第二項中五千坪トアルハ臺灣ニ在リテハ一甲トス

第八條第一項中道府縣農地委員會又ハ市町村農地委員會トアルハ朝鮮ニ在リテハ府尹又ハ邑面長、臺灣ニ在リテハ市長又ハ街庄長、樺太ニ在リテハ支廳

長又ハ市町村長、南洋群島ニ在リテハ支廳長トス

第十一條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

本令中主務大臣トアルハ朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官ノ所管事項ニ關シテハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

本令中農林大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方官トアリ又ハ北海道廳長官又ハ府縣知事トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方費トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十

六年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】

昭和十三年四月一法律第五十五號國家總動員法抄録

第十三條第一項及第三項
政府ハ臨時ニ農林省總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ總務員業務タル事業ニ關スル工場、事業場、船舶其ノ他ノ施設又ハ之ニ關連スルコトヲ得ル施設ノ全部又ハ一部ヲ管理、使用又ハ敷用スルコトヲ得

政府ハ臨時ニ農林省總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ總務員業務ニ必要ナル土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用又ハ敷用スルコトヲ得

第二十七條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條若ハ第十四條ノ規定ニ依リ處分、第九條ノ規定ニ依リ輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依リ資金ノ融通若ハ有價證券ノ發行、引受若ハ買入ノ命令又ハ第十六條ノ規定ニ依リ設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

昭和十三年五月四日勅令第三百十七號ハ南洋群島ニ於ケル國家總動員ニ關スル條件ナリ

臨時農地等管理令施行規則

(昭和十六年二月一日公布 農林省令第十一號即日施行)

第一條 臨時農地等管理令(以下令ト稱ス)第三條及第五條ノ許可ノ申請ハ當該農地ノ面積ガ五千坪ヲ超ユル場合又ハ當該農地ガ二府縣以上ニ渉ル場合ニ於テハ農林大臣ニ之ヲ爲スベシ

第二條 令第三條及第五條ノ許可ハ一構建築物又ハ同一ノ事業若ハ施設ノ爲ノ工作物其ノ他ノ設備ノ用地ニ共セラルル一團ノ農地ニ付之ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 令第三條ノ許可ノ申請ハ左ノ各號ノ一ニ該當セザル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但シ已ムヲ得ザル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 當該農地ヲ耕作以外ノ目的ニ共セントスル事業又ハ施設ガ時局ニ緊要ナラザルモノナルトキ

二 當該農地ヲ耕作以外ノ目的ニ共スルコトニ因リ附近ノ農地又ハ作物ニ著シク被害ヲ及ボス虞アルトキ又ハ當該農地ノ耕作者ノ生活ノ安定ヲ著

シク害スル虞アルトキ

三 當該農地ガ國又ハ道府縣ノ助成ヲ受ケ造成又ハ改良セラレタルモノ又ハ農地調整法ノ規定ニ依リ自作農創設維持事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタルモノナルトキ

第四條 前條ノ申請ヲ爲サントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ當該農地ノ在ル道府縣ノ地方官(第一條ノ場合ニ於テハ農林大臣)ニ提出スベシ

一 申請人ノ姓名、住所及職業(法人ニ在リテハ名稱、主たる事務所ノ所在地、業務ノ種類並ニ代表者ノ氏名及住所)

二 當該農地ノ所在地番、地目(土地臺帳ノ地目ガ土地ノ現況ト異ナルトキハ土地臺帳ノ地目及現況ニ依リ地目以下同ジ)及面積並ニ利用狀況及普通收穫高

三 當該農地ヲ耕作以外ノ目的ニ共セントスル事業又ハ施設ノ概要及建築物其ノ他ノ工作物ヲ設置セントスル場合ニ於テハ其ノ規模ノ概要

四 當該農地ヲ耕作以外ノ目的ニ供セ

五 當該農地ヲ耕作以外ノ目的ニ供スルコトニ因リ附近ノ農地又ハ作物ニ及ボスコトアルベキ被害ノ防除施設ノ概要

六 當該農地ノ耕作者ノ離作ニ對シ探ラントスル處置

七 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第五條 令第四條第二號及第六條第二號ノ處分ハ別表ニ掲グルモノトス

第六條 令第四條第五號ノ場合ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 當該農地ノ面積五十坪以下ナルトキ

二 當該農地ガ燒畑又ハ切替畑ナルトキ

三 當該農地ガ耕地整理其ノ他土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル爲ニ耕作以外ノ目的ニ供セラルトキ

四 當該農地ガ土地區劃整理ヲ施行シタルモノ又ハ施行中ノモノナルトキ

五 天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ一時當該農地ヲ耕作以外ノ目的ニ供セントスル場合ニ於テ令第三條ノ許可ヲ受クル暇ナキトキ

第七條 令第五條ノ許可ノ申請ハ左ノ各號ノ一ニ該當セザル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但シ已ムヲ得ザル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 第三條各號ノ一ニ該當スルトキ

二 所有權、賃借權、地上權其ノ他ノ權利ヲ取得シタル後相當期間内ニ當該農地ガ一定ノ目的ニ供セラルル見込ナキトキ

第八條 前條ノ申請ヲ爲サントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ當該農地ノ在ル道府縣ノ地方長官(第一條ノ場合ニ於テハ農林大臣)ニ提出スベシ

一 第四條各號ノ事項

二 當該農地ニ付所有權、賃借權、地上權其ノ他ノ權利ヲ有スル者ノ氏名住所及職業(法人ニ在リテハ名稱、主たる事務所ノ所在地、業務ノ種類並ニ代表者ノ氏名及住所)

第九條 令第六條第四號ノ場合ハ第六條第一號乃至第四號ノ一ニ該當スル場合トス

第十條 令第七條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ協議シ又ハ承認ヲ受クベキ事

項左ノ如シ

一 當該農地ノ所在地番、地目及面積並ニ利用狀況及普通收穫高

二 當該農地ヲ耕作以外ノ目的ニ供セントスル事業又ハ施設ノ概要並ニ時期及期間

三 當該農地ヲ耕作以外ノ目的ニ供スルコトニ因リ附近ノ農地又ハ作物ニ及ボスコトアルベキ被害ノ防除施設ノ概要

四 當該農地ノ耕作者ノ離作ニ對シ探ラントスル處置

第十一條 令第七條第三項ノ規定ニ依リ同條第一項ノ規定ニ依ル協議又ハ承認ヲ要セザル場合ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 都市計畫法第三條ノ規定ニ依ル決定ヲ爲サントスルトキ

二 令第七條第一項第一號又ハ第二號ニ該當スル場合ニ於テ其ノ事業又ハ施設ガ既ニ都市計畫法第三條ノ規定ニ依ル決定又ハ令第七條第一項第三號若ハ第四號ノ規定ニ依ル協議若ハ承認ヲ經タルモノナルトキ

三 令第七條第一項第一號ニ當該スル場合ニ於テ既ニ同條同項第二號ノ規

定ニ依ル協議又ハ承認ヲ經タルモノナルトキ

四 令第七條第一項第三號ニ該當スル場合ニ於テ既ニ令第五條ノ規定ニ依リ農林大臣ノ許可ヲ受ケタルモノナルトキ又ハ令第七條第二項第二號ノ規定ニ依リ農林大臣ノ承認ヲ受ケタルモノナルトキ

五 法令ニ依リ測量、検査、工事等ノ爲ニ一時他人ノ土地ヲ使用スルコトニ付許可ヲ爲サントスルトキ

六 天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ一時當該農地ヲ耕作以外ノ目的ニ供セントスル場合ニ於テ令第七條第一項ノ規定ニ依ル協議ヲ爲シ又ハ承認ヲ受クル暇ナキトキ

第十二條 令第七條第三項ノ規定ニ依リ同條第二項ノ規定ニ依ル承認ヲ受クルコトヲ要セザル場合ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 第五條ニ掲グル處分ニ依リテ爲ス事業又ハ施設ノ爲ニ當該農地ヲ使用シ又ハ當該農地ノ所有權、賃借權、地上權其ノ他ノ權利ヲ取得セントスルトキ

二 土地收用法其ノ他ノ法令ニ依リ農地又ハ之ニ關スル權利ヲ收用又ハ使用シタル場合ニ於テ當該收用又ハ使用ニ係ル農地ヲ其ノ目的ニ供シ又ハ土地收用法其ノ他ノ法令ニ依リ農地又ハ之ニ關スル權利ヲ收用又ハ使用セントスルトキ

三 令第七條第二項第一號ニ該當スル場合ニ於テ既ニ同條同項第二號ノ規定ニ依ル承認ヲ受ケタルモノナルトキ

四 天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ一時當該農地ヲ耕作以外ノ目的ニ供セントスル場合ニ於テ令第七條第二項ノ規定ニ依ル承認ヲ受クル暇ナキトキ

第十三條 令第八條第二項(令第九條ノ規定ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ基キテ爲ス命令ハ令書ヲ發シテ之ヲ爲スベシ

第十四條 令第八條第三項(令第九條ノ規定ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ規定スル協議調ヒタルトキハ當事者連署ノ上契約書ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出サベシ

第十五條 令第八條第三項(令第九條ノ規定ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケントスルトキハ左ノ事由ヲ記載シタル申請書ノ正本ニ相手方ノ員數ニ相當スル數ノ副本ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ提出スベシ

一 申請人及相手方ノ氏名、住所及職業(法人ニ在リテハ名稱、主たる事務所ノ所在地、業務ノ種類並ニ代表者ノ氏名及住所)

二 申請ノ目的及事由

地方長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ副本ヲ相手方ニ送付シ其ノ指定スル期間内ニ答辯書ヲ差出サシムベシ前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サザルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リテ裁定ヲ爲スコトヲ得

第十六條 地方長官必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ職權ヲ以テ裁定ヲ爲スコトヲ得

第十七條 地方長官裁定ヲ爲シタルトキハ裁定書ニ理由ヲ附シ當事者ニ送付スベシ

第十八條 令第九條ノ規定ニ依リ令第八條ノ規定ヲ準用スルコトヲ得ル土地ハ

法令又ハ法令ニ基ク處分ニ依リ耕作ヲ爲スコトヲ得ザル土地ヲ除クノ外一定ノ用途ニ供スルコトヲ放シテララル土地ニシテ耕作ノ目的ニ供スルコトヲ得ルモノトス

第十九條 令第十條第二項ノ規定ニ依リ地方長官ガ作付ヲ命ズルコトヲ得ル農作物ノ種類ハ農林大臣之ヲ指定ス

第二十條 令第十一條第二項ノ規定ニ依リ地方長官ガ意見ヲ聽クコトヲ要スルモノハ道府縣農會又ハ府道縣ニ於ケル經濟更生ニ關スル事項ヲ調査審議スル機關トス

第二十一條 令第十條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ因ル損失ノ補償ヲ請求セントスル者ハ損失ノ生ジタル日ヨリ六月以内ニ損失補償請求書ヲ當該農地ノ在ル市町村ノ市農會又ハ町村農會ヲ經由シ地方長官ニ提出スベシ

地方長官損失補償請求書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ附シ農林大臣ニ之ヲ申達スベシ

第二十二條 損失補償請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
一 當該農地ノ所在地番、地目及面積

二 當該農地ノ所有者、賃借人、永小作人其ノ他權原ニ基キ農地ヲ耕作スルコトヲ得ル者ノ氏名及住所(法人ニ在リテハ名稱、主たる事務所ノ所在地、業務ノ種類並ニ代表者ノ氏名及住所)

三 補償請求事由
四 補償請求額
五 其ノ他必要ト認ムル事項

前項ノ損失補償請求書ニハ損失補償額算出明細書ヲ添附スベシ
第二十三條 令第十四條第二項ノ規定ニ依リ證明書ハ別記様式ニ依ル

第二十四條 本則ノ規定ニ依リ農林大臣ニ提出スベキ書類ハ道府縣ヨリ提出スルモノヲ除クノ外地方長官ヲ經由スベシ

附則
本令ハ臨時農地等管理令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(別表)
左ニ掲グル法令ノ規定ニ基ク處分

アルコル專賣法第七條及第三十二條
運河法第二條、第三條第二項、第五條及第九條
汚物排除法施行規則第二十四條ノ規定ニ依リ農府署ノ定メタル命令
河川法第九條、第十條第一項、第十一條第一項、第十

七條、第十八條、第十九條、第二十條、第二十二條第三十八條、第四十五條、第四十六條第一項及第二項、花柳病預防法第二條第一項
瓦斯事業法第五條及第六條第二項
軌道法第五條第一項及第八條第一項
救護法第七條
漁業法第三十三條及第三十七條第二項
軍用電氣通信法第七條ノ三、第七條ノ六及第七條ノ七
輕金屬製造事業法第三條第一項、第六條及第十八條
貯蓄法第六條
下水法第二條及第十一條
建築法第七十二條第一項及第七十四條第一項
航空法第二十一條、第二十三條ノ二第二項、第二十三條ノ三第一項及第二十四條第一項
航空圖製造事業法第二條、第五條第二項及第十七條第一項
工作機械製造事業法第三條第一項、第六條、第十九條第二項及第二十條
新地墾法第三條第一項、同條第二項、同條第三項第五十條及第五十四條第一項
國庫通信株式會社法第二條、第十二條第一項及第十二條ノ五
國立公園法第四條第二項、同條第三項、第八條第二項及第九條第一項
砂防法第八條及第二十九條
砂防法第十六條ノ三
舊金法第三條第一項、第六條及第八條第一項
史蹟名勝天然紀念物保存法第四條第一項
鹽務法第二條第二項

自動車交通事業法第六條第二項、第七條、第十一條第一項、第十一條、第十六條ノ五、第十九條第一項、第二十一條、第二十五條、第二十六條及第三十一條第二項

自動車製造事業法第三條第一項、第十三條、第十六條第二項及第十七條
重要礦物増産法第二條第三項、第三條、第十四條及第十六條第一項

人造石油製造事業法第二條第一項、第十三條、第十六條第二項及第十七條
水道條例第二條、第三條、第四條第二項、第八條及第二十一條

鹽務法第二條第一項、第五條、第二十條第二項及第二十一條
石油業法第一條第一項、第二條及第七條第二項
石油資源開發法第八條第一項

造船事業法第二條及第十五條第一項
地方國道法第十一條、第十三條、第十六條、第十七條第二項及第二十三條第二項

中央卸賣市場法第二條、第四條、第五條及第十七條
帝國國營電氣株式會社法第二十三條及第二十四條
電氣事業法第四條第一項
電信總局設置條例第三條第一項
電力管理法第四條第一項
都市計畫法第三條

尾道法第二條
道路法第二十一條乃至第二十四條、第二十六條、第五十一條第一項、第五十二條及第五十三條
度量衡法第六條
日本產金振興株式會社法第二十四條及第二十五條

一項
日本產金振興株式會社法第二十四條
農業倉庫法第六條
肥料取締法第二條第一項
不良住宅地區改良法第四條及第七條第一項
保險所法第三條第三項
牧野法第一條ノ八
無線電氣法第二條、第七條及第二十八條ノ三
有線合線事業法第三條第一項、第六條、第十八條第二項及第十九條
鹽務法第五條
陸上交運事業法第二條
礦業アンモニア増産及配給統制法第七條第一項及同條第二項
臨時資金調致法第四條及第四條ノ二
明治四年太政官布告第六百四十八號
河川墾定地制限令第四條及第五條
河川附近地制限令第一條及第四條
大正二年內務省令第六號第十三號
軌道法施行規則第十一條
乘運事業規則第四條、第二十三條及第三十九條
私設電信規則第四條及第六條
私設無線電信規則第五條
專用鐵道規則第二條及第十條
地方鐵道法施行規則第十七條及第二十五條
度量衡法施行規則第十條
渡送用私設無線電信規則第七條
保險所法施行規則第一條
墓地及埋葬取除規則第一條
水產物總檢製規則第一條、第二條、第五條及第六條

〔第十九條關係〕 價格等統制令施行規則中改正

(昭和十六年一月二十日公布
附令第一號即日施行)

第十五條ニ左ノ一號ヲ加フ
九 輸出品及輸出品用原材料配給統制規則(昭和十五年商工省令第六六號)

第一條ノ規定ニ依リ統制機關ノ指定輸出品ノ買受價格、販賣價格及統制機關ガ指定輸出品ノ輸出ノ委託ヲ爲ス場合ニ於ケル統制機關ノ指定輸出品用材料ノ買受價格、販賣價格及配給機關ノ指定輸出品用材料ノ輸入ノ委託ヲ爲ス場合ニ於ケル受託者ノ配給機關ヨリノ受託領價格

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】
昭和十四年十月十號令第十三號價格等統制令施行規則抄錄
昭和十五年十二月三號令第二號價格等ハ
第十五條 統制令第十二條第三號ニ掲グル價格等ハ

左ニ掲グルモノトス
(左記略ス)

(昭和十六年一月二十五日公布)
附則第二號即日施行

第二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ申請書ニシテ主務大臣ニ提出スベキモノハ主務大臣特ニ定ムルモノヲ除クノ外地方長官ヲ經由スベシ

第十五條ニ左ノ一號ヲ加フ

十 昭和十五年商工省令第百十五號

(南洋ニ對スル貿易ノ調整ニ關スル件) 第一條ノ規定ニ依ル輸出調整機關ノ指定輸出品ノ買受價格、販賣價格及輸出調整機關ガ指定輸出品ノ輸出ノ委託ヲ爲ス場合ニ於ケル輸出調整機關ノ受領價格並ニ同令第八條ノ規定ニ依ル輸入調整機關ガ指定輸入品ノ輸入ノ委託ヲ爲ス場合ニ於ケル受託者ノ輸入調整機關ヨリノ受領價格

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】

昭和十四年十月十日閣令第十三號價格等統制令施行規則抄録

第二條 前條ノ申請書ニシテ主務大臣ニ提出スベキモノハ氏名又ハ名稱、住所又ハ主務大臣事務所ノ所在地及業務ノ種類並ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ主務大臣(主務大臣特ニ定メタルトキハ地方長官)ニ提出スベシ

(左記略ス)

前項ノ申請書ニシテ主務大臣ニ提出スベキモノハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外地方長官ヲ經由スベシ
第十五條 統制令第十二條第三條ニ掲グル價格等ハ左ニ掲グルモノトス
(左記略ス)

同

(昭和十六年五月二十九日公布)
附則第十三號即日施行

價格等統制令施行規則中左ノ通改正ス
第十一條中「乘道事業規則(昭和二年逓信省令第三十六號)」ノ次ニ「蠶絲業統制法」ヲ加フ

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】

昭和十四年十月十日閣令第十三號價格等統制令施行規則抄録

第十一條 統制令第六條第二項ノ規定ニ依リ法令ヲ定ムルコト左ノ如シ
(左記略ス)

臨時農地價格統制令

(昭和十六年一月三十日公布)
勅令第九號二月一日施行

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ)第十九條ノ規定ニ基ク農地ノ價格ニ關スル統制ハ宅地建物等價格統制令第五條第一項後段及第六條ノ場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於テ農地トハ耕作ノ目的ニ供セラルル土地ヲ謂フ

第三條 農地ノ價格ハ當該農地ノ地租法ニ依ル賃貸價格ニ農林大臣ノ定ムル率ヲ乘ジテ得タル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ農地ノ讓渡人又ハ讓受人ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

農林大臣前項ノ率ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス

第一項ノ規定ニ依ル處分ハ前項ノ規定

ニ依ル告示アリタル際現ニ農地ニ付存スル讓渡契約ニシテ當該農地ニ付既ニ讓受人ノ權利ニ關スル登記アリタルモノ又ハ當該農地ノ引渡ヲ完了シタルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第四條 地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農林大臣ノ認可ヲ受ケ區域ヲ指定シ前條ノ率ニ代ルベキ率ヲ定ムルコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ前條ノ率ニ代ルベキ率ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス
前項ノ規定ニ依リ告示アリタルトキハ告示セラレタル率ヲ以テ前條ノ率ト看做ス

第一項ノ規定ニ依ル處分ハ第二項ノ規定ニ依ル告示アリタル際現ニ農地ニ付存スル讓渡契約ニシテ當該農地ニ付既ニ讓受人ノ權利ニ關スル登記アリタルモノ又ハ當該農地ノ引渡ヲ完了シタルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第五條 地租法ニ依ル賃貸價格ナキ農地ヲ讓渡ス場合ニハ其ノ價格ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ讓渡人又ハ讓受人ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テハ農地ノ價格ハ同項ノ規定ニ依リ認可アリタル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ

第六條 地方長官ハ第三條第一項但書ノ規定ニ依リ許可又ハ前條第一項ノ規定ニ依リ認可ニ關スル處分ニシテ重要ナルモノニ付テハ道府縣農地委員會ノ意見ヲ聽キ之ヲ爲スコトヲ要ス地方長官第四條第一項ノ規定ニ依リ第三條ノ率ニ代ルベキ率ヲ定メントスルコトキ亦同ジ

第七條 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第三條又ハ第五條ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第八條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ農地ノ價格ニ關シ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ農地其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ其ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證書ヲ携帯セシムベシ

第九條 第三條及第四條ノ規定ハ樺太及南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

第六條ハ規定ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

本令中地租法ニ依ル賃貸價格トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官ト在ルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

附則
本令ハ昭和十六年度二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第五條ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ農地ニ付存スル讓渡契約ニシテ當該農地ニ付既ニ讓受人ノ權利ニ關スル登記アリタルモノ又ハ當該農地ノ引渡ヲ完了シタルモノニ付テハ之ヲ適用セズ

【巻頭】

昭和十三年四月法律第五十五號國家總動員法
抄録
第十九條 政府ハ戰時ニ關シ國家總動員法上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、賃賃料又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第三十一條 政府ハ國家總動員法上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ或ハ該場所ニハ必要ナル其ノ他ノ物件ヲ査査セシムルコトヲ得
昭和十三年五月四日勅令第三百十七號ハ南洋群島ニ於ケル國家總動員ニ關スル件ナリ

臨時農地價格統制令施行規則

(昭和十六年一月三十日公布)
(農林省令第十號二月一日施行)

第一條 臨時農地價格統制令(以下令ト稱ス)第三條第一項但書ノ許可ノ申請ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
一 地租法又ハ耕地整理法ニ規定スル減租年期ヲ有スル農地ニシテ其ノ現況ニ比シ地租法ニ依ル賃賃價格ガ著シク低額ナルトキ

二 地租法ニ依ル賃賃價格決定後當該農地ニ付著シキ改良ヲ爲シタルトキ
三 當該農地ガ耕作以外ノ目的ニ供セラルル爲(建物所有ノ目的ニ供セラルル場合ヲ除ク)讓渡セララルトキ
四 當該農地ニ果樹、桑樹、茶樹其ノ他毛上アルトキ
五 其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキ
第二條 前條ノ申請ヲ爲サントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ當該農地ノ在ル道府縣ノ地方長官ニ提出スベシ
一 申請人及讓渡又ハ讓受ノ相手方ノ氏名、住所及職業(法人ニ在リテハ其ノ名稱、主たる事務所ノ所在地、業務ノ種類並ニ代表者ノ氏名及住所)
二 當該農地ノ所在地番、地目(土地臺帳ノ地目ガ土地ノ現況ト異ルトキハ土地臺帳ノ地目及現況ニ依ル地目)及面積
三 許可ヲ受ケントスル事由ノ詳細
四 當該農地ノ賃賃價格並ニ減租年期アル場合ニ於テハ其ノ年期ノ始期及終期
五 當該農地ノ地味、水利及交通ノ良否並ニ利用狀況

六 當該農地ノ普通收穫高並ニ小作地ナル場合ニ於テハ小作料ノ種別及額又ハ率
七 當該農地ガ永小作地ナル場合ニ於テハ永小作權ノ價格
八 當該農地ニ付小作權賣買ノ慣習アル場合ニ於テハ其ノ價格
九 當該農地ノ讓渡後ニ於ケル使用目的
十 當該農地ノ讓渡又ハ讓受ノ原因及價格
十一 價格ノ支拂又ハ受領ノ方法其ノ他讓渡又ハ讓受ニ關スル條件
十二 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
第三條 地方長官ガ令第四條第一項ノ規定ニ依リ令第三條ノ率ニ代ル率ヲ定ムルコトヲ得ル場合左ノ如シ
一 區域内ノ農地ガ地租法又ハ耕地整理法ニ規定スル減租年期ヲ有スル農地ナルトキ
二 前號ノ外令第三條ノ率ニ依ルコトガ不適當ト認メラルトキ
第四條 令第五條第一項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ第二條第一號乃至第三號及

第五號乃至第十二號ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ當該農地ノ在ル道府縣ノ地方長官ニ提出スベシ
第五條 令第三條第一項但書ノ許可又ハ令第五條第一項ノ認可ハ讓渡人又ハ讓受人ノ何レカ一方ニ於テ之ヲ受クルヲ以テ足ル
第六條 令第八條第二項ノ規定ニ依ル證明ハ別記様式ニ依ル
附 則
本令ハ臨時農地價格統制令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時農地價格統制令第三條第一項ノ規定ニ依ル率ヲ定ムルコト左ノ如シ

Table with columns for region (e.g., 北海道, 東北), land type (e.g., 農地ノ在ル地), and interest rate percentages. Includes sub-headers for '改正' and '率'.

Table listing specific prefectures and cities (e.g., 岩手縣, 青森縣, 岩手縣) with corresponding interest rate percentages.

關京熊竹中興加何天船北南相續久字乙萬愛京彦大高伊東
知都野野謝佐鹿田井桑桑樂喜世治調野宕府根津島香井
山市郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡

三三二二二二二二二二二二二二二二三三三三三三二二三 三三二二二
〇五七七七七七七七七五七〇〇〇〇〇〇〇〇五〇 八七七六六

三四二二二二三三三二二二二三三三四四四四四 三三二二二
五五七七七七〇〇〇〇七五七二五〇〇〇〇〇〇〇〇 六五七五三

多加美明有川武庫吹池布豊岸堺大北中南泉泉豊三大阪東舞
可東囊石馬邊庫縣田田施中和田阪河河河南北能島府鶴
郡郡郡郡郡郡市市市市市市市市市市市市市市市市市市市

三二二四三三四 四四四四四四四四四四四四四四四 三三三
〇四九〇四九二 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

四二四五二三五 六六六六六六六六六六六六六六六六六 三五五
二六〇〇四七〇 六四四四四四四四四四四四四四四四四四四四四四

洲飾西明尼姫神三墳多氷美朝養出城尖佐赤揖神飾印加加
本磨宮石崎路戶原名紀上方末父石崎粟用穗保崎磨南古西
市市市市市市郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡

三三四四四三三四三三四二二三三三三三三三二二三二二三二
九〇二二一〇二九九九九三四五五九四八八七八八五〇九一八

四三五五四三五四三二二三三三三三三三四三二二三二二三三五二
八五〇〇三五〇八五七七四〇九七五〇四二〇九九七七六

二七五

葉丹西東愛 三熱清沼濱靜引濱磐岡小榛志安庵富駿田實
栗羽春日知縣島海水津松岡佐名田智笠原太倍原士東方茂
郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡

四三四四四 四三三三三三三三三三三二二二三三二二三三三三四二
〇八〇〇八 〇五五五五五五〇五九四一一五一四五四〇九

四四五四五 四五五五五五三三四三二三四三四四四四四四
〇五〇五〇 八五五〇〇五八〇三三五四〇四四四〇八二

河鈴三員桑 三 半瀬一岡豊名八温寶南北東西頓幡碧知海
藝鹿重辨名縣田戶宮崎橋古屋名美飯設設加加田豆海多部島
郡郡郡郡郡 市市市市市市市郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡

三三三三三 四四四四四五三四四三三三三三四四四四四
三〇五〇八 〇〇三五八〇六〇八三〇〇二八三二〇〇三

三三四三四 五三四四四五三五五三三三三四四四五三五
七六六三六 〇〇三五八〇五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

坂犬愛神滿甲野栗滋 滋 桑松字四津南北志名阿度多飯一安
田上知崎生賀洲太賀縣名阪山田市 牟牟康賀山會氣南志濃
郡郡郡郡郡郡郡郡郡 市市市市市郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡

二二二二二二二二二 五一五五五三二二二二二二二二三
八九九九八九九九 〇七〇〇〇四五八七八六六四八〇

二三二二二二三二二 五二五五四四四四二二三三二二三
三〇九九九六〇七九 〇〇〇〇四五〇四六六〇〇七〇〇

二七四

山 三福尾吳廣比隻甲神蘆深沼世御登賀高山安佐安 廣 玉津
縣原山道 鳥婆三叔石品安隈羅調田茂田縣佐伯藝縣野山
市市市市市郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡 市市

三四四五五三三三三三三三三三三三三二二二三三三 三三
七二〇〇〇三三二〇五五五二四四四九八四三四 二〇

四四四五五三三三三三三三三三三三三四三二二三三三三 三二
〇〇〇〇五二二三七四四五〇五〇四四二四四八 五七

德 海那勝名島小岩下防德萩山字下阿大美豐厚吉佐都熊玖大
郡賀浦東縣野田國松府山 口部關武津福浦狹敷波濃尾珂島
郡郡郡郡 市市市市市市市市市郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡

二二四四 二三三三三三三三三三三三三三三三二二二二三三五四
〇八〇〇 五〇五〇〇〇五五〇四〇〇五五八四〇五五〇

二三三四 二三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三五三三
七〇五八 〇五八八八五〇〇五〇五八五〇〇五八三五八

愛 伊上字新周越溫媛丸高三仲綾香小木大 香 德三美麻阿板名
縣浮摩居桑智泉縣龜松豐 度 歌川豆田川縣島好馬植波野西
郡郡郡郡郡郡 市市郡郡郡郡郡郡郡 市郡郡郡郡郡郡

二三三四二二二 四四三三三三三三三三三三三三三三三三三三
七一三〇七七 三五八八八八七八四 〇二〇八八八八

四五三三五四三 四四四四四四六四三 四三三三三四三
四〇四五七二四 〇〇〇〇〇〇〇〇六 五五五五五二五

二七七

海新和東西日有伊那海和歌奈吉字南北高宇嶺山生添 奈 伊
南宮 歌牟牟高田郡賀草縣良野智葛葛 市陀城邊胸上縣丹屋
市市市郡郡郡郡郡郡郡 市郡郡郡郡郡郡郡郡 市市

三三四二二三三三四三三 三三三三三三三三三三三三三三 三四
八八二一〇四八〇二二 五五三一〇四一三一〇 九二

五五五二三四四三四五 三四三二二二二二二二二二二二二 三五
〇五五八八一〇〇五〇 五二四三三二六五五五七 七〇

鳥 知禮周鹿美那邑通安簸飯大仁能八 鳥 米鳥日西東氣八岩
夫地吉足濃賀智摩濃川石原多義東縣子取野伯伯高頭美
郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡 市市郡郡郡郡郡

四四四二二二二二二二二二三二二三二二 二二二二二二三三三
〇〇〇四八三二五六二七九〇六二 五五二二五六八一

三三三三三二二三二四二二三二二 二二二二四四三三
五五五七七九九〇八〇八八〇八三 〇二〇六三三七七

岡 倉岡久英勝苦真阿川上吉後小淺都兒上邑和赤御 岡 濱松海
敷山米田田田庭哲上房備月田口窪鳥道久氣磨津縣田江士
市市郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡 市市郡

三四三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三
八〇一〇〇一三九四三二二二二二二二二二二二二二二二二二二二
三〇〇一 二三四

三四三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三
五〇二三九二二三九三二五五七一三一三〇〇九 二三五
九八五

二七六

當該官廳指定ノ職員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏洩スルハ罰金五圓以上十圓以下ノ懲役ニ處ス
昭和十三年五月四日勅令第三百十七號ハ南洋羣島ニ於ケル國家總動員ニ關スル件ナリ

〔第四十四條關係〕

國家總動員法第四十四條ノ規定ニ依ル
全畫院指定ノ總動員業務ニ關スル官廳
ノ機密左ノ如シ

(昭和十六年三月十七日
內閣告示第二號)

件名	指定年月日
昭和十四年度物資總動員 計畫中ノ軍需額	昭和十五年三 月一日
昭和十四年度輸入額中ノ 軍需額	昭和十五年三 月一日
昭和十五年度物資動員計 畫中ノ軍需額	昭和十五年七 月八日
昭和十五年度第三、四半 期物資動員實施計畫中ノ 軍需額	昭和十五年七 月十八日
昭和十五年度第四、四半 期物資動員實施計畫中ノ 軍需額	昭和十五年十 二月十七日
昭和十六年度第一、二半 期物資動員實施計畫中ノ 軍需額	昭和十六年一 月二十日

三 財政經濟政策ノ遂行ニ重大ナル支
障ヲ生ズル虞アル事項

第四條 前二條ノ制限又ハ禁止ニ違反シ
タル新聞紙其ノ他ノ出版物ノ發賣及領
布ノ禁止並ニ其ノ差押及其ノ原販ノ差
押ハ内閣總理大臣之ヲ行フ

第五條 本令中内閣總理大臣トアルハ朝
鮮、臺灣、樺太、又ハ南洋羣島ニ在リ
テハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長
官又ハ南洋廳長官トス

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十三年四月一號法律第五十五號國家總動員法
抄録

第二十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アル
トキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ新聞紙其ノ他ノ出版
物ノ發賣ニ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得
政府ハ前項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル新聞紙其
ノ他ノ出版物ニシテ國家總動員上支障アルモノノ
發賣及領布ヲ禁止シ之ヲ差押アルコトヲ得此ノ場
合ニ於テハ併セテ其ノ原販ヲ差押アルコトヲ得

第四十四條 總動員業務ニ從事シタル者其ノ業務遂
行ニ關シ知得シタル官廳官廳指定ノ職員業務ニ
關スル官廳ノ機密ヲ漏洩又ハ濫用シタルトキハ二
年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者職務上知得シタル

第三百十七號ニ於テ彼の場合ヲ合メ以
下同ジ)第二十條第一項ノ規定ニ基テ
新聞紙其ノ他ノ出版物ノ發賣ニ付テハ
制限又ハ禁止、同條第二項ノ規定ニ基
テ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ發賣及領布
ノ禁止並ニ其ノ差押及其ノ原販ノ差押
ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ハ
之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スル
コトヲ禁ズ

一 國家總動員法第四十四條ノ規定ニ
依リ當該官廳ノ指定シタル總動員業
務ニ關スル官廳ノ機密

二 軍機保護法ノ規定ニ依ル軍事上ノ
秘密

三 軍用資源秘密保護法ノ規定ニ依ル
軍用資源秘密

第三條 内閣總理大臣ハ左ノ各號ノ一ニ
該當スル事項ニ付示達ヲ以テ新聞紙其
ノ他ノ出版物ニ對スル掲載事項ノ制限
又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

一 外交ニ關シ重大ナル支障ヲ生ズル
虞アル事項

二 外國ニ對シ秘密スルコトヲ要スル
事項

追 録

(昭和十六年六月十五日ヨリ
八月十日迄ノ發布法令)

國家總動員法關係

國民職業能力申告令中改正
ノ件

(昭和十六年六月十八日令
第七百九號)

第四條第一項中「第二條第一號ノ職業ニ
從事スル者」ヲ「職業ニ從事スル者」ニ
改メ第十三號乃至第十五號ヲ制リ第十六
號ヲ第十三號トス

第六條第二項中「申告義務者ハ」ノ下ニ
「十四日以内ニ」ヲ加フ

第十六條ヲ第十七條トシ第十七條ヲ第十
八條トス

第十六條 要申告者(第二條第六號ニ該
當スル者ヲ除ク)ニ付國民勞務手續法
施行令第一條、同令附則第二項又ハ昭

和十六年勅令第七百五號附則第二項ノ
規定ニ依ル申請アリタルトキハ第四條
第一項ノ規定ニ依ル申告アリタルモノ
ト看做ス

要申告者(第二條第六號ニ該當スル者
ヲ除ク)ニ付國民勞務手續法施行令第
十四條、第十六條、第二十條又ハ第二
十一條第一項ノ規定ニ依ル報告アリタ
ルトキハ第四條第二項又ハ第六條ノ規
定ニ依ル申告アリタルモノト看做ス

附 則
本令中第十六條第一項ノ規定ハ昭和十六
年七月二十一日ヨリ、其ノ他ノ規定ハ同
年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十四年一月七號令第五號國民職業能力申告
令抄録

第四條第一項
帝國臣民要申告者(第十一條ノ規定ニ該當スル者

ヲ除ク)タルニテ又ハ第十一條ノ規定
ニ該當スル要申告者ニシテ申告シ居ラザルモノ
同條ノ規定ニ該當セザルニテ又ハ第十一條ノ規定
ハ十四日以内ニ左ニ掲グル事項(職業ノ場所一
定セザル者ニ付テハ第八號ニ掲グル事項ヲ除ク)
ヲ要申告者方第二條第一號ノ職業ニ從事スル者
ト看做ス又ハ其ノ他ノ者ナル場合ニ在リテハ其ノ
官ノ居住地ヲ管轄スル職權所長ニ申告スベシ
申告ヲ爲シタル後ニ於テ要申告者方内地、朝鮮、
臺灣、樺太又ハ南洋羣島ノ何レカノ地域ヨリ他ノ
地域ニ居住ノ場所ヲ移シタル場合ニ於テ其ノ地域
ニ於テ仍要申告者タルトキ亦同ジ

十三 配偶者ノ有無及親ニ扶養スル者ノ數

十四 精神又ハ身體ノ障礙ニ因リ勞務ニ堪ヘ難キ
者ニ在リテハ其ノ狀况

十五 總動員業務從事ニ關スル希望

第六條 申告シ居ル要申告者左ノ各號ノ一ニ該當ス
ルニ至リタルトキハ申告義務者ハ十四日以内ニ其
ノ目前ニ申告ヲ爲シタル職權所長ニ申告スベ
シ

二 第十一條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキ
前項第二號ノ規定ニ依ル申告ヲ爲シタル後ニ於テ
要申告者第十一條ノ規定ニ該當セザルニ至リタル
トキハ申告義務者ハ第四條ノ職權所長ニ其ノ
旨申告スベシ

昭和十六年六月十四日勅令第七百五號ハ國民勞務手
續法及國民勞務手續法施行令ノ事關ニ關スル特別
ノ件ナリ

製鐵用輸入原料配給等統制令改正ノ件

(昭和十六年七月一日公布勅令第七百三十二號即日施行)

製鐵用輸入原料配給等統制令中左ノ通改正ス

第一條第二項中「滿洲ニ於テ生産セラレタルモノヲ除ク」ヲ削ル

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】

昭和十五年七月三日勅令第四百五十五號製鐵用輸入原料配給等統制令抄録

第一條第二項

本令ニ於テ「滿洲原料トハ鐵屑、銑屑(滿洲ニ於テ生産セラレタルモノヲ除ク)及鐵屑ヲ指ス

貿易統制令施行規則中改正

(昭和十六年七月七日公布 農林省令第十號即日施行)

第十條ノ二 關稅定率法別表輸入稅表ニ掲グル物品ニシテ商工大臣ノ指定シタルモノ(以下指定物品ト稱ス)ハ商工大臣ノ指定シタル者(以下調整機關ト稱ス)ヨリ買受ケ若ハ輸出ノ委託ヲ受

ケ又ハ輸出ノ承認ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ關東州、滿洲及支那以外ノ地域ニ輸出スルコトヲ得ズ但シ前條第三號又ハ第四號ニ掲グル場合及特別ノ事情ニ依リ商工大臣ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條中「前條」ヲ「前二條」ニ改ム

第十一條ノ二 調整機關ハ指定物品ニ付商工大臣ノ定ムル數量又ハ金額ノ限度ヲ超エテ賣渡シ若ハ輸出ノ委託ヲ爲シ又ハ輸出ノ承認ヲ爲スコトヲ得ズ

第十一條ノ三 調整機關ハ指定物品ノ買受、販賣、輸出ノ委託及輸出ノ承認ニ關スル規程ヲ定メ商工大臣ノ承認ヲ受ケベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ調整機關ハ前項ノ規定ニ依リ商工大臣ノ承認ヲ受ケタル規程ニ依ルニ非ザレバ指定物品ノ買受、販賣、輸出ノ委託又ハ輸出ノ承認ヲ爲スコトヲ得ズ

又ハ輸出ノ承認ヲ爲スコトヲ得ズ

商工大臣必要アリト認ムルトキハ第一項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第十一條ノ四 前條第一項ノ規程ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 買受手續、販賣手續、輸出委託手續及輸出承認手續ニ關スル事項

二 買受價格、販賣價格、委託輸出價格及輸出承認ノ基準タル輸出價格ニ關スル事項

三 販賣、輸出ノ委託及輸出ノ承認ノ條件ニ關スル事項

四 其ノ他必要ナル事項

第十一條ノ五 商工大臣緊急ノ必要アリト認ムルトキハ第十條ノ許可ヲ受ケタル者又ハ第十條ノ二ニ掲グル者若ハ同條但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケタル者ニ對シ當該物品ニ付其ノ輸出ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトアルベシ

商工大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ物品ノ輸出地ヲ管轄スル稅關長ヲシテ前項ノ輸出ノ制限又ハ禁止ヲ爲サシムルコトアルベシ

第十四條中「之ヲ」ノ下ニ「輸出地ヲ管轄スル稅關」ヲ經由シテ」ヲ加フ

第十九條ノ二 第十條ノ二ニ掲グル者當該指定物品ヲ輸出セントスルトキハ調整機關ヨリ買受ケ若ハ輸出ノ委託ヲ受ケ又ハ輸出ノ承認ヲ受ケタルコトヲ證明スル書面ヲ當該稅關又ハ郵便局ニ提示スベシ

第十條ノ二 但書ノ規定ニ依ル承認ヲ

(左記略ス)

第十一條 前條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル物品ノ輸出ニ付テハ之ヲ適用セズ

(左記略ス)

第十四條 第十條ノ許可ヲ受ケントスル書ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル輸出許可申請書ニ註文アリタルコトヲ證明スル書面ヲ添附シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

(左記略ス)

第十條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 第十條ノ二ノ規定ニ依ル指定物品ヲ關東州、滿洲及支那以外ノ地域ニ輸出スルトキ

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】
昭和十六年六月十日 農林省令第九號貿易統制令施行規則抄録

第十條 關稅定率法別表輸入稅表ニ掲グル物品ニシテ商工大臣ノ指定シタルモノハ商工大臣ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二 輸出品及輸出品用原料製鐵用統制規則第一條ノ規定ニ依ル製鐵用原料買受ケ又ハ輸出ノ委託ヲ受ケタル指定輸出品ヲ輸出スルトキ

小麥粉等製造配給統制規則

(昭和十六年七月十一日公布 農林省令第五十八號七月十五日施行)

第一條 生活必需物資統制令ニ依ル小麥粉ノ製造及配給竝ニ小麥粉原料トスル物品ノ製造ノ統制ニ付テハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本則ノ定ムル所ニ依ル

第二條 小麥粉ノ製造ヲ業トスルモノニシテ農林大臣ノ指定スルモノ(以下指定小麥粉製造業者ト稱ス)ハ其ノ製造シタル小麥粉ヲ農林大臣ノ指定スル者(以下中央小麥粉配給機關ト稱ス)以外ノ者ニ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲スコトヲ得ズ

中央小麥粉配給機關ハ其ノ取扱フ小麥粉ノ配給計畫ヲ定メ農林大臣ノ認可ヲ受ケベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

農林大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ配給計畫ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第三條 中央小麥粉配給機關ハ地方長官ノ指定スル者(以下地方小麥粉配給機

官ノ承認ヲ受クベシ
 地方長官前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ公示ス
 第五條 道府縣農會前條第二項ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該計畫ニ基キ關係出有團體ニ對シ必要ナル指圖ヲ爲スベシ出有團體前項ノ指圖ヲ受ケタルトキハ之ニ從フベシ
 第六條 地方長官當該道府縣ニ於ケル青果物ノ需給調整上特ニ必要アリト認ムルトキハ青果物ノ種類ヲ定メ道府縣農會ニ對シ當該青果物ノ出荷先、出荷數量、出荷時期、出荷方法其ノ他出荷ニ關シ必要ナル計畫ヲ定ムベキコトヲ命ズルコトヲ得
 第七條 農林大臣ノ指定シタル青果物ハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外青果物ノ種類毎ニ地方長官ノ指定シタル地區ニ付地方長官ノ指定シタル出荷團體ニ非ザレバ之ヲ當該地區ヨリ出荷スルコトヲ得ズ

一 地方長官ノ許可ヲ受ケタル者ガ其ノ指定シタル數量ノ範圍内ニ於テ出荷スル場合
 二 一日正味八貫ヲ超エザル數量ノ青果物ヲ出荷スル場合
 三 第九條第一項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタルモノガ同條第二項ノ規定ニ依リ買受ケタル青果物ヲ出荷スル場合
 四 特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合
 第八條 地方長官第四條第二項又ハ第六條第一項ノ計畫ノ實施上必要アリト認ムルトキハ市農會又ハ町村農會ニ對シ其ノ會員ノ關係出荷團體ニ對スル當該青果物ノ供出ニ關シ必要ナル統制ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得
 第九條 農林大臣青果物ノ配給統制上特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル資格ヲ有スル者ニ對シ買入ヲ爲スベキ青果物ノ種類、數量、買入期間其ノ他買入ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトアルベシ
 青果物生産者若ハ販賣ノ目的ヲ以テ青果物ヲ占有スル者又ハ此等ノ者ノ團體

ハ其ノ所有シ又ハ占有スル當該青果物ニ付前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者ヨリ價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ定ムル最高販賣價格ニ依ル買入ノ申込アリタルトキハ其ノ申込ニ應ジ之ヲ賣渡スベシ
 第十條 農林大臣ノ指定シタル地域（以下指定消費地域ト稱ス）内ニ青果物ヲ搬入スル者又ハ指定消費地域内ニ於テ生産セラレタル青果物ヲ販賣スル者ハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外其ノ搬入シ又ハ販賣スル青果物ヲ當該指定消費地域ニ付農林大臣ノ指定シタル荷受機關（以下指定荷受機關ト稱ス）以外ノ者ニ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲スコトヲ得ズ
 一 第七條第一號ノ許可ヲ受ケタル者ガ當該地方長官ノ指定シタル數量ノ範圍内ニ於テ搬入シタル青果物ヲ販賣スル場合
 二 當該指定消費地域ノ地方長官ノ許可ヲ受ケタル者ガ其ノ指定シタル數量ノ範圍内ニ於テ販賣スル場合
 三 青果物ノ生産者ガ出荷團體ニ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ爲ス場合

四 當該指定消費地域ノ指定荷受機關ヨリ買受ケタル青果物ヲ販賣スル場合
 五 一日正味五貫ヲ超エザル數量ノ青果物ヲ販賣スル場合
 六 特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合
 七 其ノ他農林大臣ノ指定シタル場合
 第十一條 指定荷受機關ハ其ノ取扱フ青果物ノ配給計畫ヲ定メ農林大臣ノ承認ヲ受クベシ
 農林大臣青果物ノ配給統制上特ニ必要アリト認ムルトキハ指定荷受機關ニ對シ青果物ノ配給先、配給數量、配給時期、配給方法其ノ他配給ニ關シ一般ニ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ一般ニ必要ナル時期其ノ他必要ナル事項ヲ定メ青果物ノ寄託若ハ保有ヲ命ズルコトアルベシ
 第十二條 指定荷受機關ハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外當該指定消費地域ニ付農林大臣ノ指定シタル市場（以下指定市場ト稱ス）外ニ於テ其ノ取扱フ青果物ヲ販賣スルコトヲ得ズ
 一 前條第一項ノ承認ヲ受ケタル配給

計畫又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ基キ當該指定消費地域外ニ出荷スル場合
 二 特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合
 第十三條 業務上青果物ノ使用若ハ消費ヲ爲ス者又ハ其ノ團體ニシテ指定消費地域内ニ住所、居所、營業所、事業場又ハ事務所ヲ有スルモノハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外當該指定消費地域内ニ所在スル青果物ノ販賣ヲ爲ス者ノ販賣場以外ヨリ當該指定消費地域内ニ於テ使用シ又ハ消費スル青果物ヲ買受クル（買入ノ委託ヲ爲ス場合ヲ含ム以下同ジ）コトヲ得ズ
 一 一日正味三貫ヲ超エザル數量ノ青果物ヲ買受クル場合
 二 特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合
 三 其ノ他農林大臣ノ指定シタル場合
 第十四條 地方長官青果物ノ配給統制上必要アリト認ムルトキハ指定荷受機關ノ指定市場ヨリ青果物ノ買受ヲ爲スコトヲ得ル者ヲ指定シ又ハ當該指定消費地域ニ於テ青果物ノ小賣ヲ爲ス者ニ對

シ青果物ノ配給先、配給數量若ハ配給方法ニ關シ一般ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 第十五條 農林大臣ノ指定シタル青果物ハ船用品、郵便物又ハ正味一貫ヲ超エザルモノヲ除クノ外農林大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ内地以外ノ地域ニ搬出スルコトヲ得ズ
 農林大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ搬出ヲ爲スコトヲ得ル者ヲ指定スルコトアルベシ
 第十六條 前條第一項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ農林大臣ニ提出スベシ
 一 種類及數量
 二 仕向地及仕向港又ハ仕向驛
 三 積出港又ハ積出驛
 四 搬出時期
 前條第一項ノ許可ヲ受ケタル者前項第二號乃至第四號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ之ヲ農林大臣ニ届出ヅベシ
 第十七條 農林大臣又ハ地方長官青果物ノ配給統制上特ニ必要アリト認ムルト

其他

外國人關係取引取締規則

(昭和十六年七月二十八日公布 大藏省令第四十六號即日施行)

キハ左ニ掲グル者又ハ其ノ團體ニ對シ青果物ノ讓渡、讓受、寄託、保有、移動、保管、使用又ハ消費ニ關シ一般のニ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

一 青果物ノ生産ヲ爲ス者

二 青果物ノ販賣又ハ販賣ノ委託ヲ爲ス者

三 業務上青果物ノ使用又ハ消費ヲ爲ス者

四 青果物ノ保管ヲ爲ス者

第十八條 農林大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ前條各號ニ掲グル者又ハ其ノ團體ニ付必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ市場、事業場、店舗、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

生活必需品統制令第十四條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年農林省令第五十六號青果物配給統制規則ハ之ヲ廢止ス

第一條 本令ニ於テ指定國トハ大藏大臣ノ指定スル外國ヲ謂フ

前項ノ規定ニ依リ指定シタルトキハ大藏大臣之ヲ告示ス

第二條 本令ニ於テ指定國人トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 指定國ノ國籍ヲ有スル人(日本ノ國籍ヲ有スル本邦居住者ヲ除ク)

二 大藏大臣ノ指定スル者

前項第二號ノ規定ニ依リ指定シタルトキハ大藏大臣之ヲ告示ス

第三條 本令ニ於テ指定國法人トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 指定國並ニ指定國ノ行政區畫、公同團體及此等ニ準ズルモノ

二 指定國ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人

三 指定國ノ法令ニ依リ設立セラレタ

ル法人ニシテ前各號ニ該當セザルモ

第四條 本令ニ於テ指定國系法人トハ指定國法人以外ノ法人ニシテ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 指定國法人又ハ指定國人ガ資本金ノ二分ノ一以上ヲ占ムルモノ

二 指定國法人又ハ指定國人ガ前號以外ノ關係ニ於テ經營ヲ支配スルモノ

三 指定國人、指定國法人、第一號ニ該當スルモノ又ハ前號ニ該當スルモノガ資本金ノ二分ノ一以上ヲ占ムルモノ又ハ其ノ他ノ關係ニ於テ經營ヲ支配スルモノニシテ前各號ニ該當セザルモノ

四 前各號ニ掲グルモノ以外ノ法人ニシテ指定國內ニ於テ事業又ハ營業ヲ爲スコトヲ主たる目的トスルモノ

五 大藏大臣ノ指定スルモノ

前項第五號ノ規定ニ依リ指定シタルトキハ大藏大臣之ヲ告示ス

第五條 本令ニ於テ指定國居住者トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 指定國ニ住所又ハ居所ヲ有スル人ニシテ指定國人以外ノモノ

二 法人(指定國法人及指定國系法人ヲ除ク)ノ支店其ノ他ノ營業所ニシテ指定國ニ在ルモノ

第六條 本令ニ於テ指定外國人トハ指定國人、指定國法人、指定國系法人又ハ指定國居住者ヲ謂フ

第七條 本令ニ於テ外國系本邦法人トハ本邦法人ニシテ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 外國法人又ハ外國人ガ資本金ノ二分ノ一以上ヲ占ムルモノ

二 外國法人又ハ外國人ガ前號以外ノ關係ニ於テ經營ヲ支配スルモノ

三 外國人、外國法人、第一號ニ該當スルモノ又ハ前號ニ該當スルモノガ資本金ノ二分ノ一以上ヲ占ムルモノ

又ハ其ノ他ノ關係ニ於テ經營ヲ支配スルモノニシテ前各號ニ該當セザルモノ

第八條 本令ニ於ケル動産ニハ本邦通貨外國通貨及有價證券(有價證券ニ準ズルモノヲ含ム以下同ジ)ヲ含マズ

第九條 指定外國人ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テ左ニ掲グル財産ノ取得又ハ處分ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第十條乃至第十三條又

ハ第二十條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 不動産又ハ永代借地權

二 價格百圓相當額以上ノ動産

三 地上權、地役權又ハ不動産買戻權

四 質權、又ハ低當權

五 債權、砂利權、魚業權又ハ森林伐採權

六 工業所有權、著作權又ハ此等ニ準ズルモノ

七 事業、營業又ハ事業若ハ營業ニ對スル出資(有價證券ヲ除ク)

八 內國爲替以外ノ價格二十圓相當額以上ノ有價證券(本邦內旅行ノ爲ノ乗車券、乗船券及此等ニ準ズルモノヲ除ク以下同ジ)

九 內國爲替

十 外國通貨

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第一號乃至第十號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第十條 指定外國人ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テ左ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第十三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル

場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 外貨債權又ハ邦貨債權ノ處分(相殺ノ場合ヲ含ム)

二 邦貨債權ノ讓受

三 債務ノ引受

四 債務ノ保證

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第十一號又ハ第十二號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第十一條 指定外國人ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テ左ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第十三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 不動産、本邦通貨、外國通貨、價額百圓相當額以上ノ動産又ハ價額二十圓相當額以上ノ有價證券ノ寄託ヲ爲シ又ハ寄託ヲ受ケタルコト

二 前號ニ掲グルモノニシテ寄託ヲ爲シタルモノノ返還ヲ受ケ又ハ寄託ヲ受ケタルモノノ返還ヲ爲スコト

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第十三號又ハ第十四號ニ依リ許可申請書ヲ提出ス

第十二條 指定外國人ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テ不動産、債額百圓相當額以上ノ動産又ハ債額二十圓相當額以上ノ有價證券ノ貸借、轉貸借又ハ質借權ノ取得若ハ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第十五號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第十三條 指定外國人ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テ左ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

- 一 貸付金ノ貸付又ハ回収
- 二 借入金ノ借入又ハ返済
- 三 預ケ金ノ預入又ハ引出
- 四 預リ金ノ受入又ハ拂戻

前項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第十六號乃至第十九號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第十四條 指定外國人ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テ一箇月ヲ通ジ五百圓（法人以外ノ場合ハ世帯毎ニ五百圓）以上ノ本邦通貨

ヲ取得又ハ處分スルコトヲ得ズ但シ取得又ハ處分ノ原因ト爲ルベキ行爲ニ付第九條乃至第十三條又ハ外國爲替管理法施行規則ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル行爲ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ本邦内ニ於テ振出サレ本邦内ニ在ル銀行ヲ支拂人トスル當座小切手ニシテ本邦内ニ於テ支拂ハルモノハ本邦内ノ支拂ノ手段トシテ使用セラルル場合ニ限り之ヲ本邦通貨ト看做ス

第一項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第二十號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第十五條 指定外國人ハ第九條乃至第十四條ノ規定ニ拘ラズ左ニ掲グル場合ハ第九條乃至第十四條ノ規定ニ掲グル行爲ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ要セズ

- 一 本邦公租公課其ノ他之ニ準ズルモノノ支拂ヲ爲ス爲ニ必要ナルトキ
- 二 本邦内ニ居住スル本邦人タル使用人其ノ他ノ從業者ニ對シ俸給給與其ノ他之ニ準ズルモノノ支拂ヲ爲ス爲ニ必要ナルトキ

三 大藏大臣ノ指定スル場合ニ該當スルトキ

前項第三號ノ指定ニ依リ指定シタルトキハ大藏大臣之ヲ告示ス

第十六條 外國爲替管理法施行規則第十條第一號乃至第十三條、第十三條第一項但書、第十六條第一項但書、第十九條第一項但書、第二十四條第一項但書、第二十五條、第二十六條、第二十七條、第三十條、第三十二條第一項第一號乃至第四號、第三十三條第二項、第三十八條第一項但書、第四十四條第一項第一號、第四十五條第一項第一號、第四十九條第二項、第五十條第一項第一號、第五十五條第一項第二號、第五十六條第二項第四號、第五十七條第一項第一號、第五十八條第一項第二號乃至第四號、第六十三條第一項第一號乃至第四號、同條第二項、第六十四條第一項第一號乃至第三號、第六十五條第一項但書、第六十八條、第六十九條第一項第六號、第七十七條及第九十九條第二項ノ規定ハ指定外國人ニ之ヲ適用セズ

但シ大藏大臣ノ指定スル場合ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ指定シタルトキハ大藏大臣之ヲ告示ス

第十七條 第九條乃至第十四條及第十六條ノ規定ハ指定外國人ノ爲ニ又ハ指定外國人ヲ相手方トシテ第九條乃至第十四條ニ掲グル行爲並ニ第十六條ノ規定ニ於テ指定外國人ニ對シ適用ヲ除外セラレタル外國爲替管理法施行規則ノ規定ニ掲グル行爲ヲ爲ス者（指定外國人ヲ除ク）ニ之ヲ準用ス但シ指定外國人ヲ相手方トスル行爲ニシテ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 本邦ノ公租公課其ノ他之ニ準ズルモノヲ受領スル爲ニ必要ナルトキ
- 二 大藏大臣ノ指定スル場合ニ該當スルトキ

前項第二號ノ規定ニ依リ指定シタルトキハ大藏大臣之ヲ告示ス

第十八條 第十五條ノ規定ハ指定外國人

ノ爲同條ニ掲グル行爲ヲ爲ス者（指定外國人ヲ除ク）ニ之ヲ準用ス

第十九條 指定外國人以外ノ者ハ外國爲替管理法施行規則第十三條第一項但書ノ規定ニ拘ハラズ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テ外國爲替銀行ニ對シ指定外國人ヲ支拂人トスル外國爲替又ハ指定國向輸出貨物ニ關スル外國爲替ヲ賣却スルコトヲ得ズ但シ大藏大臣ノ指定スル場合ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ指定シタルトキハ大藏大臣之ヲ告示ス

第二十條 第一項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第二十一號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第二十一條 大藏大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ指定外國人ノ爲ニ本令施行地内ニ於テ財産ノ保有若ハ管理ヲ爲シ又ハ之ヲ廢止スルコトヲ得ズ但シ第十一條（第十七條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ又ハ大藏大臣ノ指定スル場合ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前條但書ノ規定ニ依リ指定シタルトキ

ハ大藏大臣之ヲ告示ス

第一項ノ行爲ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスル者ハ本令附屬申請書式第二十二號ニ依リ許可申請書ヲ提出スベシ

第二十二條 第一條ノ規定ニ依リ大藏大臣外國ヲ指定シタル日以後外國爲替管理法施行規則ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル行爲ノ全部又ハ一部ヲ爲シ居ラザルトキハ該許可ハ其ノ範圍ニ於テ效力ヲ失フ

前項ノ規定ハ指定外國人ノ爲ニ又ハ指定外國人ヲ相手方トシテ行爲ヲ爲ス者ノ該行爲ニ付外國爲替管理法施行規則ノ規定ニ依リ受ケタル許可ニ之ヲ準用ス

第二十三條 第一條ノ規定ニ依リ大藏大臣外國ヲ指定シタル日以後指定外國人ヨリ本令施行地内ニ在ル財産ヲ取得シタル者（本邦居住者及指定外國人ヲ除ク）ハ之ヲ指定外國人ト看做ス但シ該

附屬ニ關スル行爲以外ノ行爲ヲ爲ス場
合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ規定ハ指定外國人ヨリ本令施行
地内ニ在ル財產ヲ取得シタル者又ハ其
ノ相手方タル指定外國人ガ本令又ハ外
國爲管理法施行規則ノ規定ニ依リ許
可ヲ受ケ又ハ許可ヲ要セズシテ該財產
ヲ取得又ハ處分シタル場合ハ之ヲ適用
セズ

第二十四條 指定外國人ハ其ノ所有スル
財產等ニ關シ第一條ノ規定ニ依リ大藏
大臣外國ヲ指定シタル日ニ於ケル現在
高ニ付其ノ日以後二週内ニ本令附屬
報告書式第一號ニ依リ大藏大臣ニ報告
スベシ指定外國人ノ爲本令施行地内ニ
於テ財產ヲ保有又ハ管理スル者其ノ財
產ニ關シ亦同ジ

前項ニ掲グル者ハ毎月前項ノ財產等ノ
増減ノ内容及月末ニ於ケル現在高ヲ本
令附屬報告書式第一號ニ依リ大藏大臣
ニ報告スベシ
前項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲ス者ハ前項
ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタル財產ニ付
テハ外國爲管理法施行規則第九十八
條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲スコトヲ要セ

第二十五條 指定外國人ニ對シ債權若ハ
債務ヲ有シ又ハ出資ヲ爲シ居レル者及
指定外國人ヨリ出資ヲ受ケ居レル者ハ
其ノ債權、債務又ハ出資ニ付第一條ノ
規定ニ依リ大藏大臣外國ヲ指定シタル
日ニ於ケル現在高ヲ其ノ日以後二週内
ニ本令附屬報告書式第二號ニ依リ大
藏大臣ニ報告スベシ

前項ニ掲グル者ハ毎月其ノ債權、債務
又ハ出資ノ増減ノ内容及月末ニ於ケル
現在高ヲ本令附屬報告書式第二號ニ依
リ大藏大臣ニ報告スベシ

第二十六條 指定外國人ノ爲ニ又ハ指定
外國人ヲ相手方トシテ行爲ヲ爲シタル
者ハ該行爲ニ關シ毎月本令附屬報告書
式第三號ニ依リ大藏大臣ニ報告スベシ
但シ指定外國人ノ爲本令施行地内ニ於
テ財產ヲ保有又ハ管理スル者第二十四
條ノ規定ニ依リ報告ヲナシタル場合ハ
此ノ限ニ在ラズ

第二十七條 外國爲管理法施行規則附
屬報告書式第十九號準則第二號及第五
號(報告書式第五十三號準則ニ於テ準
用スル場合ヲ含ム)、報告書式第二十

四號準則第二號及第三號(報告書式第
二十五號準則ニ於テ準用スル場合ヲ含
ム)、報告書式第二十五號準則但書後段
報告書式第二十六號準則第二號及第四
號(報告書式第二十七號及第五十三號
準則ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、報告
書式第二十七號準則第一號但書及第二
號(報告書式第五十三號準則ニ於テ準
用スル場合ヲ含ム)、報告書式第二十八
號準則第二號及第四號(報告書式第二
十九號及第五十三號準則ニ於テ準用ス
ル場合ヲ含ム)、報告書式第二十九號
準則第一號但書及第二號(報告書式第
五十三號準則ニ於テ準用スル場合ヲ含
ム)、報告書式第三十號準則第二號及
第四號(報告書式第三十一號及第五十
三號準則ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、
報告書式第三十一號準則第一號但書及
第二號(報告書式第五十三號準則ニ於
テ準用スル場合ヲ含ム)、報告書式第
三十二號準則第二號及第四號(報告書
式第三十三號及第五十三號準則ニ於テ
準用スル場合ヲ含ム)、報告書式第三
十三號準則第一號但書及第二號(報告
書式第五十三號準則ニ於テ準用スル場

合ヲ含ム)、報告書式第三十四號準則

第二號(報告書式第五十三號準則ニ於
テ準用スル場合ヲ含ム)、報告書式第
三十五號準則第二號(報告書式第五十
三號準則ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)
並ニ報告書式第四十號準則第二號ハ指
定外國人ニ之ヲ適用セズ

第二十八條 外國爲管理法ニ基キテ發
スル命令ニ依リ提出スベキ許可申請書
又ハ報告書中ニ外國人、外國法人又ハ
外國系本邦法人ノ氏名又ハ商號ヲ記載
スル場合ニハ左ノ事項ヲ適宜ノ箇所ニ
記載スベシ

一 外國人ニ在リテハ其ノ國籍、國籍
ヲ有セザル者ニ在リテハ其ノ旨
二 外國法人ニ在リテハ其ノ設立準據
法令及本店又ハ主たる事務所ノ所在
地

三 指定國系法人タル外國法人ニ在リ
テハ前號ニ掲グル事項及其ノ資本關
係又ハ支配關係ノ内容
四 外國系本邦法人ニ在リテハ其ノ資
本關係又ハ支配關係ノ内容
第二十九條 大藏大臣ハ必要アルトキハ
本令ニ定ムル行爲ノ制限ヲ免除スルコ

トヲ得

第三十條 大藏大臣ハ必要アルトキハ本
令ニ定ムルモノノ外報告ヲ徵シ又ハ本
令ニ定ムル報告ヲ免除シ若ハ報告ノ期
間ヲ延長スルコトヲ得
第三十一條 外國爲管理法施行規則第
九十六條、第一百條及第一百三條ノ規定
ハ本令ノ規定ニ依リ許可申請又ハ報告
ニ關シ之ヲ準用ス
附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

戰時經濟法令集 第八輯

昭和十六年九月十五日印刷
昭和十六年九月十八日發行

定價 壹圓四拾錢
送料 十二錢

編輯兼發行人 野澤義朗
東京市日本橋區本石町三ノ二

印刷人 堀修造
東京市牛込區榎町七番地

印刷所 大日本印刷株式會社
東京市牛込區榎町七番地

發行所 東洋經濟新報社
東京市日本橋區本石町三ノ二

配給元 日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二ノ九

— 房 書 蹊 桃 —

錄 目 書 刊 新

上林 著	徳永 直著	日夏秋之介著	マルコフ原著 堀川寛一譯	小寺融吉著	吉江喬松著	津久井龍雄著
悲 <small>(小説集)</small>	作家と生活 <small>(隨筆集)</small>	黄眠文學隨筆 <small>(隨筆集)</small>	ソ聯の演劇 <small>(隨筆集)</small>	郷土舞踊と盆踊 <small>(民俗誌)</small>	寂光集 <small>(自然文學小品集)</small>	文化と政治 <small>(評論集)</small>
(新刊)	(新刊)	(新刊)	(新刊)	(新刊)	(新刊)	(新刊)
價三B 七六 二〇 三〇 頁上	價三B 三三 二〇 二〇 頁上	價五B 九六 三〇 二〇 頁上	價二B 四六 一〇 三〇 頁上	價三B 六六 二〇 〇〇 頁上	價五B 〇六 二〇 五〇 頁上	價二B 六六 一〇 七〇 頁上

750

41



